

はじめに

岡山県立大学・岡山県立大学短期大学部
評価委員会

委員長（学長） 三宮 信夫

少子化とグローバル化の波を受けて、日本の国公立の各大学は、いま同じ土俵の上で行われる競争の渦の中にあるといえます。このとき、各大学はその戦いに生き残るため、時代の変化と社会の多様なニーズを敏感に受け止め、それをそれぞれの人材育成システムの構築に反映させなければなりません。そのために、学生の立場に立った教育改革を迅速に実現することが求められます。具体的には、多様な学生を受け入れ、彼らに育成すべき人材像を明確に示し、入り口から出口に至る一貫した人材育成戦略に基づいた教育を実践し、卒業時には、社会で活躍できる能力を身につけさせて、学生を社会に送り出すことが必要です。特に公立大学は、苦しい財政基盤のもとでも地域における知の拠点として、地域の活性化に貢献できる人材を育成する責務を担っています。

「人間尊重と福祉の増進」を建学の理念として平成5年に開学以来、早や14年が過ぎ去りました。この間、高等教育機関として学内組織の整備を図り、それに伴う教育活動の充実に努めてまいりました。これまでの教育活動の成果は、平成16年度及び17年度に刊行した「教育年報」にまとめられています。その年報には、ほとんどすべての開講科目で実施した本学の授業評価アンケートの分析が示されています。この分析結果より、「授業評価測定尺度」が提案されていますが、この尺度は今後各教員の授業改善の参考になるものと思われま

す。本学は、平成19年度より地方独立行政法人制度を導入し、新たな出発点を迎えます。その中期目標に示されているように「人間・社会・自然の関係性を重視する実学を創造し、地域に貢献する」ことを基本理念として、本学は新しい時代を切り拓く実践力のある人材の育成をめざしています。本年度の教育活動の成果の一つは、文部科学省の「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」に保健福祉学部の「実践的チームガバナビリティ育成教育」が採択されたことでしょうか。これを一つの契機として、今後も教育改善を続け、更なる発展に努めたいと考えております。

今後とも皆様のご支援・ご協力をお願いする次第です。

目 次

| | |
|--------------------------------|----|
| 第1章 学生の受入れ | 1 |
| 1. アドミッションポリシー | 1 |
| 1.1 アドミッションポリシーの明文化 | 1 |
| 1.2 アドミッションポリシーの広報 | 1 |
| 1.2-1 オープンキャンパス | 1 |
| 1.2-2 県内高等学校との意見交換会 | 2 |
| 1.2-3 高大連携協定に基づく講師派遣等 | 3 |
| 2. 学生の受入れ | 4 |
| 2.1 募集人員と選抜方法 | 4 |
| 2.1-1 募集人員 | 4 |
| 2.1-2 選抜方法 | 4 |
| 2.1-3 第3年次編入学 | 7 |
| 2.2 実施結果 | 8 |
| 2.2-1 一般選抜 | 8 |
| 2.2-2 推薦に基づく選抜 | 9 |
| 2.2-3 第3年次編入学 | 9 |
| 3. 学生の在籍状況 | 11 |
| 4. まとめ | 13 |
| 第2章 教育活動 | 14 |
| 1. 人材育成像 | 14 |
| 2. カリキュラム編成 | 15 |
| 3. 教育実施体制 | 16 |
| 3.1 教員組織 | 16 |
| 3.2 運営体制 | 16 |
| 3.2-1 第3常任委員会 | 16 |
| 3.2-2 教務専門委員会 | 16 |
| 3.2-3 全学教育研究機構 | 17 |
| 3.2-4 学部内の運営体制 | 17 |
| 4. 教育内容・方法 | 19 |
| 4.1 教育課程 | 19 |
| 4.1-1 カリキュラムの体系性 | 19 |
| 4.1-2 履修の体系性 | 19 |
| 4.1-3 履修登録の上限設定 | 19 |
| 4.1-4 学外における学習活動 | 20 |
| 4.1-5 単位互換 | 20 |
| 4.2 授業形態および学習指導法 | 20 |
| 4.2-1 授業形態の組み合わせ，バランス，学習指導法の工夫 | 20 |

| | | |
|-------|------------------------|----|
| 4.2-2 | シラバス | 21 |
| 4.2-3 | 現代的教育ニーズ取組支援プログラムへの採択 | 21 |
| 4.3 | 成績評価と卒業認定 | 23 |
| 4.3-1 | 成績評価 | 23 |
| 4.3-2 | 卒業認定 | 23 |
| 4.4 | 高校教育との接続 | 23 |
| 4.4-1 | 入学前の教育（推薦に基づく選抜合格者） | 23 |
| 4.4-2 | 入学後の教育 | 23 |
| 5. | 海外語学研修 | 25 |
| 5.1 | 英国語学研修 | 25 |
| 5.2 | 韓国語学研修 | 26 |
| 5.3 | 中国語学研修 | 27 |
| 5.4 | 海外語学研修の課題 | 28 |
| 6. | 学内共同教育施設および附属図書館 | 29 |
| 6.1 | 語学センター | 29 |
| 6.1-1 | 語学教育の改訂 | 29 |
| 6.1-2 | CALL 教室の開設と e-ラーニングの導入 | 30 |
| 6.1-3 | 学生支援 | 31 |
| 6.1-4 | TOEIC IP テスト | 32 |
| 6.1-5 | イベントの開催 | 33 |
| 6.1-6 | 情報発信 | 35 |
| 6.1-7 | 今後の課題 | 36 |
| 6.2 | 情報教育センター | 38 |
| 6.2-1 | 情報処理演習教育の改訂 | 38 |
| 6.2-2 | 情報処理演習室 | 38 |
| 6.2-3 | 学内ネットワークシステムの構築と運用管理 | 38 |
| 6.2-4 | 自主学習の支援 | 39 |
| 6.3 | 附属図書館 | 40 |
| 6.3-1 | 概要 | 40 |
| 6.3-2 | 利用状況 | 40 |
| 6.3-3 | 相互協力 | 42 |
| 7. | FD 活動 | 43 |
| 7.1 | 授業参観の企画 | 43 |
| 7.2 | 授業参観の実施 | 43 |
| 7.3 | 今後の課題 | 46 |
| 8. | 学生による授業評価 | 47 |
| 8.1 | 授業評価の目的と実施方法 | 48 |
| 8.1-1 | 目的 | 48 |
| 8.1-2 | 実施方法 | 48 |
| 8.2 | 平成 17 年度後期授業評価の結果 | 49 |

| | |
|------------------------------------|----|
| 8.2-1 アンケートの回収と統計解析法 | 49 |
| 8.2-2 アンケート結果の概要 | 49 |
| 8.3 平成 18 年度前期授業評価の結果と過去 3 年間の解析結果 | 54 |
| 8.3-1 アンケートの回収と統計解析法 | 54 |
| 8.3-2 アンケート結果の概要 | 54 |
| 8.4 学生による授業評価の現状と課題 | 60 |
| 9. まとめ | 62 |
| | |
| 第 3 章 学生支援 | 63 |
| 1. 概要 | 63 |
| 2. 学習支援 | 63 |
| 2.1 履修指導 | 63 |
| 2.2 自学・自習環境の整備 | 63 |
| 2.2-1 ハード面の整備 | 63 |
| 2.2-2 ソフト面の整備 | 63 |
| 3. 生活支援 | 64 |
| 3.1 経済的支援 | 64 |
| 3.1-1 授業料免除 | 64 |
| 3.1-2 奨学金・アルバイトの斡旋 | 64 |
| 3.2 学生相談 | 64 |
| 3.2-1 学生相談室 | 64 |
| 3.2-2 オフィスアワー，アドバイザー制度等 | 66 |
| 3.3 健康管理 | 66 |
| 4. 就職支援 | 69 |
| 4.1 就職相談・指導体制 | 69 |
| 4.1-1 全学的な取組み | 69 |
| 4.1-2 学部・学科ごとの取組み | 69 |
| 4.2 平成 18 年度卒業生の就職内定状況 | 73 |
| 5. 課外活動の支援 | 74 |
| 5.1 学友会活動 | 74 |
| 5.2 自主学習組織に対する活動支援 | 74 |
| 6. 学生意見の取り入れ | 75 |
| 6.1 キャンパスマネージャ | 75 |
| 6.2 学生生活アンケート | 76 |
| 6.2-1 概要 | 76 |
| 6.2-2 実施方法 | 76 |
| 6.2-3 マークシート式アンケートによる結果の概要 | 77 |
| 6.2-4 自由記述アンケートのまとめ | 80 |
| 7. まとめ | 81 |

| | |
|-----------------------------|-----|
| 第4章 卒業・進路等の状況 | 82 |
| 1. 卒業と進路の状況 | 82 |
| 2. 資格等の取得状況 | 83 |
| 2.1 看護師，保健師，助産師，管理栄養士，社会福祉士 | 83 |
| 2.2 工業英検 | 84 |
| 3. 学生・クラブの表彰 | 85 |
| 3.1 学生個人の活動に対する表彰 | 85 |
| 3.2 サークル活動等に対する表彰 | 86 |
| 4. 卒業時アンケート | 87 |
| 4.1 平成17年度卒業時アンケート | 87 |
| 4.2 卒業時アンケートの妥当性・信頼性に関する検討 | 88 |
| 4.3 卒業時アンケートの今後のあり方 | 90 |
| 5. 就職先による卒業生評価 | 91 |
| 6. まとめ | 92 |
| 編集後記 | 93 |
| 付録 | |
| A1. アドミッションポリシー | 94 |
| A2. カリキュラム（平成18年度入学生用） | 99 |
| A3. 委員会等協議事項 | 117 |
| A3.1 第3常任委員会 | 117 |
| A3.2 教務専門委員会 | 118 |
| A3.3 全学教育研究機構教授会 | 120 |
| A4. 学生生活アンケートの集計結果 | 123 |
| A5. 卒業時アンケートの集計結果（平成17年度） | 134 |

第1章 学生の受入れ

1. アドミッションポリシー

1.1 アドミッションポリシーの明文化

本学では、大学院設置が一段落した平成15年度に、開学以降の教育研究、社会貢献活動の成果を振り返り、教育研究の理念を「人間・社会・自然の関係性を重視する実学を創造し、地域に貢献する」と定めた。これをもとに、平成16年度に、教育目的、教育目標、ならびに、アドミッションポリシーを明文化し公表した。本学のアドミッションポリシーは次のとおりである。学部・学科のものは付録A1を参照されたい。

今後は、アドミッションポリシーに基づく学生確保と入学後の教育がなされているか否かについて、たとえば、入口～出口（学生の受入れ～卒業時の状況）に至るプロセスを調査することによって検証する予定である。

| 岡山県立大学のアドミッションポリシー |
|--|
| 岡山県立大学は、保健福祉学部、情報工学部、デザイン学部の3学部からなり、「人間尊重と福祉の増進」を建学の理念として、平成5年に設立されました。教育研究の理念を「人間・社会・自然の関係性を重視する実学を創造し、地域に貢献する」ことに置き、この理念に基づく人材の育成をめざしています。したがって、求める学生像を次のとおり定めています。 <ul style="list-style-type: none">●人間・社会・自然について幅広く学び、それらの関係性を探求したい学生●実学を身につけ、国内外の幅広い分野で社会貢献したい学生●新技術の創出に意欲を持ち、地域と世界へ向けて情報発信したい学生 |

1.2 アドミッションポリシーの広報

本学の人材育成像やアドミッションポリシーの広報は、高校生向けの冊子「大学案内」、
「大学のWeb」、ならびに、以下に示す「オープンキャンパス」、「県内高等学校との意見交換会」、
「高大連携協定に基づく講師派遣等」、などにより精力的に行われている。その他、
新聞社主催の「進学ガイダンス」への参加（職員派遣6回、県外資料参加18箇所）、受験
雑誌等への掲載がある。さらに、平成18年度からの学科の新設・再編に伴う県内高等学校
に対する個別の訪問活動が挙げられる。

1.2-1 オープンキャンパス

高校生に、本学の教育研究や社会貢献活動を広報する最大の機会と捉え、例年8月初旬
に実施している。平成18年度の実施状況は、表1.1-1のとおりである。実施後のアンケート
結果の概要を以下にまとめる。

[参加者のプロフィール]

(1)学年別；1年生9.2%，2年生22.6%，3年生62.5%。

(2)居住地； 全学的に見ると，県内 76.1%，県外 22.3%である．ただし，デザイン学部は県外からの参加が 40%弱である．

(3)男女別； 男子 16.5%，女子 79.0%（不詳 4.5%）である．

[参加の動機]

「本学への進学希望」が約 53%，「教育内容を知りたい」が約 37%であり，この 2 つが大きな動機と見なせる．

[参加者による評価]

「大変参考になった」が 62%，「ある程度参考になった」が 36%であり，両者を合わせると一定の成果を挙げていると見なせよう．しかし，「さらに聞きたかったこと」の問いに対する回答は，「特色・他大学との違い」が 37%，「教育内容」と「学生生活」がいずれも 36%，「卒業後の進路」が 34%，「入試方法」が 24%である．したがって，受験生が知りたいことを，よりの確に把握し，オープンキャンパスのさらなる充実を図る必要がある．

表1.1-1 オープンキャンパスの実施状況（平成18年度）

| 月 日 | 学 部 | 概 要 | | 参加人数(17年度) |
|-------|--------|-----------|-------------------------------|----------------------------------|
| | | 午前 | 午後 | |
| 8月1日 | 情報工学部 | 体験講義，学科説明 | 学部説明，体験講義， 実習，施設見学 個別相談 | 140(117) 内訳；高校生 130 その他 10 |
| | デザイン学部 | | 学部・学科説明 施設見学，個別相談 | 316(305) 内訳；高校生 281 その他 35 |
| 8月2日 | 保健福祉学部 | | 学部・学科説明 施設見学，個別相談 | 732(550) 内訳；高校生 678 その他 54 |
| 参加者合計 | | | | 1,188(972) |

1.2-2 県内高等学校との意見交換会

高等学校の進路指導担当教員に本学の特色等を説明するとともに，意見交換を行い，大学運営や入学者選抜の改善に役立てることを目的とし，平成 14 年以降，毎年開催している．平成 18 年度の実施状況は，次のとおりである．

日時；平成 18 年 8 月 2 日（水） 13:30～16:00

参加者；県内高等学校 46 校から教員 47 名が参加

概要；(1)各学部・学科の説明

(2)平成 19 年度入学者選抜制度の変更点

(3) 高大連携への取り組み

(4) 高等学校からの事前質問等への回答と自由懇談

1.2-3 高大連携協定に基づく講師派遣等

本学は、平成 15 年度に岡山県教育委員会と高大連携協定を締結し、高等学校への講師派遣、本学開講授業への高校生の参加、などを通じて、アドミッションポリシーを含む広報活動を展開している。平成 18 年度における実施状況は、表 1.1-2 に示すとおりであり、本学教員が、約 340 名の高校生に対して、学部・学科説明や専門分野のトピックスを提供し、進路選択の参考に供している。

表1.1-2 高大連携協定に基づく高等学校への講師派遣，高校生の受入れ（平成18年度）

| 高校名 | 担当学部 | 教員名 | | 講義内容等 | 受講人数 | 対象学年 | 実施日 |
|----------|--------|-----|-------|-------------------|------|------|------------|
| 玉野光南高等学校 | 情報工学部 | 教授 | 兼田雅弘 | 制御とロボティクス | 80 | 1年 | H18.5.25 |
| 総社高等学校 | 情報工学部 | 教授 | 渡辺富夫 | 身体的コミュニケーション技術 | 66 | 1・2年 | H18.10.2 |
| 岡山工業高等学校 | デザイン学部 | 教授 | 金丸敏彦 | セラミックデザイン演習2 | 4 | 2年 | 後期授業 |
| 倉敷工業高等学校 | デザイン学部 | 助教授 | 難波久美子 | 学部施設見学 | 5 | 2年 | H18.5.19 |
| | | 講師 | 島田清徳 | ワークショップ(シルクスクリーン) | 2 | 2年 | H18.8.7~11 |
| | | | 島田清徳 | スライドレクチャー | 40 | 1年 | H19.2.22 |
| | | 助教授 | 難波久美子 | | | | |
| 笠岡高等学校 | 保健福祉学部 | 教授 | 掛橋千賀子 | ホスピスについて | 15 | 2年 | H18.10.10 |
| | | 教授 | 岡田良雄 | 県立大で栄養学を学ぶことの意義 | 7 | | |
| 瀬戸高等学校 | 保健福祉学部 | 教授 | 二宮一枝 | 看護学への招待 | 27 | 1年 | H18.11.6 |
| 邑久高等学校 | 保健福祉学部 | 教授 | 太湯好子 | ヒューマンケアとコミュニケーション | 30 | 1・2年 | H18.11.14 |
| | | 教授 | 沖田美佐子 | 栄養学とは | 35 | | |
| | 情報工学部 | 教授 | 野津 滋 | スポーツ工学とは | 33 | | |

2. 学生の受入れ

2.1 募集人員と選抜方法

2.1-1 募集人員

本学は一般選抜と特別選抜（推薦に基づく選抜，帰国子女選抜，私費外国人留学生選抜）を実施している。平成 18 年度の募集人員を表 1.2-1 に示す。保健福祉学部 120 名，情報工学部 140 名，デザイン学部 90 名，合計 350 名である。

推薦に基づく選抜の募集人員は，後述の表 1.2-5 に示すとおり，平成 17 年度に，66 名から 79 名へと増員を行った。これは，地域の発展に貢献できる人材育成にさらに応えるためである。平成 18 年度は，学科の新設・再編等により，推薦に基づく選抜の募集人員は 91 名になり，募集人員総数 350 名に占める割合は 26% である。

帰国子女選抜，私費外国人留学生選抜の募集人員は，表 1.2-1 には示されてないが，いずれも若干名である。

表 1.2-1 募集人員(平成 18 年度)

単位；人

| 学 部 | 学 科 | 入学 定員 | 募 集 人 員 | | | 推薦に基 づく選抜 |
|--------|-------------|----------|----------|----------|----------|--------------|
| | | | 一般選抜 | | | |
| | | | 前期 日程 | 後期 日程 | 中期 日程 | |
| 保健福祉学部 | 看護学科 | 40 | 20 | 8 | - | 12 |
| | 栄養学科 | 40 | 20 | 10 | - | 10 |
| | 保健福祉学科 | 40 | 20 | 8 | - | 12 |
| 情報工学部 | 情報通信工学科 | 50 | - | - | 37 | 13 |
| | 情報システム工学科 | 50 | - | - | 38 | 12 |
| | スポーツシステム工学科 | 40 | - | - | 30 | 10 |
| デザイン学部 | デザイン工学科 | 40 | 30 | - | - | 10 |
| | 造形デザイン学科 | 50 | 38 | - | - | 12 |

帰国子女選抜，私費外国人留学生選抜の募集人員は，いずれも若干名

2.1-2 選抜方法

(1) 一般選抜

[大学入試センター試験]

平成 18 年度は全学部で一般選抜試験に大学入試センター試験を利用した。利用教科・科目は表 1.2-2 のとおりである。保健福祉学部看護学科で 5 教科 5 科目，栄養学科で 5 教科 7 科目，保健福祉学科で 6 教科 6 科目であり，情報工学部では 5 教科 7 科目，デザイン学部では 3 教科 3 科目を課した。英語リスニングテストが導入された平成 18 年度にはデザイン学部デザイン工学科では利用を控えた（平成 19 年度は全学科で利用）。なお，本学では，

大学入試センター試験の成績の複数年利用，及び，2段階選抜は実施してない．

表1.2-2 一般選抜試験における大学入試センター試験の利用教科・科目(平成18年度)

| 学部 | 学科 | 利用教科・科目 | 教科・科目数 |
|------------|-------------------------------------|--|--------|
| 保健福祉学部 | 看護学科 | 国語（国語） 地理歴史と公民から1 数学（数学・数学A） 理科（物理，化学，生物，地学から1） 外国語 | 5教科5科目 |
| | 栄養学科 | 国語（国語） 地理歴史と公民から1（世界史B，日本史B，地理B， 現代社会，倫理，政治・経済から1） 数学（数学・数学A） （数学・数学B） 理科（物理，化学，生物から2） 外国語（英語） | 5教科7科目 |
| | 保健福祉学科 | 国語（国語） 地理歴史（世界史B，日本史B，地理Bから1） 公民 数学（数学・数学A） 理科 外国語 | 6教科6科目 |
| 情報工 学部 | 情報通信工学科 情報システム工学科 スポーツシステム工学科 | 国語（国語） 地理歴史と公民から1 数学（数学・数学A） （数学・数学B，工業数理基礎， 簿記・会計，情報関係基礎から1） 理科（物理，化学，生物，地学から2） 外国語（英語） | 5教科7科目 |
| デザイン 学部 | デザイン工学科 造形デザイン学科 | 国語（国語），数学（数学・数学A），外国語から2 地理歴史，公民，理科から1 | 3教科3科目 |

[個別学力検査等]

平成18年度の実施教科・科目等は下記のとおりである．

保健福祉学部；小論文，面接

情報工学部；数学，理科（物理）の筆記試験（スポーツシステム工学科を除く）

デザイン学部；鉛筆デッサンによる実技

合否判定は，大学入試センター試験，個別学力検査等（情報工学部スポーツシステム工学科を除く）及び調査書の内容を総合して行っている．なお，配点の合計に占める個別学力検査等の比率は，22%（保健福祉学部保健福祉学科）から50%（デザイン学部）の範囲である．

(2)推薦に基づく選抜

本学では開学以来，岡山県内の高等学校卒業予定者を対象に，推薦に基づく選抜試験を実施している．この選抜では，県内高等学校の専門学科と総合学科卒業予定者にも入学枠を設けている．

出願要件は、平成 18 年度の場合、県内の高等学校を平成 18 年 3 月卒業見込みの者を対象に、人物が優れ、志望学部・学科への適性を有すると評価され、各学部（又は学科）が定める表 1.2-3 の要件に該当すること、ならびに高等学校長推薦で、合格後に入学を確約できる者と設定している。なお、推薦に基づく選抜では、大学入試センター試験を課すことはしていない。

表1.2-3 推薦に基づく選抜における学部ごとの出願要件(平成18年度)

| 学 部 | 要 件 |
|--------|---|
| 保健福祉学部 | 1 調査書の学習成績概評が A 段階に属する者 2 推薦できる人数は、1 高等学校につき本学部 1 学科あたり 2 名、計 6 名 までとします。 |
| 情報工学部 | 1 【情報通信工学科及び情報システム工学科】 次のいずれかに該当する者 (1) 調査書の学習成績概評が A 段階に属する者 (2) 調査書の全体の評定平均値が 3.6 以上で、かつ、物理 又は理数物理、 数学 又は理数数学、英語 及びリーディングを履修している者 【スポーツシステム工学科】 次のいずれかに該当する者 (1) 調査書の学習成績概評が A 段階に属する者 (2) 調査書の全体の評定平均値が 3.6 以上で、かつ、物理 又は理数物理、 数学 又は理数数学、英語 及びリーディングを履修している者 (3) 全県レベルの体育・スポーツ大会で優れた成績や成果をあげた者 2 推薦できる人数は、1 高等学校につき本学部 1 学科あたり 3 名、計 9 名 までとします。 |
| デザイン学部 | 次のいずれかに該当する者 (1) 調査書の学習成績概評が A 段階に属する者 (2) 調査書の全体の評定平均値が 3.6 以上で、かつ、デザインの分野において特に秀でていと認められる者 |

選抜方法は、書類（調査書及び推薦書）審査と面接に加えて、保健福祉学部では小論文を、デザイン学部では鉛筆デッサンの実技検査を課している。なお、情報工学部の面接には一般教科に関する試問が含まれる。面接の配点は、保健福祉学部で 33%（書類審査を含む）、情報工学部、デザイン学部（書類審査を含む）で 50%である。

(3)その他の選抜

本学では特別選抜として、推薦入学とともに、帰国子女選別、私費外国人留学生選別を実施している。なお、平成 18 年度の私費外国人留学生選抜の志願者は 3 名、合格者は 1 名であったが、入学手続きは行われなかった。帰国子女選抜への志願者はなかった。

2.1-3 第3年次編入学

本学では平成18年度、デザイン学部ビジュアルデザイン学科と新設の情報工学部スポーツシステム工学科を除き、第3年次編入学生を募集した。募集人員は若干名とし、選抜方法は保健福祉学部では英語と専門科目の学力検査と面接を、情報工学部では英語と数学の学力検査と面接を行なった。デザイン学部工芸工業デザイン学科のプロダクトデザインコースでは実技と面接、建築デザインコースでは面接を課した。合否判定は、これらの結果と書類審査をもとに、総合的に行っている。

2.2 実施結果

2.2-1 一般選抜

平成 16～18 年度の一般選抜の状況を表 1.2-4 に示す。平成 18 年度は、募集人員 259 名に対し志願者 2,189 名、受験者 1,604 名である。合格者は 551 名で実質競争率は 2.9 倍、入学手続き者は 280 名であった。また、過去 3 年間の募集人員と入学者数の関係を見ると、平成 18 年度新設のスポーツシステム工学科を除く募集単位では、両者の関係が適正に維持されていると判断できる（スポーツシステム工学科は、推薦に基づく選抜に関する表 1.2-5 の数値を考慮すれば、入学定員は充足されている）。なお、合格者数に占める入学手続き者数の割合は保健福祉学部 95%、情報工学部 40%、デザイン学部 88%であり、情報工学部が低い。これは、公立大学中期日程を採用していることに大きな原因がある。さらに、募集人員に対する志願者の比率は、平成 17 年までやや漸減の傾向にあったが、平成 18 年度は反転の傾向を示している。

表1.2-4 一般選抜の実施状況

単位；人

| 学部 | 学科 | 平成16年度 | | | | | | 平成17年度 | | | | | |
|--------|-------------|--------|-------|-------|------|------|-----|--------|-------|-------|------|------|-----|
| | | 募集人員 | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 入学者数 | 倍率 | 募集人員 | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 入学者数 | 倍率 |
| 保健福祉学部 | 看護学科 | 30 | 253 | 193 | 37 | 34 | 5.2 | 28 | 63 | 49 | 33 | 28 | 1.5 |
| | 栄養学科 | 30 | 118 | 72 | 37 | 34 | 1.9 | 30 | 107 | 83 | 34 | 32 | 2.4 |
| | 保健福祉学科 | 30 | 118 | 85 | 32 | 32 | 2.7 | 28 | 102 | 66 | 30 | 30 | 2.2 |
| | 学部計 | 90 | 489 | 350 | 106 | 100 | 3.3 | 86 | 272 | 198 | 97 | 90 | 2.0 |
| 情報工学部 | 情報通信工学科 | 40 | 481 | 284 | 115 | 45 | 2.5 | 37 | 424 | 259 | 118 | 48 | 2.2 |
| | 情報システム工学科 | 40 | 614 | 353 | 126 | 41 | 2.8 | 38 | 629 | 384 | 140 | 40 | 2.7 |
| | 学部計 | 80 | 1,095 | 637 | 241 | 86 | 2.6 | 75 | 1,053 | 643 | 258 | 88 | 2.5 |
| デザイン学部 | ビジュアルデザイン学科 | 32 | 157 | 149 | 33 | 33 | 4.5 | 30 | 121 | 118 | 35 | 32 | 3.4 |
| | 工芸工業デザイン学科 | 32 | 173 | 169 | 42 | 38 | 4.0 | 30 | 150 | 147 | 35 | 32 | 4.2 |
| | 学部計 | 64 | 330 | 318 | 75 | 71 | 4.2 | 60 | 271 | 265 | 70 | 64 | 3.8 |
| 合計 | | 234 | 1,914 | 1,305 | 422 | 257 | 3.1 | 221 | 1,596 | 1,106 | 425 | 242 | 2.6 |

| 学部 | 学科 | 平成18年度 | | | | | |
|--------|-------------|--------|-------|-------|------|------|-----|
| | | 募集人員 | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 入学者数 | 倍率 |
| 保健福祉学部 | 看護学科 | 28 | 274 | 198 | 31 | 29 | 6.4 |
| | 栄養学科 | 30 | 189 | 132 | 34 | 31 | 3.9 |
| | 保健福祉学科 | 28 | 121 | 88 | 30 | 29 | 2.9 |
| | 学部計 | 86 | 584 | 418 | 95 | 89 | 4.4 |
| 情報工学部 | 情報通信工学科 | 37 | 395 | 233 | 110 | 41 | 2.1 |
| | 情報システム工学科 | 38 | 622 | 374 | 140 | 55 | 2.7 |
| | スポーツシステム工学科 | 30 | 333 | 333 | 125 | 26 | 2.7 |
| | 学部計 | 105 | 1,350 | 940 | 375 | 122 | 2.5 |
| デザイン学部 | デザイン工学科 | 30 | 114 | 112 | 36 | 31 | 3.1 |
| | 造形デザイン学科 | 38 | 141 | 134 | 45 | 38 | 3.0 |
| | 学部計 | 68 | 255 | 246 | 81 | 69 | 3.0 |
| 合計 | | 259 | 2,189 | 1,604 | 551 | 280 | 2.9 |

倍率 = 受験者数 / 合格者数

スポーツシステム工学科、デザイン工学科、造形デザイン学科の学生募集は平成18年度から実施

ビジュアルデザイン学科、工芸工業デザイン学科の学生募集は平成17年度まで実施

2.2-2 推薦に基づく選抜

平成 16～18 年度における推薦に基づく選抜の実施状況を表 1.2-5 に示す。平成 18 年度は、志願者 227 名、受験者 226 名、合格者 108 名、実質倍率 2.1 倍であった。同表において、募集人員と入学者数の関係は、適正に維持されている。

表1.2-5 推薦に基づく選抜の実施状況

単位；人

| 学部 | 学科 | 平成16年度 | | | | | | 平成17年度 | | | | | |
|--------|-------------|--------|------|------|------|------|-----|--------|------|------|------|------|-----|
| | | 募集人員 | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 入学者数 | 倍率 | 募集人員 | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 入学者数 | 倍率 |
| 保健福祉学部 | 看護学科 | 10 | 27 | 26 | 10 | 10 | 2.6 | 12 | 19 | 19 | 13 | 13 | 1.5 |
| | 栄養学科 | 10 | 31 | 31 | 10 | 10 | 3.1 | 10 | 27 | 27 | 11 | 11 | 2.5 |
| | 保健福祉学科 | 10 | 22 | 22 | 11 | 11 | 2.0 | 12 | 18 | 18 | 13 | 13 | 1.4 |
| | 学部計 | 30 | 80 | 79 | 31 | 31 | 2.5 | 34 | 64 | 64 | 37 | 37 | 1.7 |
| 情報工学部 | 情報通信工学科 | 10 | 21 | 21 | 14 | 14 | 1.5 | 13 | 28 | 28 | 14 | 14 | 2.0 |
| | 情報システム工学科 | 10 | 23 | 23 | 12 | 12 | 1.9 | 12 | 19 | 19 | 14 | 14 | 1.4 |
| | 学部計 | 20 | 44 | 44 | 26 | 26 | 1.7 | 25 | 47 | 47 | 28 | 28 | 1.7 |
| デザイン学部 | ビジュアルデザイン学科 | 8 | 32 | 32 | 11 | 11 | 2.9 | 10 | 36 | 35 | 10 | 10 | 3.5 |
| | 工芸工業デザイン学科 | 8 | 26 | 26 | 9 | 9 | 2.9 | 10 | 17 | 17 | 10 | 10 | 1.7 |
| | 学部計 | 16 | 58 | 58 | 20 | 20 | 2.9 | 20 | 53 | 52 | 20 | 20 | 2.6 |
| 合計 | | 66 | 182 | 181 | 77 | 77 | 2.4 | 79 | 164 | 163 | 85 | 85 | 1.9 |

| 学部 | 学科 | 平成18年度 | | | | | |
|--------|-------------|--------|------|------|------|------|-----|
| | | 募集人員 | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 入学者数 | 倍率 |
| 保健福祉学部 | 看護学科 | 12 | 32 | 32 | 13 | 13 | 2.5 |
| | 栄養学科 | 10 | 25 | 25 | 11 | 11 | 2.3 |
| | 保健福祉学科 | 12 | 31 | 31 | 14 | 14 | 2.2 |
| | 学部計 | 34 | 88 | 88 | 38 | 38 | 2.3 |
| 情報工学部 | 情報通信工学科 | 13 | 25 | 25 | 15 | 15 | 1.7 |
| | 情報システム工学科 | 12 | 34 | 34 | 18 | 18 | 1.9 |
| | スポーツシステム工学科 | 10 | 25 | 24 | 14 | 14 | 1.7 |
| | 学部計 | 35 | 84 | 83 | 47 | 47 | 1.8 |
| デザイン学部 | デザイン工学科 | 10 | 19 | 19 | 11 | 11 | 1.7 |
| | 造形デザイン学科 | 12 | 36 | 36 | 12 | 12 | 3.0 |
| | 学部計 | 22 | 55 | 55 | 23 | 23 | 2.4 |
| 合計 | | 91 | 227 | 226 | 108 | 108 | 2.1 |

倍率 = 受験者数 / 合格者数

スポーツシステム工学科，デザイン工学科，造形デザイン学科の学生募集は平成18年度から実施

ビジュアルデザイン学科，工芸工業デザイン学科の学生募集は平成17年度まで実施

ここに示した一般選抜および推薦に基づく選抜に関する合格者の最高・最低得点と平均点は，入試情報提供の一環として本学 Web 上に公表されている。

2.2-3 第3年次編入学

第3年次編入学選抜試験の実施状況を表 1.2-6 に示す。志願者の多くは，保健福祉学部への出願である。そして，編入学生に関する卒業後の進路状況から見ると，本学で保健師，管理栄養士，社会福祉士の受験資格取得を目的とする学生が志願する傾向があると言える。なお，平成 18 年度合格者の出身校を全学的に見ると，短期大学と看護学校が多く，工業高等専門学校がこれに続き，4 年制大学は僅少であった。

表1.2-6 第3年次編入学試験の実施状況

単位；人

| 学 部 | 学 科 | 平成16年度 | | | | 平成17年度 | | | | 平成18年度 | | | |
|--------|------------|--------|------|------|------|--------|------|------|------|--------|------|------|------|
| | | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 入学者数 | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 入学者数 | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 入学者数 |
| 保健福祉学部 | 看護学科 | 30 | 29 | 8 | 3 | 22 | 22 | 6 | 2 | 26 | 23 | 7 | 3 |
| | 栄養学科 | 20 | 19 | 2 | 2 | 17 | 16 | 2 | 2 | 21 | 19 | 3 | 2 |
| | 保健福祉学科 | 9 | 9 | 3 | 3 | 9 | 9 | 1 | 1 | 5 | 5 | 3 | 3 |
| | 学 部 計 | 59 | 57 | 13 | 8 | 48 | 47 | 9 | 5 | 52 | 47 | 13 | 8 |
| 情報工学部 | 情報通信工学科 | 11 | 11 | 5 | 2 | 7 | 6 | 3 | 2 | 3 | 3 | 1 | 1 |
| | 情報システム工学科 | 7 | 7 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 6 | 6 | 1 | 1 |
| | 学 部 計 | 18 | 18 | 6 | 2 | 8 | 7 | 3 | 2 | 9 | 9 | 2 | 2 |
| デザイン学部 | 工芸工業デザイン学科 | | | | | | | | | 8 | 7 | 5 | 5 |
| | 学 部 計 | | | | | | | | | 8 | 7 | 5 | 5 |
| 合 計 | | 77 | 75 | 19 | 10 | 56 | 54 | 12 | 7 | 69 | 63 | 20 | 15 |

募集人員は、いずれも若干名

工芸工業デザイン学科は平成18年度から実施

3. 学生の在籍状況

平成 16～18 年度の 5 月 1 日現在における学生の在籍状況を表 1.3-1 に示す。同表中には、第 3 年次編入学、帰国子女選抜、私費外国人留学生選抜、および、再入学による在籍学生を含み、在籍者内訳欄の「県内」は、岡山県内の高等学校を卒業し本学に在籍する人数を表す。

まず、収容定員と在籍学生数の関係を見ると、いずれの年度についても、定員充足率は 1.1 を多少超える程度であり、定員管理は適切であると判断できる。同様なことは、募集単位ごとについても言える。

次に、学生の出身地を見ると、「県内」学生はこの 3 年間で微増を続け、平成 18 年度は半数弱を占める状況にある。このことは、第 3 章に示す通学時間の増大になった一つの要因と考えられる。「県外」学生の出身地は、同表に示していないが、在籍学生の約 2 割が瀬戸内沿岸および北九州地区の出身者であった。

一方、在籍学生数を男女別で見ると、この 3 年間に於ける顕著な変化は認められない。すなわち、全学的な特徴は、男子学生が半数弱であること、さらに、学部別の特徴は、保健福祉学部では女子学生が約 9 割、情報工学部では男子学生が約 9 割、デザイン学部では男子学生が 3 割弱である。

表1.3-1 学生の在籍状況(平成16～18年度)

平成16年5月1日現在

単位；人

| 学 部 | 学 科 | 収容定員 | 在籍者 | 在 籍 者 内 訳 | | | |
|------------|-------------|-------|-------|-----------|-----|-----|-----|
| | | | | 県 内 | 県 外 | 男 | 女 |
| 保健福祉 学部 | 看護学科 | 160 | 175 | 106 | 69 | 9 | 166 |
| | 栄養学科 | 160 | 178 | 66 | 112 | 7 | 171 |
| | 保健福祉学科 | 160 | 172 | 116 | 56 | 19 | 153 |
| | 学部計 | 480 | 525 | 288 | 237 | 35 | 490 |
| 情報工学部 | 情報通信工学科 | 200 | 256 | 110 | 146 | 230 | 26 |
| | 情報システム工学科 | 200 | 231 | 102 | 129 | 212 | 19 |
| | 学部計 | 400 | 487 | 212 | 275 | 442 | 45 |
| デザイン 学部 | ビジュアルデザイン学科 | 160 | 171 | 61 | 110 | 48 | 123 |
| | 工芸工業デザイン学科 | 160 | 169 | 51 | 118 | 55 | 114 |
| | 学 部 計 | 320 | 340 | 112 | 228 | 103 | 237 |
| 合 計 | | 1,200 | 1,352 | 612 | 740 | 580 | 772 |

平成17年5月1日現在

単位；人

| 学 部 | 学 科 | 収容定員 | 在籍者 | 在 籍 者 内 訳 | | | |
|------------|-------------|-------|-------|-----------|-----|-----|-----|
| | | | | 県 内 | 県 外 | 男 | 女 |
| 保健福祉 学部 | 看護学科 | 160 | 173 | 111 | 62 | 9 | 164 |
| | 栄養学科 | 160 | 179 | 68 | 111 | 9 | 170 |
| | 保健福祉学科 | 160 | 172 | 119 | 53 | 22 | 150 |
| | 学部計 | 480 | 524 | 298 | 226 | 40 | 484 |
| 情報工学部 | 情報通信工学科 | 200 | 251 | 112 | 139 | 228 | 23 |
| | 情報システム工学科 | 200 | 232 | 106 | 126 | 221 | 11 |
| | 学部計 | 400 | 483 | 218 | 265 | 449 | 34 |
| デザイン 学部 | ビジュアルデザイン学科 | 160 | 165 | 55 | 110 | 38 | 127 |
| | 工芸工業デザイン学科 | 160 | 169 | 53 | 116 | 46 | 123 |
| | 学 部 計 | 320 | 334 | 108 | 226 | 84 | 250 |
| 合 計 | | 1,200 | 1,341 | 624 | 717 | 573 | 768 |

平成18年5月1日現在

単位；人

| 学 部 | 学 科 | 収容定員 | 在籍者 | 在 籍 者 内 訳 | | | |
|------------|-------------|-------|-------|-----------|-----|-----|-----|
| | | | | 県 内 | 県 外 | 男 | 女 |
| 保健福祉 学部 | 看護学科 | 160 | 175 | 111 | 64 | 12 | 163 |
| | 栄養学科 | 160 | 178 | 68 | 110 | 12 | 166 |
| | 保健福祉学科 | 160 | 174 | 118 | 56 | 24 | 150 |
| | 学部計 | 480 | 527 | 297 | 230 | 48 | 479 |
| 情報工学部 | 情報通信工学科 | 200 | 255 | 122 | 133 | 230 | 25 |
| | 情報システム工学科 | 200 | 245 | 111 | 134 | 232 | 13 |
| | スポーツシステム工学科 | 40 | 40 | 23 | 17 | 33 | 7 |
| | 学 部 計 | 440 | 540 | 256 | 284 | 495 | 45 |
| デザイン 学部 | ビジュアルデザイン学科 | 120 | 126 | 43 | 83 | 28 | 98 |
| | 工芸工業デザイン学科 | 120 | 135 | 43 | 92 | 38 | 97 |
| | デザイン工学科 | 40 | 42 | 15 | 27 | 15 | 27 |
| | 造形デザイン学科 | 50 | 50 | 23 | 27 | 9 | 41 |
| | 学 部 計 | 330 | 353 | 124 | 229 | 90 | 263 |
| 合 計 | | 1,250 | 1,420 | 677 | 743 | 633 | 787 |

スポーツシステム工学科，デザイン工学科，造形デザイン学科の学生募集は平成18年度から
ビジュアルデザイン学科，工芸工業デザイン学科の学生募集は平成17年度まで

4. まとめ

- (1) アドミッションポリシーは平成 17 年度入試から明文化し公表を行うとともに、このポリシーに沿う学生を受け入れるための広報活動についても継続的に取り組んできた。しかし、オープンキャンパスのアンケート結果によれば、参加者は、アドミッションポリシーはもとより、現行のオープンキャンパスの内容と比べて、より具体的で実質的な情報を求めている。したがって、それらを的確に把握し、広報活動のいっそうの充実をはかることが重要になる。また、今後の課題として、アドミッションポリシーに基づく学生確保に関する検証が残されている。
- (2) 募集人員について、平成 18 年度は、情報工学部スポーツシステム工学科の新設に伴う 40 名、デザイン学部の学科再編に伴う 10 名の計 50 名の増員を図った。推薦に基づく選抜に係わる募集人員は、平成 16～18 年度の間で、25 名増員を行った。今後の課題には、選抜方法ごとに、教育の効果と成果を把握すること、ならびに、高大接続教育の充実を図ることなどが挙げられよう。
- (3) 入学定員および収容定員の充足状況は適切であると判断できる。

第2章 教育活動

1. 人材育成像

本学は、保健福祉学部、情報工学部、デザイン学部の3学部からなり、「人間尊重と福祉の増進」を建学の理念として、平成5年に設立された。教育研究の理念を「人間・社会・自然の関係性を重視する実学を創造し、地域に貢献する」ことに置き、この理念に基づく人材の育成をめざしている。各学部の人材育成像は次のとおりである。

[保健福祉学部]

保健福祉学部は看護、栄養、保健福祉学科の3学科で構成され、地域社会の人々の健康と福祉の増進に積極的に貢献できる、豊かな人間性あふれる人材の育成をめざしている。このため、教育目標を、保健・医療・福祉に関する基本的知識と技術を修得し、あわせて健康課題に対して科学的な思考や分析に基づいた問題探究能力と問題解決能力を養い、将来にわたって応用知識・技術を積み上げていける力を磨くこと、さらに社会の変化、国際化に柔軟に対応できる能力を培い、豊かな感性、高い倫理観、そして人とのコミュニケーション能力を育成し、人を支援する心をもった人間形成をめざすことに置いている。

[情報工学部]

情報工学とは、情報の伝送・認識・処理・利用にかかわるハードウェアとソフトウェアの技術を研究開発するための学問である。情報工学部は、情報技術を活用して、人間を中心に据えた社会の形成に貢献できる技術者の育成をめざしている。そのため教育目標を、(1)情報工学とそれに密接に関連する工学と技術を学ぶこと、(2)人間の諸特性を科学的に解明すること、(3)前項(1)と(2)の知識を融合的に活用して社会の発展に貢献すること、(4)技術者に求められる高い倫理観、多面的な思考力、それらに培われた実行力や行動力を身につけること、に重きを置いている。

[デザイン学部]

デザイン学部は、人間・社会・自然の関係性を重視する立場から、造形を通じてこれらの関係構築や改善に挑むことのできる、高い志と美的創造力にあふれた、社会にとって有為な人材の育成をめざしている。このため、教育目標を、十分な情報収集・分析・構築力のうえに、言語的かつ造形的発想・構想力、課題発見・解決力、提案力を個々の学生が身に付けることに置いている。

以上のように、本学教育に含まれる重要キーワードの一つに「人間」を挙げることができる。なお、学科ごとの人材育成像は付録 A1 の「アドミッションポリシー」を参照されたい。

2. カリキュラム編成

本学の教育課程は、教育研究の理念「人間・社会・自然の関係性を重視する実学を創造し、地域に貢献する」のもとで、大学設置基準第 19 条に定める「幅広く深い教養と総合的判断力を培い、豊かな人間性を涵養する」教育と「専門の学芸」に関する教育を複合的に実施している。そして、カリキュラムは、全学教育と学部教育に大きく区分して編成されている。全学教育科目は、学部・学科の枠を超えた協力体制の下で実施され、次の目標を掲げている。

- 1 価値領域の多様性を理解する
複雑化と高度化が進展する 21 世紀の社会に貢献するため、現代社会における価値の多様性を理解する。
- 2 学問に対する認識を深める
学問が持つ体系性と総合性を理解し、学問の発展過程とすそのの拡がりに触れる。
- 3 課題探求に必要な基礎知識とその活用法を修得する
大学教育は、問題の発見と解決を指向するものであることを、入学後の早期に体得する。ついで、さまざまな分野における問題解決に必要な基礎知識とそれらの活用法を修得する。
- 4 実践的な情報処理能力と外国語基礎能力を修得する
情報社会における基本ツールである計算機の活用能力、および、外国語による実践的コミュニケーションに必要な基礎能力を育成する。
- 5 専門分野への導入をはかる
専門教育の内容と密接に関係する分野の学修をおこなう。

そして、この目標に基づいて、7 個のカテゴリ、「大学でどう学ぶか」、「コミュニケーション」、「人間と文化の理解」、「現代社会に生きる」、「科学技術と環境」、「健康の維持・増進」および「学部教育への準備」を置き、合計 93 の授業科目が開設されている。さらに、全学教育の卒業要件は、平成 14 年度の教養教育構想検討部会の答申に従って、各学科ともに 30 単位以上修得することが申し合わされている。

学部教育科目は、大学設置基準第 19 条の「専門の学芸」を修得することに重きが置かれ、カリキュラムは各学部・学科で編成され、第 3 常任委員会(本章 3 節)における審議を経て、評議会で最終決定される。平成 18 年度入学生のカリキュラムは付録 A2 を参照されたい。

3. 教育実施体制

3.1 教員組織

平成 18 年度は情報工学部スポーツシステム工学科の設置，デザイン学部の学科再編，ならびに，短期大学部の学生募集停止があった．平成 19 年度は保健福祉学部保健福祉学科の再編が行われる．これらに伴い，短期大学部教員の保健福祉学部，情報工学部，デザイン学部への移行が年次計画で進められ，教員組織がダイナミックに変化し，四年制大学の整備充実がなされることが期待されている．

3.2 運営体制

学士課程の開講科目は，全学教育科目と学部教育科目に区分して開講され，両者を統合的に扱う全学組織として，第 3 常任委員会，教務専門委員会，ならびに，時間割編成専門委員会がある．さらに，全学教育を対象とする組織に全学教育研究機構がある．これらの組織の平成 18 年度の活動概要は次のとおりである．第 3 常任委員会，教務専門委員会，及び，全学教育研究機構教授会の議題は付録 A3 を参照されたい．教育評価については評価委員会が統括している．

3.2-1 第 3 常任委員会

本委員会における教育に関する審議事項の中心は教育課程の編成であり，平成 18 年度は，大学改革に伴う次の教育課程の編成に関わる事項を中心に審議を行った．

保健福祉学部保健福祉学科の教育課程について，文部科学省への届出を行った．

保健福祉学部保健福祉学科に置かれる資格取得課程，すなわち，子育て支援コースと介護福祉コースの設置申請を行った．

保健福祉学部栄養学科を対象とする栄養教諭免許課程の設置申請を行った．

3.2-2 教務専門委員会

学長を委員長とし，委員は各学部・学科の教務専門委員など，合計 20 名である．主要審議事項は，教育課程の実施に関する具体的事項を広く扱う．平成 18 年度は，平成 19 年度授業開講計画に加え，次の事項について検討を行った．

教務専門委員会と時間割編成専門委員会の統合

講義室の改善

入学前既修得単位の認定時期

前期 6 制限の導入

成績評価に対する学生からの異議申し立て制度

基礎学力が不足する学生への補充教育

これらの中で， は平成 19 年度から統合されることになった． はマイク設備の改善がはかられ， は履修登録の上限設定実施と同時に単位認定時期が改善された．さらに， は各学科の判断に委ねられ， と については継続課題になっている．

なお、本学には時間割編成を専門に扱う時間割編成専門委員会が設置されている。委員構成は各学科から1名、および、全学教育の非常勤講師確保責任者である。協議事項は、全学教育ならびに学部教育に関する時間割編成であるが、教務専門委員会との連携をより重視する必要があるため、前述のとおり、平成19年度から教務専門委員会へ統合される。

3.2-3 全学教育研究機構

(1)組織

全学教育研究機構規程第2条に示されるように、機構は全学教育に関する計画・編成・実施・評価ならびに予算・施設に係わる事項を主要業務とする。そして、規程第3条に基づき、語学センター及び情報教育センターが設置されるとともに、規程第6条により機構内に教授会が置かれている。平成18年度の機構構成員及び役員は付録A3.3を参照されたい。

(2)教授会

平成18年度の協議事項の概要は次のとおりである。

教授会に機構運営ワーキンググループを設置し、機構ならびに全学教育に関する問題点や改善案のまとめと提案を行う体制を整えた。

非常勤講師の確保体制を確立した。

全学教育経費(案)を作成する体制を確立した。

教員人事について、次の3件を決定した。

1)栄養教諭免許課程の設置申請に向けて、教職に関する科目を担当する教授の選考を行った。

2)池田巳喜子教授の後任人事について、所属学部を保健福祉学部栄養学科、専門分野を生態学と決め、教授の選考を行った。

3)全学教育を担当する非常勤講師の選考を行った。

デザイン学部教授会からの依頼により、編入学生2名に対する入学前の既修得単位の認定を行った(全学教育科目に該当する科目を担当)

3.2-4 学部内の運営体制

[保健福祉学部]

学部長ならびに各学科の代表者3名で構成される学部教務委員会を設置している。さらにその下部組織として学科ごとに数名で構成される学科教務委員会を設置している。これらの組織は、各学科ならびに学科間の学部の教育目標達成に向けて、整合性ある教育課程の編成を目的に設置されている。具体的には、全学教育へ配置する科目、学部共通科目、学科内の専門科目の新設や廃止、配置等に関する検討を行なっている。平成18年度は、「文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)」が採択されたことから、それを契機に学科間の共通専門科目「実践的チームガバナビリティ演習」を開発し3学科に配置した。また、保健福祉学部では、短期大学部との統合を背景に、保健福祉学に関する基本的な科目ならびに社会福祉士と介護福祉士(もしくは保育士)のダブルライセンスが取得可能となるよう、カリキュラムの全面的な開発を行なった。

[情報工学部]

情報工学部では、学科長および教務委員の計6名で構成される学部教務委員会を平成18年度に発足させた。設置の目的は、学科間の連絡調整にとどまらず、柔軟性に富んだ教育システムの構築であり、たとえば、学科間を越えた実施体制のいっそうの推進、授業科目の相互乗入れなど、将来計画の実現に向けた教務体制を築くことである。平成18年度は、各学科の授業科目とその内容について、科目ごとに確認を行い、問題点の整理に取りかかっている。

[デザイン学部]

デザイン学部では、教務専門委員と学科選出の委員で構成される学部教務委員会が組織され、学部・学科のカリキュラム編成、開講計画、履修案内作成に関する事項、学部学生のための基礎教育科目に関する学生経費配当等を担当している。平成18年度は学科再編初年度ということもあり、異なる特色を持つ新旧学科カリキュラム運用上の課題解決に、主として取り組んだ。またそこで浮上した諸課題を将来計画に活かすべく、整理に取りかかっている。さらに平成19年度に学部教員となる短期大学部教員3名が担当する新規開講科目(平成18年度入学生への追加開講科目)のカリキュラムへの組み入れを実施することで、新学科における教育内容の一層の充実を図った。

4. 教育内容・方法

4.1 教育課程

4.1-1 カリキュラムの体系性

本学では、他大学と同様に4年一貫の学士教育の中で、全学教育(いわゆる教養教育を含む)と学部教育(専門教育)を実施している。

全学教育を大きく分けると、「大学でどう学ぶか」と「コミュニケーション」のカテゴリは大学生としてのコモンベーシックの色彩が強い。「人間と文化の理解」、「現代社会を生きる」、「科学技術と環境」、「健康の維持・増進」のカテゴリは旧来の教養科目に該当する。そして、「学部教育への準備」のカテゴリは専門基礎に該当する。

履修年次を見ると、「大学でどう学ぶか」と「コミュニケーション」は全学的に年次が統一されている。「学部教育への準備」は学部・学科の教育内容に依存している。一方、「人間と文化の理解」、「現代社会を生きる」、「科学技術と環境」、「健康の維持・増進」の科目については、他大学では低年次で全学統一の場合が多い。本学では、保健福祉学部と情報工学部は低年次履修が多く、デザイン学部は、4年間にわたって、学部教育科目と並列に近い形で体系化を指向している。なお、全学教育の卒業要件については、平成14年度の教養教育構想検討部会の答申にしたがって、前述のとおり、各学科ともに30単位以上修得することが申し合わされている。

4.1-2 履修の体系性

本学では履修区分を、必修・選択・自由の3つに区分している。学部ごとに履修区分の概要を見ると、資格取得の性格が強い保健福祉学部は必修が多い。情報工学部は、学科によって異なる。すなわち、情報通信工学科は情報・通信・電子の3分野を置いているため、選択科目が多い。情報システム工学科は、情報・知能・機械の3分野を領域横断型で修得させるため必修が多い。スポーツシステム工学科は、工学に基礎を置きつつ、人材育成モデルを2種類掲げているため、選択が多い。そして、このことに対応するため、1年次の前期末に人材育成像ごとの履修モデルを学生に具体的に説明している。デザイン学部は、2年次で2学科で計7コースに所属を分け、実技系科目を中心にコースごとの必修指定に沿って履修が行われている。

4.1-3 履修登録の上限設定

単位制度の実質化を旨として、スポーツシステム工学科を除く7学科の平成18年度入学生から履修登録単位数の上限を、年間48単位に設定した。対象から除外する科目は、情報工学部の「インターンシップ」、デザイン学部デザイン工学科の「プロダクトデザイン企業実習」、「建築デザイン企業実習」ならびに「情報デザイン企業実習」である。なお、スポーツシステム工学科については平成19年度入学生から実施する。

4.1-4 学外における学習活動

学外における学習活動は、実学を指向する本学教育で重要な意味を持つ。保健福祉学部では、看護師、管理栄養士、社会福祉士等の資格取得要件を満たすため、「臨地実習」で総称される授業科目が多彩に設定されている。一方、就業体験と位置づけられる「インターンシップ」について、情報工学部では3年次学生を対象に選択科目として開講している。主催は岡山県経営者協会によるものであり、平成18年度の参加学生数は14名、参加企業は下記のとおりである。デザイン学部では、学科再編後の平成18年度入学生から、「プロダクトデザイン企業実習」のように、コースごとに異なる名称で開講される。その他、単位修得と関係なく和歌山県経営者協会主催のインターンシップに積極的に参加した学生が1名あった(保健福祉学科)。なお、海外語学研修については本章第5節を参照されたい。

| 「インターンシップ」実施企業(岡山県経営者協会主催) |
|--|
| (株)両備システムズ, (株)システムズナカシマ, 中国電力(株), (株)三社電機製作所, (株)オービス, (株)天満屋, (株)スピリット・トゥエンティワン, 岡山県立図書館, タイメック(株), 小田象製粉(株) |

4.1-5 単位互換

平成18年度から、岡山県内の15大学で構成される「大学コンソーシアム岡山」が発足した。学生を対象に、単位互換科目、キャリア形成講座、および金融知力講座が提供されている。地理的な事情もあり、本年度の参加状況は次の通りである。

[単位互換]

他大学からの受け入れは2名(5科目)

他大学への派遣は2名(2科目)

[キャリア形成講座]

参加学生数：11名

[金融知力講座]

参加学生なし

4.2 授業形態および学習指導法

4.2-1 授業形態の組み合わせ、バランス、学習指導法の工夫

(1)全学教育

授業形態が講義以外のものは、語学およびコンピュータの利用技術、ならびにスポーツ(実技)である。これらの中で、「コミュニケーション」のサブカテゴリ「英語」、「英語以外の外国語」の開講科目はすべて演習である。そして、「英語」の教育内容・方法については平成17年度入学生から改訂がなされている。改訂の骨子は、全学生が「基礎英語」、「基礎英語」、「英会話」、「英会話」の4科目4単位を必修として課すこと、教育効果も考慮して、平成17年度入学生から入学定員50名以上の学科については、これら4科目は2クラスに分割して授業を行うこと、である。

そして、1 年次前期に履修する「基礎英語」では語学演習室を活用して、ネットワーク型教育システムである ALC-NetAcademy を活用した授業展開も行われ、TOEIC のスコア UP を目的とする自学自習の一助に供している。なお、この教育設備の利用状況は年々増加の傾向にある。英語教育の改訂と語学センターについては本章第 6 節を参照されたい。

(2) 学部教育

本学学士教育における特色の一つに実技系科目の充実が挙げられる。すなわち、保健福祉学部では看護師、管理栄養士、社会福祉士等の資格・受験資格取得に対応するため、定められた基準に従って実験・実習等の授業科目が多彩に配置されている。情報工学部では、平成 12 年頃からの全国的な工学教育改革の流れの中で、PBL 型教育を指向し、平成 14 年度入学生から、実験・演習系科目の整備充実が図られている。デザイン学部では、学科・コースごとに実技系科目が豊富に開設されており、たとえば、建築デザインコースで開設する「コース専門科目」の単位数を見ると、講義科目 20 単位に対して、実技系科目 24 単位である。そして、これらの実技系科目の整備充実の成果は、保健福祉学部における文部科学省の現代的教育ニーズ取組支援プログラム「実践的チームガバナビリティ育成教育」への採択、就職内定率(第 4 章 1 節)、国家資格の取得率(第 4 章 2 節)などに現れている。

実技系科目の学習指導法における工夫は 3 学部の教育内容が互いに大きく異なるため、それぞれの分野に応じた学習指導法改善の取組みがなされている。今後の重要課題は、改善に向けた日常的な取組みを「組織化された」、「目に見える」活動として位置づけることである。

4.2-2 シラバス

シラバスは全学的に統一された様式の下で作成され、その構成は「概要」、「授業科目の到達目標」、「授業内容とスケジュール」、「成績評価」、「自学自習ガイド」等である。配布対象は、全学教育科目のシラバスは全学生に、学部教育科目は所属学部学生に毎年配布される。今後の課題は、シラバスに対する学生意見の反映と活用促進である。

4.2-3 現代的教育ニーズ取組支援プログラムへの採択

平成 18 年度文部科学省の現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代 GP)において、保健福祉学部の「実践的チームガバナビリティ育成教育 - 領域横断カリキュラムと臨床メンターを援用した実践的キャリア教育の試み - 」が「実践的総合キャリア教育の推進」(テーマ 5)部門において採択された。本取組みは保健福祉専門職をめざす学生に、健全なチームワーキングの運営、発展に必要なチーム統合能力やチームパートナーシップ、問題解決能力などを育成し、さらに学生自身が学習成果を市民へ還元する啓発活動を展開するとともに、その過程で自ら学習、成長する教育プログラムを開発し、実践することを目的としている。

本取組みでは保健福祉学部を構成する 3 学科の領域横断カリキュラムが開発された「実践的チームガバナビリティ演習」と名づけた本授業科目は、(1)チーム統合能力、(2)チー

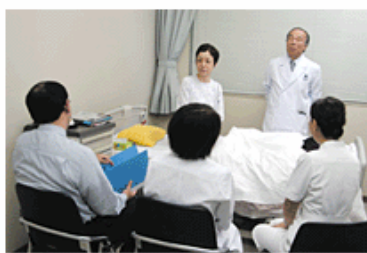
ムパートナーシップの育成,さらに,(3)クライアントの全人的理解を旨とする到達目標に19年度4月より毎月1回の予定で年間8回のスケジュールを組んだ。これらはPBL(問題基盤型学習)を採用し,臨床ケースを模擬クライアントとして教材呈示する。クラスは少人数のグループから構成され,各グループには担当教員及び臨床メンターが配属される。

本年度すでに臨床ケースに基づいたチームガバナビリティ演習を教員サイドで実施し,VTR化して,18年11月12日に横浜で開催された「大学教育改革プログラム合同フォーラム」において発表した。

■ 臨床ケースに基づいたチームガバナビリティ演習 (VTR)



模擬患者に対し、チームメンバーによる聞き取りが行われます



インタビュー後、チームメンバーは聞き取りについての患者の立場からのフィードバックを受けます



チームメンバーはそれぞれの情報をもとに、チームとして患者の問題点を整理し解決の方向性をまとめます

大学教育改革プログラム合同フォーラム(平成18年11月12日)

平成19年1月には保健福祉学部3学科2年次生に対して19年度開講の「実践的チームガバナビリティ演習」についての説明会も終了している。

平成19年2月3日に現代GP採択記念講演会を開催した。大阪大学コミュニケーションデザインセンターの平田オリザ教授を迎え、「市民と保健医療福祉専門職の相互理解のために」をテーマに,学生と市民の約270名の参加を得て,午前はコミュニケーションにおける「コンテキスト(文脈)」の重要性を強調した講演を,午後は約20名の聴衆を交えてのワークショップを開催した。



現代GP採択記念講演会(平成19年2月3日)

平成19年3月20日には埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科大塚真理子教授を迎え,

「専門職連携教育の意義と今日の動向」と題して講義を、また既卒者による実践的チームガバナビリティ教育の模擬演習を本学で行う予定である。

平成 19 年度は保健福祉学部 3 年次学生に対する選択科目「実践的チームガバナビリティ演習」が開始される。この他、シンポジウム、セミナー、ワークショップも計画されており、2 年目に入り、特色ある計画の実行が軌道に乗ってくると思われる。

4.3 成績評価と卒業認定

4.3-1 成績評価

本学では成績評価を 4 段階で行い、合格を A, B, C の 3 段階で、不合格を D と表示して、学期の始期にその前の学期の成績通知を行っている。当面の課題は、成績評価に対する学生からの異議申し立てのしくみを制度化すること、などである。

4.3-2 卒業認定

卒業要件単位数は、学科ごとに、124～133 単位の範囲で設定されている。卒業研究の実施と審査は各学科の判断に委ねられているが、学内公開研究発表会等を経て複数教員による審査が行われ、卒業認定は各学部教授会で行われている。

研究成果の社会への公表について、情報工学部では卒業研究と修士論文の要旨を製本し、「卒業研究及び修士論文の要旨」として平成 17 年度から刊行している。デザイン学部では、例年「岡山県立大学デザイン学部・大学院卒業・修了制作展」を開催(平成 18 年度は、岡山県天神山文化プラザで平成 19 年 3 月 6～11 日)している。

4.4 高校教育との接続

本学では大学教育への円滑な移行をはかるため、平成 18 年度入学生から推薦に基づく選抜の合格者を対象に、事前教育を全学的に実施している。また、入学後の接続教育は平成 15 年度から実施している。それらの概要は次のとおりである。

4.4-1 入学前の教育（推薦に基づく選抜合格者）

保健福祉学部は、学科ごとに、2 月～3 月に 2～4 回実施している。実施方法は、教員による講義、卒業研究発表会における先輩との交流、グループ討議などである。情報工学部は 3 学科合同で、12 月と 2 月に実施した。内容は、各学科の教員による講義、および、数学と英語の課題である。デザイン学部では、学科ごとに 1～2 回実施し、内容はワークショップ、コース説明、英語の課題、美術館レポートの作成、などである。

4.4-2 入学後の教育

入学後における高校教育と大学教育の接続を打ち出している授業科目とその実施状況は次のとおりである。

[フレッシュマンセミナー]

全学科で1年次前期(デザイン学部は通年)に必修科目「フレッシュマンセミナー」を開講している。授業の内容・方法は、学科により多少の差はあるが、専門分野の紹介、教員の研究紹介、初年時PBL型教育、などを通じて、大学教育に対する動機付け、高等学校と大学における「学び方」の違いを早期に体験し、大学教育へのスムーズな移行をはかることを目指している。

[フレッシュマン特別講義]

全学生を対象に、1年次前期に「フレッシュマン特別講義」を開講している。この科目がめざすものは、本学の理念、教育・地域貢献活動を知ること、幅広く学び、卒業後も継続学習が重要であることを認識すること、などである。講師は学長、学部長等の人生経験が豊富な教員、大学の設置者、ならびに吉備文化の専門家で構成されている。なお、平成18年度の履修登録者数は230名である。

[サイエンスセミナー]

スポーツシステム工学科の中期日程入試は、大学入試センター試験のみで実施しているため、高等学校で数学、数学C、および物理を履修していない学生の入学が想定された。したがって、1年次に必修科目、「サイエンスセミナー」と「サイエンスセミナー」を開講している。そして、前者は物理の力学分野を学び2年次の「力学」へ、後者は物理の電磁気学分野を主な対象とし2年次の「基礎電磁気学」にスムーズな接続を意図している。今年度から開設された授業科目なので、その成果は次年度以降の「力学」と「基礎電磁気学」に現れるであろう。

なお、教務専門委員会の議題(付録A3.2)に示すように、高等学校における未履修科目、特に栄養学科における化学、情報通信工学科、情報システム工学科ならびにデザイン工学科における物理の補充教育については次年度に検討することが予定されている。

5. 海外語学研修

5.1 英国語学研修

英国ウェールズ大学バンガー校とは学术交流の相互協定を平成 8 年に締結し，平成 11 年度から，学生の夏季語学研修を行っている．本年度の実施状況は次のとおりである．

(1)実施要領

| | |
|----------|--|
| 期 間 | 8月27日(土)～9月26日(月)(4週間) |
| スケジュール | |
| 8月27日(土) | 岡山空港 羽田空港 成田空港 |
| 8月28日(日) | 成田空港 ロンドン・ヒースロー空港 マンチェスター空港 バンガー：ホストファミリーと対面 |
| 8月29日(月) | オープニング・セレモニー，バンガー・オリエンテーション， ガイダンス |
| 8月30日(火) | 授業開始 フィールド・トリップ，プロジェクト，プログラム修了テスト |
| 9月23日(金) | クロージング・セレモニー |
| 9月25日(日) | バンガー マンチェスター空港 ロンドン・ヒースロー空港 |
| 9月26日(月) | 成田空港 羽田空港 岡山空港 |
| 募集人員 | 20名（最少催行人員10名） |
| 実施内容 | 英語力強化と英国文化体験．授業は午前9時から午後4時まで．毎週水曜はフィールド・トリップとしてバンガー近郊の都市や観光地を訪問． |
| 滞 在 先 | 基本的にホームステイ．ただし，1家族に学生2名，又は大学寮の可能性もある．ホームステイ先は出発前のアンケートを基に斡旋される． |
| 費 用 | 554,000円（岡山県立大学後援会から5万円の助成） |
| 単位認定 | 研修修了者に英会話，基礎英語，中級英語のうちから2科目，2単位まで卒業要件単位として認定． |

(2)参加者

参加学生は11名(男子1名，女子10名)，学部別内訳は，保健福祉学部8名，情報工学部3名であった．なお，制度発足以降の参加者数は次のとおりである．平成15年度はSARSの影響および平成16年度は最少催行人員の確保ができず，中止となった．

| 年 度 | 平成 11 | 平成 12 | 平成 13 | 平成 14 | 平成 15 | 平成 16 | 平成 17 | 平成 18 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 参加者数 | 11 | 10 | 11 | 23 | 中止 | | 17 | 11 |

(3)実施結果

研修参加者に対して，ウェールズ大学バンガー校がアンケートを行ったところ，研修全般について，全員が「極めて有意義であった」と評価し，授業については，「コミュニケーションスキル」が最も高く評価され，次いで，「発音練習」，「Directed study」，「Pronounced 英語」，「グループ活動」，「ディスカッション」，「イギリス文化の学習」の順であった．

また、ホームステイに関する自由記述では、体験して良かった、楽しかったなどの肯定的な意見が数多く寄せられ、十分な成果が挙げられたものと考えられる。一方、ホストファミリーについては、幾つかの問題点が指摘された。ホームステイ先から学校までの通学時間が、2分～1時間半と幅があり、研修生に大きな不満が残った。できるだけこの通学時間を要しないホームステイ先の確保、ならびに、ホストファミリーの情報を知らせる工夫等が必要である。ホームステイ先は研修内容を規定する一番重要な要因であるので、この問題について早急に検討することが求められる。

教員による引率については、参加者全員が「少し不安がある」という意見もあるが、基本的には引率なしで研修を実施しようという意見であった。

平成16年度は最少催行人員の確保ができず中止になった。平成17年度及び18年度は、周知期間を2ヶ月繰り上げて3月から周知したところ、多くの参加者が集まった。来年度も、引き続き、本研修を実施することとし、早期にウェールズ大学バンガー校との打合せを行う必要がある。

5.2 韓国語学研修

平成17年1月11日 韓国又松大学校と学術交流協定を締結した。この協定に基づいて、平成17年8月に初めて韓国語学研修を実施した。平成18年度も8月に実施した。

(1)実施要領

期間 8月6日(日)～8月20日(日)

スケジュール

8月6日(日) 岡山空港 韓国仁川国際空港 大田市又松大学校寮

8月8日(月) 歓迎式

8月8日(月) 授業開始

8月18日(金) 修了テスト及び修了式 大田市又松大学校寮 ソウル市

8月20日(日) ソウル市 韓国仁川国際空港 岡山空港

募集人員 20名

実施内容 韓国語研修と韓国文化体験。授業は午前10時から午後3時20分まで。

滞在先 又松大学校の大学寮

費用 12万円 (岡山県立大学後援会から1万円の助成)

以上の募集に対して8名の学生(修士3名、4年生：4名、3年生：1名)が参加した。

(2)実施結果の評価

[参加学生による評価のまとめ]

カリキュラムの内容ならびに量的な面で適切であった。

ウソン大学校が準備した文化体験では、貴重な韓国の歴史的・文化的な知識を得ることができた。

宿舎は清潔であり、大学から近かったこともあり、満足できる生活の場が提供された。

費用の観点から、特段の不満の声は聞かれなかったが、もう少し大学の援助があると、参加学生の増加が期待できるとの意見も聞かれた。

なお、多くの学生が参加することが、日韓友好にもつながる、という声が多かった。

[韓国語研修担当教員による評価のまとめ]

受講態度は、総じて真摯でまじめであった。具体的には、遅刻・居眠り学生はなく、宿題も適切にこなし、成績は到達点に十分達する上達度であった。

学生間の交流にも積極的に参加し、今後の日韓友好にとって、期待出来る成果と評価できる。特に、修了時に行なった学生ひとりひとりの挨拶は、単に研修成果を生かして韓国語でなされたと言うことだけではなく、内容的にも他大学の研修生に比して、感心に値するものとなっていた。

日本の他大学生の見本となる本学学生に参加して頂いたことは光栄であり、長く交流が継続されることを期待している。

[引率教員による評価のまとめ]

カリキュラムは、当初に予定された内容が実施され、単位修得にふさわしいものであった。参加学生が、すべて修了したことは、高く評価されよう。

又松大が学校ならびに教授陣の学生に対する準備、態度、配慮等は好感が持て、今後とも、その点については十分期待できる。

参加学生が保健福祉学部のみならず情報工学部にも広がったことは成果である。今後ともさらに多くの学生が参加出来るよう情報提供することが必要である。

5.3 中国語学研修

中国四川省成都市にある四川大学において、下記の実施要領に従って中国語学研修をはじめて実施することができた。

(1)実施要領

実施に当たり、次の要領で参加者を募集した。

期間 9月10日(日)～9月25日(月)

スケジュール

| | |
|-----------------|----------------------|
| 9月10日(日) | 岡山空港発 上海国際空港 成都国際空港着 |
| 9月11日(月) | 短期語学研修プログラム開始 |
| 9月16日(土),17日(日) | 樂山大仏・峨眉山観光 |
| 9月22日(金) | 短期語学研修プログラム終了 |
| 9月26日(月) | 上海国際空港 岡山空港 |

募集人員 20名

実施内容 中国語学研修，中国文化体験，学生間交流，文化史跡探訪・観光
(希望者に基礎中国語 を1単位に限り認定)

滞 在 先 四川大学の学生寮
費 用 16万円（岡山県立大学後援会から2万円の助成）

以上の募集に対して10名の学生(博士1名，学部9名)が参加した．

(2)実施経過ならびに評価

今回の研修では，保健福祉学部栄養学科1年生4名，2年生4名，3年生1名並びに中国出身の保健福祉学研究科博士後期課程3年生1名の，合計10名が研修を受けた．辻(英)教授が引率し，平成18年9月10日(日)に岡山空港を出発した．空港では，四川大学留学生係の職員の出迎えを受け，四川大学留学生寮に案内していただいた．学生は，翌日，11日(月)午前8時30分より12時まで海外教育学院で中国語を学習した．実質的な研修は，11日(月)～15日(金)，18日(月)～22日(金)の10日間であった．研修は午前には中国人教員により中国語だけで行われ，中国語の文法，発音，ビデオ鑑賞などを通して密度の高い学習が行われた．最終日の22日に修了書が渡された．自由時間の午後は，自由行動中でも午前中の授業が気になり，発音などの復習をしていた．午前の学習とは別に，大学側は幾つかの文化体験も企画していただき，三国志で有名な黄龍，四川大学の新校区，パンダの見学，太極拳及び書道体験などを学生は楽しむことができた．また，16,17日の2日間，世界遺産である楽山・峨眉山を観光した．

学生は，中国語を学習する過程で，中国人のみならず，外国人とも出会い，広大な中国を体験し，成長著しい中国経済の胎動を実感することにより，学生の世界観が大きく広がった様子であった．今回の研修は，参加学生が充実した学習を受けることができたこと，とりわけ，生の中国語を勉強できたことは感銘深いものがあったようである．全体を通して，滞在中特に問題が生じなかったことを考慮すると，初回の語学研修としては満足すべきものといえよう．

5.4 海外語学研修の課題

英国，韓国，中国における語学研修の実施結果から，次の事項が主要課題と言えよう．参加学生の所属は保健福祉学部が大半を占めており，情報工学部とデザイン学部学生の参加を促進すること．

現地情報，特にホームステイ先に関する情報の収集と参加希望者への事前提供．
研修の実施体制，特に引率体制について再考が必要である．

6. 学内共同教育施設および附属図書館

6.1 語学センター

6.1-1 語学教育の改訂

本学では国際化、高度情報化社会における「使える英語」を全学生に習得させることを目指して、平成16年度に英語教育のカリキュラム改正を行い、平成17年度から全学生が1年次で英語4単位(基礎英語、英会話)を必修とすることになった。(図2.6-1参照)

| 学年 | TOEIC | ALC | 前期 | | 後期 | |
|----|---------|-----------------------|------|-----|------|-----|
| 4 | 学内テスト 4 | ↑ 自 学 自 習 | 上級英語 | | 上級英語 | |
| | " 3 | | | | | |
| | " 2 | | | | | |
| | " 1 | | | | | |
| 3 | 学内テスト 4 | 自 学 自 習 | 上級英語 | | 上級英語 | |
| | " 3 | | | | | |
| | " 2 | | | | | |
| | " 1 | | | | | |
| 2 | 学内テスト 4 | | 中級英語 | 英会話 | 中級英語 | 英会話 |
| | " 3 | | | | | |
| | " 2 | | | | | |
| | " 1 | | | | | |
| 1 | 学内テスト 4 | | 基礎英語 | 英会話 | 基礎英語 | 英会話 |
| | " 3 | | | | | |
| | " 2 | | | | | |
| | " 1 | | | | | |

■ 全学必修科目

* 情報工学部 システム必修科目(+中級、英会話)

図 2.6-1 英語教育カリキュラム

基礎英語、英会話ではシラバスの統一をはかり、全学生が同質の授業を受け、同じ基準で評価されるよう配慮されている。さらに、2年次生には中級英語、英会話、3,4年次生を対象に上級英語が開講されるので、希望者は4年間一貫して英語を学ぶことができるようになった。また学内LANにより英語学習システム「ALC ネットアカデミー」を利用すれば、英語の種々の運用能力を高めて、TOEICなど各種語学試験の準備をすることが可能である。英語以外の外国語としては基礎ドイツ語、基礎フランス語、の他に、東アジア圏との国際交流を視野に入れ、中国語、韓国語を開講している。

6.1-2 CALL 教室の開設と e-ラーニングの導入

開学当時に設置された LL 教室は、近年老朽化が激しく、授業で使用できる状態ではなくなっていた。また、ALC ネットアカデミーは導入されているものの、語学センターには旧式のパソコンが 5 台しかなく、e-ラーニングを利用する環境になかった。



そこで、LL 教室を全面改装することになった。まず、平成 17 年度には 8122 教室、翌 18 年度に 8120 教室に CALL(Computer Assisted Language Laboratory)教室を開設した。現在、2 教室で計 78 台の PC が使用でき、語学の授業が同時に 2 クラス開講できる。平成 19 年 1 月現在の主要設備一覧を表 2.6-1 に示す。

表 2.6-1 語学センターの主要機器設備一覧

(平成 19 年 1 月 23 日現在)

8120 教室設置機器

| 機器名 | 規格 | 数量 |
|----------------|-------------|------|
| OPTIPLEX GX280 | 19 インチ(サイズ) | 45 台 |
| 教示用モニター | | 23 台 |
| (出力可能) | 教師用 P C | |
| (") | ビデオ | |
| (") | D V D | |
| (") | L D | |
| LBP-2260PS A | カラープリンター | 1 台 |
| LBP-2260PS B | " | 1 台 |
| LBP-930EX A | モノクロプリンター | 1 台 |
| LBP-931EX B | " | 1 台 |

8122 教室設置機器

| 機器名 | 規格 | 数量 |
|----------------|-------------|------|
| DIMENSION 8300 | 17 インチ(サイズ) | 4 台 |
| OPTIPLEX SX280 | 19 インチ(サイズ) | 1 台 |
| OPTIPLEX GX620 | 17 インチ(サイズ) | 28 台 |
| プロジェクター | | 1 台 |
| (出力可能) | P C | |
| (") | ビデオ | |
| (") | D V D | |
| LBP-2810 | カラープリンター | 1 台 |
| NX-700 | モノクロプリンター | 1 台 |
| | | |

さらに、本学では平成 16 年より e-ラーニングシステムである ALC ネットアカデミーを導入している。語学センターによる全学生及び全教員のアカウントの管理のもと、大学全体が学内 LAN を利用し、いつでもどこでも英語を学習できる体制にある。

本学の 1 年生は、基礎英語 I の最初の 4 回の授業の中で、ALC の利用法を修得し、ALC による英語能力の自己診断と目標設定を行い、4 年間にわたる英語の自学自習の体制の確立を目指している。

6.1-3 学生支援

[就職活動の支援]

語学センターは CALL 教室の整備により、語学の授業以外は、学生の ALC 学習のために教室を開放している。就職が内定した学生の中には、企業から TOEIC スコアのレベルを指定される学生も少なくない。学生の一部は休暇中でも TOEIC 対策に熱心に取り組んでいる。語学センターにおける ALC 利用者数を表 2.6-2 に示す。但し、ALC は学部棟からも利用が可能であり、その利用者数は同表に含まれてない。

[英会話の個人指導]

語学センターではマシンによる語学学習ばかりでなく、ティーチング・アシスタント (TA) による個人あるいはグループへの英会話指導を行っている。希望者は毎週 1 回 30 分の指導を受けることができる。平成 18 年 1 月から 12 月までの個人指導は 356 名であった。

表 2.6-2 平成 18 年度 語学センターにおける ALC 利用状況

(平成 19 年 2 月 28 日現在)

| 教室番号 | 4月 | | | | 5月 | | | | 6月 | | | | 7月 | | | | 前期計 | | | |
|------|----|----|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|-----|
| | 保福 | 情報 | D | 計 | 保福 | 情報 | D | 計 | 保福 | 情報 | D | 計 | 保福 | 情報 | D | 計 | 保福 | 情報 | D | 計 |
| 8122 | 0 | 0 | 0 | 0 | 6 | 5 | 19 | 30 | 9 | 3 | 14 | 26 | 0 | 2 | 6 | 8 | 15 | 10 | 39 | 64 |
| 8120 | 5 | 8 | 2 | 15 | 3 | 7 | 1 | 11 | 1 | 20 | 8 | 29 | 0 | 8 | 5 | 13 | 9 | 43 | 16 | 68 |
| 8211 | 1 | 1 | 3 | 5 | 4 | 2 | 8 | 14 | 1 | 13 | 10 | 24 | 1 | 2 | 7 | 10 | 7 | 18 | 28 | 53 |
| 計 | 6 | 9 | 5 | 20 | 13 | 14 | 28 | 55 | 11 | 36 | 32 | 79 | 1 | 12 | 18 | 31 | 31 | 71 | 83 | 185 |

| 教室番号 | 8月 | | | | 9月 | | | | 夏期休業計 | | | |
|------|----|----|---|---|----|----|----|----|-------|----|----|----|
| | 保福 | 情報 | D | 計 | 保福 | 情報 | D | 計 | 保福 | 情報 | D | 計 |
| 8122 | 0 | 0 | 6 | 6 | 0 | 0 | 11 | 11 | 0 | 0 | 17 | 17 |
| 8120 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 8211 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 計 | 0 | 0 | 6 | 6 | 0 | 0 | 11 | 11 | 0 | 0 | 17 | 17 |

| 教室番号 | 10月 | | | | 11月 | | | | 12月 | | | | 1月 | | | | 2月 | | | | 後期計 | | | |
|------|-----|----|----|----|-----|----|----|----|-----|----|---|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|-----|-----|----|-----|
| | 保福 | 情報 | D | 計 | 保福 | 情報 | D | 計 | 保福 | 情報 | D | 計 | 保福 | 情報 | D | 計 | 保福 | 情報 | D | 計 | 保福 | 情報 | D | 計 |
| 8122 | 31 | 7 | 4 | 42 | 12 | 19 | 7 | 38 | 4 | 20 | 0 | 24 | 0 | 40 | 13 | 53 | 1 | 33 | 7 | 41 | 48 | 119 | 31 | 198 |
| 8120 | 3 | 0 | 3 | 6 | 0 | 7 | 0 | 7 | 1 | 0 | 2 | 3 | 0 | 33 | 6 | 39 | 2 | 28 | 8 | 38 | 6 | 68 | 19 | 93 |
| 8211 | 5 | 1 | 4 | 10 | 1 | 0 | 4 | 5 | 1 | 3 | 3 | 7 | 0 | 8 | 3 | 11 | 0 | 8 | 6 | 14 | 7 | 20 | 20 | 47 |
| 計 | 39 | 8 | 11 | 58 | 13 | 26 | 11 | 50 | 6 | 23 | 5 | 34 | 0 | 81 | 22 | 103 | 3 | 69 | 21 | 93 | 61 | 207 | 70 | 338 |

| 教室番号 | 前期計 | | | | 夏期休業計 | | | | 後期計 | | | | 18年度計 | | | |
|------|-----|----|----|-----|-------|----|----|----|-----|-----|----|-----|-------|-----|-----|-----|
| | 保福 | 情報 | D | 計 | 保福 | 情報 | D | 計 | 保福 | 情報 | D | 計 | 保福 | 情報 | D | 計 |
| 8122 | 15 | 10 | 39 | 64 | 0 | 0 | 17 | 17 | 48 | 119 | 31 | 198 | 63 | 129 | 87 | 279 |
| 8120 | 9 | 43 | 16 | 68 | 0 | 0 | 0 | 0 | 6 | 68 | 19 | 93 | 15 | 111 | 35 | 161 |
| 8211 | 7 | 18 | 28 | 53 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7 | 20 | 20 | 47 | 14 | 38 | 48 | 100 |
| 計 | 31 | 71 | 83 | 185 | 0 | 0 | 17 | 17 | 61 | 207 | 70 | 338 | 92 | 278 | 170 | 540 |

Dはデザイン学部

[教材のコレクションと貸出し]

語学センターでは英語及び開講外国語のマルチメディア教材，各種英語検定試験用の問題集の教材を多数収集し，希望学生に貸出しを行っている．貸出し状況等を表 2.6-3 と図 2.6-2 にまとめて示す．

表 2.6-3 教材の貸出し状況

(平成 19 年 2 月 28 日現在)

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|------|-----|-----|-----|-----|----|----|-----|-----|-----|----|-----|----|-------|
| 自主学习 | 138 | 322 | 285 | 99 | 15 | 14 | 201 | 172 | 53 | 63 | 73 | 0 | 1,435 |
| その他 | 111 | 78 | 45 | 39 | 6 | 4 | 98 | 45 | 48 | 36 | 51 | 0 | 561 |
| 合計 | 249 | 400 | 330 | 138 | 21 | 18 | 299 | 217 | 101 | 99 | 124 | 0 | 1,996 |

* 自主学习とは，語学の学習，TOEIC の学習，TA による英会話，個人指導で個別実習室などを利用した数

* その他は，本・ビデオ・テープの貸し出し及びダビング，語学に関する問い合わせ，英検の申し込み等

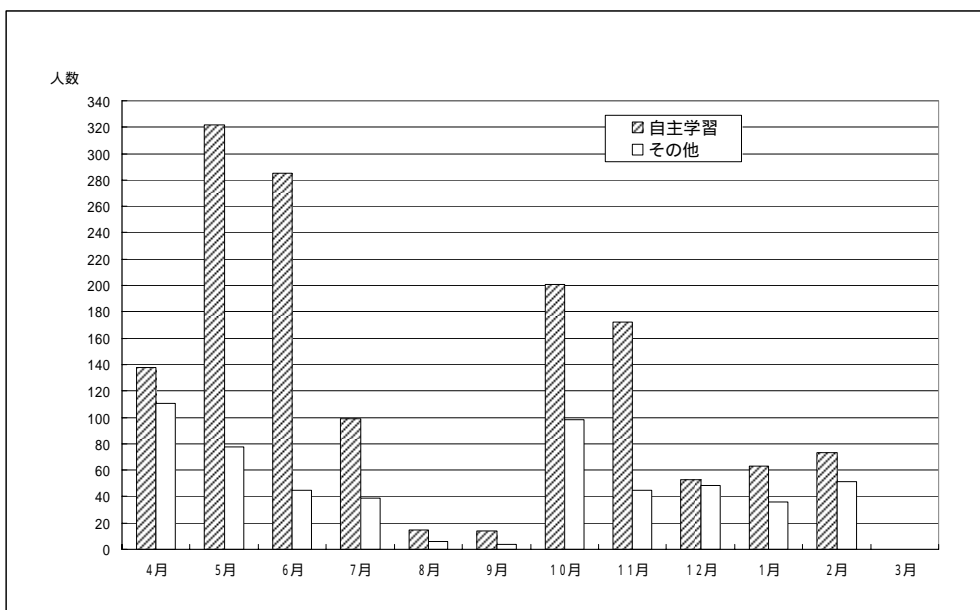


図 2.6-2 語学センター利用状況(平成 18 年 4 月～平成 19 年 2 月)

6.1-4 TOEIC IP テスト

岡山県立大学の英語の授業のうち，基礎英語 I，中級英語 I，上級英語 I は主に TOEIC 対策である．それぞれ TOEIC 400 点以上，500 点以上，650 点以上を獲得できるレベルを目指している．特に上級英語 I の受講生には学内で定期的に行われる TOEIC IP テストの受験を目標としている．平成 18 年度は学内で 3 回実施した．表 2.6-4 に示すように，受験者の平均点が年々上昇していることが注目される．

表 2.6-4 TOEIC IP テストの実施状況

平成 19 年 2 月 28 日現在

| 実施回数 | 実施月日 | | 受験者数 (人) | 最高(点) | 最低(点) | 平均(点) |
|--------|-----------|-----------|-------------|-------|-------|-------|
| 1 | 平成 16 年 | 5 月 26 日 | 12 | 560 | 255 | 400.0 |
| 2 | 平成 16 年 | 10 月 21 日 | 23 | 635 | 280 | 389.8 |
| 3 | 平成 17 年 | 2 月 21 日 | 20 | 540 | 215 | 365.8 |
| | 平成 16 年度計 | | 55 | | | 385.2 |
| 4 | 平成 17 年 | 5 月 19 日 | 20 | 625 | 280 | 420.3 |
| 5 | 平成 17 年 | 10 月 27 日 | 19 | 690 | 335 | 442.1 |
| 6 | 平成 18 年 | 2 月 22 日 | 15 | 600 | 275 | 420.7 |
| | 平成 17 年度計 | | 54 | | | 427.7 |
| 7 | 平成 18 年 | 5 月 17 日 | 17 | 535 | 300 | 436.2 |
| 8 | 平成 18 年 | 11 月 20 日 | 14 | 780 | 255 | 502.1 |
| 9 | 平成 19 年 | 2 月 19 日 | 16 | 525 | 270 | 392.5 |
| | 平成 18 年度計 | | 47 | | | 443.6 |
| 受験者延人数 | | | 156 | | | 418.8 |

6.1-5 イベントの開催

[映画上映]

語学センターでは語学教育の一環として、語学力の向上、異文化理解を目指し、毎月 2 回、大画面で名作映画の鑑賞会を開催している。平成 18 年度は 4 月 1 日から 11 月 30 日の間に計 8 回行った。

[国際教養講座]

語学センターは各言語の運用能力の向上はいうまでもなく、語学学習を通じて海外の文化を学んだ高度教養人の育成、ひいては豊かな人間性の涵養を目指している。毎年秋に講師を招き、学内外を対象に国際教養講座を催している。平成 18 年度は「歌で身につく英語のリズム」と題して、岡山商科大学教授(本学名誉教授)三宅忠明氏にご講演いただいた。なぜ英語学習に歌が必要か、歌の効果的な活用法等の視点からお話いただいた。語学センター-CALL 教室の一般公開も兼ね、本年度の講演会は 8122 教室で行った。



三宅忠明先生による講演会



[留学生との交流（スピーカーズ・コーナー）]

毎年秋に開催する「スピーカーズ・コーナー」は日本人学生は英語で、留学生は日本語で、率直かつ自由に意見を述べるスピーチ大会であり、留学生と日本人学生との国際交流の場となっている。平成 18 年度の「スピーカーズ・コーナー」では、11 名の学生が参加した。(次頁のプログラム参照)



スピーカーズ・コーナーの参加者



6.1-6 情報発信

[ホームページ]

語学センターでは日本語版と英語版のホームページを公開している。語学センターの活動、スタッフの紹介等の他に、語学センターの催しやお知らせ等の情報を随時、学内外に広く発信している。



[研究紀要]

毎年，年度末に語学センターのティーチング・スタッフを中心に『語学センター研究紀要』を出版している．

[スピーカース・コーナー]

スピーカース・コーナー終了後，発表した学生のスピーチを冊子にまとめ，学内外の関係者に配布している．



『語学センター研究紀要』と『スピーカース・コーナー』

6.1-7 今後の課題

予算が厳しい中，短期間のうちに語学センターの施設整備が進んだのは，三宮学長をはじめ関係者の理解と英断によるところが大である．2つのCALL教室ができた結果，全学生がコンピュータを使える環境のもとで語学の授業を受講できるようになり，eラーニングに対応できるようになった．さらに，英語の授業の大半を月曜日と火曜日にまとめることができ，大学全体の時間割編成がスムーズに運ぶことにも貢献することとなった．

平成18年度，英語のカリキュラム改訂は2年目を迎え，中級英語，と英会話，を開講した．来年度はいよいよ上級英語，の開講となる．平成17年度以来，学生を対象に英語教育とALCに関するアンケート調査を行い，データの蓄積をはかってきた．今後もこのアンケートを継続し，英語カリキュラムの改訂に資する資料としたい．

英語のカリキュラムを改訂し，学生に語学学習の機会を準備しても，学生本人が学ばないことには，何の効果もあがらない．語学センターは，学生が英語を自ら学ぶモチベーションを見出すきっかけを，学生支援プログラムや各種のイベントを通して提供したい．授業では，学年ごとに定めたALCの到達目標の達成度を確認し，自学自習が積極的に行われているか定期的にチェックする必要がある．自発的に英語を学ぶ学生が1人でも多く誕生することを期待したい．

語学センターの今後の課題は，英語のカリキュラム改訂を粛々と進め，英語の自学自習を定着させ，学生全体の英語力アップをはかることである．その評価基準として，学内で定期的にTOEIC IPテストを実施し，そのデータをもとに，ALCの習熟度とTOEICの成績との相関関係を明らかにすることも今後の課題の一つである．

平成 18 年度 語学センターティーチング・スタッフ

英語

桂 宥子 (センター長; 情報工学部教授)
山磨 康子 (保健福祉学部教授)
沼本 健二 (副センター長; 保健福祉学部助教授)
アンソニー・ブルネリ (副センター長; デザイン学部助教授)
長谷川 弘基 (デザイン学部助教授)
松尾 ポーラ (非常勤講師)
キャレン・アン・スタッフォード (非常勤講師)
シャーリー・リーン (非常勤講師)
上仲 律子 (非常勤講師)
平松 進 (非常勤講師)

ドイツ語

子野日俊夫 (デザイン学部教授)

フランス語

瀧本雅志 (デザイン学部助教授)

中国語

華 信来 (非常勤講師)

劉 建雲 (非常勤講師)

韓国語

柳 漢守 (非常勤講師)

日本語

柴田奈美 (短期大学部助教授)

6.2 情報教育センター

情報教育センターは、情報化と国際化が社会のあらゆる分野で広がっていることを受けて、学生教育と教員の教育研究活動を支援する体制を整えている。教育活動では、情報活用能力の向上を図るため、ネットワーク接続されたPCを演習や自由利用のために提供している。また、学内ネットワークのセキュリティや研究支援にも即応できる体制をとっている。

6.2-1 情報処理演習教育の改訂

いわゆる一般情報処理教育の見直しは、平成16年度の教務専門委員会で行われた。高等学校の教科「情報」の実施を受けるとともに、いわゆる一般教育としての情報処理の立場からも見直しを図り、授業科目名を「コンピュータ演習」に統一し、1単位の科目として再設定を行った。

6.2-2 情報処理演習室

情報処理演習室に設置されている教育用システムは平成11年度に更新の後、平成17年度に全面的な入れ替えを行った。従前は、WindowsとMacintoshの2種類の環境を準備していたが、演習教育の改訂に伴い、Windows環境に統一を図った。

演習室(学部共通棟南8211(定員56名))では、情報処理の演習授業を実施するとともに、開放日を週3日設けて、学生が自由に利用できる体制をとっている。

6.2-3 学内ネットワークシステムの構築と運用管理

学生には入学時、メールアドレスを付与し、学内外との連絡等が円滑に行えるようにしている。また、各学部、情報処理演習室等に備えたPC端末から岡山情報ハイウェイを経由してSINETに接続されている。



図 2.6-5 情報処理演習室

6.2-4 自主学習の支援

前項の演習室は、情報処理の演習授業の他に、週3日学生の利用に開放されている。開放日にはSEが常駐し、操作方法の支援、指導を行うとともに、機器等のトラブルにも即応している。図2.6-6に開放時間中の利用実績を示す。さらに、平成16年度の学生生活アンケートで出された自習用PCの台数増および使用時間の延長に対する要望に応え、図書館ロビーにレポート作成用PCを設置し、多くの学生に活用されている。自学・自習に関する課題は、演習室開放時間の再検討である。

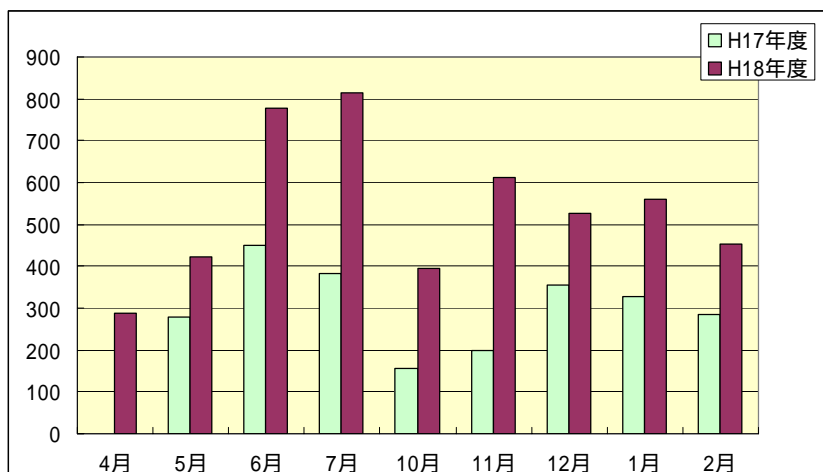


図 2.6-6 情報処理演習室の開放状況

6.3 附属図書館

6.3-1 概要

岡山県立大学附属図書館は1,2階合わせて2,628㎡の総フロアを有する。閲覧室の全座席数は166席、この他に、個人閲覧室が3室、グループ閲覧室1室(12名用)がある。また、AV(視聴覚)コーナーを設置し、AV教材による学習ができるシステム(8台)を備えている。その他にOPAC端末5台、CD-ROM検索とインターネット検索ができる端末を10台、館内貸出のノートパソコン5台、マイクロリーダー1台を設置している。エントランスホールには、レポート作成用パソコン10台、新聞10紙(国内9紙・外国紙1紙)を備え提供している。蔵書内容は、図書・製本雑誌等で約20.6万冊、DVD・ビデオ等の視聴覚資料4,100本、継続購入雑誌が311種(内45種は村川工業ライブラリーからの寄贈)である。これらはすべてコンピュータ管理されている。

運営は、図書館長、大学の8学科、短期大学部3専攻から選出された委員及び事務局長で構成される図書館専門委員会が所掌し、図書館の運営、図書館資料の収集、その他の図書館に関する重要事項について審議している。開館時間は、学部講義期間は平日9時～21時30分、土曜日は9時～17時である。

6.3-2 利用状況

図書の貸出冊数および期間については、学生5冊2週間、大学院生10冊2週間としている。長期休業時には、特別貸出を行い貸出冊数・期間の便宜を図っている。

時間外開館の利用率は高く、平成18年4月から12月までの7ヶ月(8,9月は時間外開館未実施)で、総利用者数91,293人の約20%の17,696人の館内利用、また、総貸出冊数21,161冊の約30%にあたる6,133冊の館外貸出利用があった。試験前・試験中は館内の閲覧席が不足するため、グループ閲覧室を開放する日もある。これらの利用状況をまとめて表2.6-5に示す。

表 2.6-5 図書館利用状況

| 区 分 | | 平成 18 年 4 月 ~ 平成 19 年 2 月 |
|------------|----------|---------------------------|
| 開 館 日 数 | | 251 日 |
| 入館者数 | 総数 | 111,237 人 |
| | 1 日平均 | 444 人 |
| 貸出冊数 | 総数 | 25,499 冊 |
| | 1 日平均 | 102 冊 |
| 視聴覚資料利用者 | | 279 件 |
| ノートパソコン利用者 | | 802 件 |
| インターネット利用者 | | 5,906 件 |
| 相互協力 | 文献複写依頼件数 | 2,351 件 |
| | 受付件数 | 702 件 |
| | 図書貸借依頼件数 | 145 件 |
| | 受付件数 | 135 件 |

< 月別開館日数 平成 18 年 4 月 - 平成 19 年 2 月 >

単位：日

| 項 目 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 合計 |
|------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|-----|
| 開館日数 | 23 | 34 | 26 | 25 | 23 | 20 | 24 | 22 | 22 | 20 | 23 | 251 |
| 土曜開館 | 3 | 4 | 4 | 5 | 0 | 0 | 4 | 3 | 3 | 2 | 4 | 32 |

(下段の土曜開館日数は、開館日数の内数)

< 月別館外貸出冊数 平成 18 年 4 月 - 平成 19 年 2 月 >

単位：冊

| 項 目 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 合計 |
|----------------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 保健福祉学部 | 1,270 | 1,539 | 1,915 | 1,426 | 518 | 294 | 1,103 | 1,214 | 850 | 1,124 | 73 | 11,986 |
| 情報工学部 | 248 | 307 | 358 | 399 | 105 | 69 | 223 | 280 | 199 | 286 | 309 | 2,783 |
| デザイン学部 | 350 | 393 | 433 | 465 | 137 | 111 | 419 | 396 | 360 | 380 | 479 | 3,923 |
| 短期大学部 | 102 | 196 | 251 | 156 | 81 | 44 | 150 | 99 | 136 | 149 | 52 | 1,416 |
| 大 学 院 | 250 | 315 | 370 | 374 | 203 | 149 | 309 | 211 | 219 | 221 | 175 | 2,796 |
| 教 職 員 | 265 | 182 | 193 | 173 | 191 | 149 | 175 | 167 | 159 | 195 | 180 | 2,029 |
| 相互協力・ 学外者・他 | 67 | 98 | 80 | 19 | 64 | 28 | 75 | 44 | 36 | 30 | 25 | 566 |
| 合 計 | 2,552 | 3,030 | 3,600 | 3,012 | 1,299 | 844 | 2,454 | 2,411 | 1,959 | 2,385 | 1,953 | 25,499 |
| 一日当たりの 貸出冊数 | 111 | 132 | 139 | 121 | 57 | 43 | 103 | 110 | 89 | 120 | 85 | |

6.3-3 相互協力

(1) 県内公共図書館との相互協力

岡山県図書館横断検索システムの参加

平成 17 年 1 月から、「岡山県図書館横断検索システム」に参加し、本学図書館の蔵書内容を広く公開している。この岡山県図書館横断システムは、岡山県立図書館がセンター館となって、県内の公共図書館を中心に大学図書館も参加するという館種を越えた岡山県の図書館の総合利用を可能にしたネットワークである。所蔵データ 650 万件以上を有する目録データベースであり、現在の参加館は、岡山県内の公共図書館 30 館、私立図書館 1 館、大学図書館 3 館の合計 34 館となっている。インターネット上で利用したい資料を横断検索することにより、どの図書館が所蔵しているかが瞬時に分かる。情報ネットワークを介して館種を超えた情報資源の共有化が実現しているシステムである。参加することにより、「岡山県図書館間相互貸借システム」、「図書館資料搬送実施施設指定館」、「インターネット予約受渡館指定館」の指定が得られ、インターネットで貸出予約してその本の受取・返却の際に、本学を指定することも可能となった。また、県立図書館から直接借りた図書を本学図書館で返却できるようになった。さらに、岡山県立図書館からの搬送便が、本学図書館まで週 2 回の定期的な乗り入れ体制が整い、利用者には送料負担も掛からなくなるなど、利便性が飛躍的に向上した。

(2) 他大学等の相互協力

岡山県内の大学等

県内 19 大学の附属図書館(含短期大学)と高等専門学校 1 校で、岡山県大学図書館協議会相互協力協定を締結し、参加館の教職員・学生が図書館を相互に利用できるようにしている。一部の大学を除けば貸出も可能である。本学の学生等も他大学図書館をよく利用していることが報告されている。

県外の大学等

国立情報学研究所の NACSIS-CAT/ILL(目録データベース・図書館間相互貸借)に参加している。参加機関は大学・高等専門学校・海外機関等を含め、1,183 機関、8,294 万件の目録データベースを所有している。国内最大の目録データベースである。そのデータベースにオンライン上で文献複写依頼・図書貸借を行い、学生の学習等の援助を行っている。

7. F D活動

大学教員に対する狭義のF Dとは、教育能力の開発と向上を意味する。本節では、狭義のF Dについて、教育能力の重要な要素である授業方法の改善に関する全学的な活動を扱う。平成17年度はF Dの一環として、授業評価で高い評価を受けた教員による講演が開催された。本年度は、前年度の実績を踏まえ、モデル授業を学ぶ観点から、授業評価の高い授業を参観することにより、授業方法の改善や教授能力の向上を図ることを意図したものである。

7.1 授業参観の企画

本学評価委員会F D部会の企画により、各学部及び短期大学部の中から、授業評価で最も高い評価を得た教員を学部ごとに1名選出した。そして、当該教員が担当する講義を、所属学部の全教員が参観し、モデル授業から学んだことを中心にレポートを提出することを義務付けた。

7.2 授業参観の実施

授業参観を平成18年11月～12月に実施した。参観教員の多くから、自分の授業を見直す良い機会であり、多くの示唆を得たとの感想が述べられるなど、概して好評であった。

[保健福祉学部]

- ・ 授業実施教員と授業科目：栄養学科 高橋吉孝教授，応用栄養生理学
- ・ 実施日時： 11月1日(水)，8日(水)，15日(水) 第3限
- ・ 参観教員： 37名(学部所属教員54名)
- ・ 参観教員によるレポートの要約：

実施回数を参観者数や授業への影響を考慮し3回とし、1回当たり10数名とした。初めての試みである授業参観を体験し、多く教員が自己の授業を見直す良い機会であったと評価した。

評価されたポイントは、講義開始時に前回の内容が復習され、本講義との結びつきが理解しやすかったが、復習に時間を取りすぎるとの意見もあった。講義内容を学生が理解できていたかどうかをその都度確認していたこと、疾患にからめて、その機序や生理を説明している点は、学生に理解しやすいとの意見であった。また、重要箇所や必ず覚えてほしい点を復唱するなど、ポイントを押さえた授業であった。

資料はプリントで配布され、資料に沿った講義であった。資料に通し番号が付され、前回の講義を振り返る際は、学生に理解しやすかった。講義終了後、講義内容を踏まえた小テスト(国家試験問題を抜粋)が実施され、講義内容を基にした知識を身につけさせていた取組みは、高く評価されていた。

批判点として、内容が多く時間が足りない感じであったこと、双方向授業を意図し学生も真剣に受講していたが、反応が少ないなどの問題点も指摘された。講義資料等授業の準備、ゆっくりと理解を促す講義、双方向性の授業、小テストの実施とモデル授業から多くの示唆を得たことが成果と言える。

[情報工学部]

- ・授業実施教員と授業科目： 情報通信工学科 金川明弘助教授，数理計画学
- ・実施日時： 11月14日(火),12月5日(火),12日(火)第4限
- ・参観教員： 33名(学部所属教員49名)
- ・参観教員によるレポートの要約：

学生の授業評価で最も高い評価を得たことが，どの点にあったのか，参観教員が再認識する講義であった．わかりやすい授業実践はどの教員も心がけている．しかし，自分の授業を客観的に見ることはできないので，学生には「この程度で通じるはずだ」で講義しているが，模範講義を見ると，自分の講義ではそれらが徹底できてなかったことを痛感した教員が多かった．たとえば，大きな声で話すよりマイクを使うほうが明瞭であること，板書を丁寧にする事，黒板を写す時間を意識的に与えることも大事だと再認識させられた教員が多い．

学生を飽きさせない工夫，長時間にわたり板書しながら語るのではなく，短い周期で，語る，板書する，書き写すための時間を与える．さらに，重要な点は，明瞭で短い言葉にする，学生の理解度を観察しながら進める，一方的な説明でなく語りかけるように話す，講義に関するエピソード，余談を交えるなど，さまざまな工夫がなされていることにも感心している．

その一方で，マイナス面の指摘もある．授業内容を易しくすれば評価が上がること，学生の将来を考えると，四苦八苦する内容まで教える必要があること，卒業後も参考になる名著を与えるなど，長いスパンでの評価も重要である．これを理解した上で，興味を持たせる授業にする必要があると参観教員は感じていた．



情報工学部授業参観
数理計画学，金川助教授
平成18年12月5日(火)4限



[デザイン学部]

- ・授業実施教員と授業科目： 造形デザイン学科 吉原直彦教授 造形構成論
- ・実施日時： 11月20日(月)12月4日(月)第3限
- ・参観教員： 23名(学部所属教員39名)
- ・参観教員によるレポートの要約：

2回に分けた授業参観に、参観教員は、ほぼ半数に別れて聴講した。授業の進行や内容等に関するレポートは上質であり、意識の高さが裏づけられている。授業の進行に関しては、導入・内容説明・資料提示・総括と、90分をテンポよく配分し、話し方や間の取り方、教材の切り替えなどにメリハリがあり、学生をあきさせないリズムがあったという意見が多数で評価が高い。授業前にすでに書かれている板書や、プリントされたサブテキスト、スライド、OHPなど、さまざまな教材は、学生の集中力を途切れさせない工夫がされており、サブテキストは、予習復習を促す内容でノートに添付できる配慮がされていた。これは参考にしたいとする教員が多くみられた。

問題点は、昼食後の3限の授業であるためか、眠っている学生が目立ったことで、良い授業でも眠る学生がいる矛盾を感じた教員は多い。全ての感想を総括すると、周到的な事前準備が、負担なく到達目標へ導けること、教員の情熱が学生を引き込み、教育効果を高めることに集約される。今後の授業能力の改善・向上のためには「学生に評価の高い授業」以外の授業参観の実施を望む声もある。

[短期大学部]

- ・授業実施教員と授業科目： 生活福祉学科 西山修講師 幼児臨床心理学
- ・実施日時： 11月30日(木) 第3限
- ・参観教員： 22名(短期大学部所属教員23名)
- ・参観教員によるレポートの要約：

参加者のほぼ全員が、授業参観の意義を認め、今後の授業改善の必要性を学んでいる。特に評価している点を列挙する。

(1)講義の目的と意義についての明示、(2)導入として最近のニュースなどからの関連事項の紹介、(3)学生による資料作成への参加と学生自身の説明、(4)他学生からの積極的質問、(5)ビデオやPPなどの適切な使用による「わかりやすい」解説、(6)臨床模擬体験(知能テストの部分体験)、(7)心理分析票を利用した分析体験の導入、(8)分析法の事例解説の的確さ、(9)まとめと確認の整理のわかりやすさ、(10)シャトルカードによる学生自身のまとめの実施。

その他、優しく解りやすい説明、多様な教材の提供、学生と教員、学生と学生の交流の導入なども評価され、何よりも、教員の授業準備の良さが高く評価されていた。



短期大学部授業参観 平成 18 年 11 月 30 日(木) 3 限
幼児臨床心理学 西山修講師

7.3 今後の課題

本年度は平成 17 年度の実績を踏まえ、モデル授業を学ぶ観点から、授業評価の高い授業を実地に参観することにより、授業方法の改善や教授能力の向上を図ることを意図して実施した。そして、多くの教員の参加を得た。今後の課題は、参観の目的や方法等を再検討し、体系的な授業参観を企画するとともに、モデル授業以外の参観にも取り組むことである。

8. 学生による授業評価

本学では、平成 15 年度後期に一部の全学教育科目を対象に、学生による授業評価を試行的に導入し、開発した授業評価尺度の妥当性と信頼性を確認しつつ、平成 16 年度と 17 年度の前期・後期、平成 18 年度前期の計 5 回の授業評価を全面实施した。

学生による授業評価は、評価を実施し、教員の授業に対して学生がどのように判断しているかを知るよい機会と位置づけることが可能である。もちろん、学生による授業評価が必ずしも適切に評価された内容とは言い切れないが、授業の進め方や内容などに関する問題点が相当明らかにされるものと推察できる。したがって、授業評価結果を、教員は真摯に受け止め、自らの授業の改善に役立てることが望まれる。

本学では、平成 17 年 6 月に、「OpU FD 活動 学生と教員による授業改善を目指して」と題する講演会を開催した。講演会には、多くの学生及び教員が出席し、授業評価得点が高い教員による講演を行い、授業実施の際の工夫点や注意点などについて、講演が進められた。

さらに平成 18 年度には、FD 活動をより実りあるものにするために、教員相互の授業参観も導入した。今後とも、FD 活動をさらに充実させ、本学の教育水準をより向上させることが望まれる。

本教育年報では、平成 17 年度の後期と平成 18 年度の前期の授業評価資料のみならず、これまでに継続してきた資料を用いて結果を取りまとめた。報告の重要点は、数回の縦断的な授業評価資料による詳細な検討である。結果を直視し、さらなる授業改善に向けての継続した教員の努力が望まれよう。

8.1 授業評価の目的と実施方法

8.1-1 目的

教育改革をより積極的に展開するための基礎資料を得ることをねらいに、平成 17 年度後期の主な目的は、

- (1)平成 17 年度後期の「岡山県立大学授業評価測定尺度」の得点分布の算出
- (2)平成 16 年度後期の結果と平成 17 年度後期の結果の比較検討

である。平成 18 年度前期の主な目的は、

- (1)平成 18 年度前期の「岡山県立大学授業評価測定尺度」の得点分布の算出
- (2)平成 16 年度前期から平成 18 年度前期までの 3 年間の比較(評価測定尺度の得点の推移)

である。

8.1-2 実施方法

(1)実施時期

授業評価アンケートは、平成 17 年度後期、平成 18 年度前期ともに、学期末の定期試験実施前に行った。ただし、(1)履修登録者数が 10 名以下の科目、(2)学外実習をともなう科目、(3)オムニバス形式の講義科目、(4)スポーツ およびスポーツ、(5)集中講義科目、(6)1 単位の講義科目、(7)廃止(予定)の科目、に該当するものは除外した。(平成 17 年度後期開講の「障害者サポート演習」も除外)

(2)授業評価アンケートの記入事項(属性と評価項目)

無記名、自記式の回答方法を採用した。所属学科と授業科目は、コードにより識別可能とした。授業評価項目に対する回答は、評価基準の高い回答カテゴリから順に、強くそう思う(80-100%)、そう思う(60-80%)、どちらともいえない(40-60%)、そう思わない(20-40%)、全くそう思わない(0-20%)とし、全科目に対し次の 15 項目を設けた(表 2.8-1)。

表 2.8-1 岡山県立大学授業評価項目(15 項目)

| | |
|-----|----------------------|
| 問1 | 受講して、知的刺激をうけましたか |
| 問2 | 真剣に受講しましたか |
| 問3 | シラバスにそった授業でしたか |
| 問4 | 教員の声、話し方は適切でしたか |
| 問5 | 板書等の書き方や文字は見やすかったですか |
| 問6 | 重要なところを強調してくれましたか |
| 問7 | 教員の熱意が感じられましたか |
| 問8 | 学生の理解度に注意していましたか |
| 問9 | 予習・復習を促す配慮はされていましたか |
| 問10 | 授業の進め方は丁寧でしたか |
| 問11 | 授業の準備は十分されていましたか |
| 問12 | 学生の質問にきちんと対応していましたか |
| 問13 | 私語等に対する配慮は適切でしたか |
| 問14 | 教室等の状態や学生数は適切でしたか |
| 問15 | 総合的に判断して授業に満足しましたか |

8.2 平成 17 年度後期授業評価の結果

8.2-1 アンケートの回収と統計解析法

「8.1-1 目的」で列挙した 2 点の目的を達成するために、記述統計(度数分布、得点分布など)を行い、必要に応じて「岡山県立大学授業評価測定尺度(以下「評価測定尺度」という)得点の平均値の比較(平均値の差の検定)を行うものとした。

記述統計には、平均値、標準偏差、歪度、尖度といった異なる特徴を持つ 4 つの指標を採用した。これらの指標のうち標準偏差は平均値を中心としたデータのばらつきの程度、歪度は分布のゆがみ具合(正の値であれば分布が左に偏り、右の裾野が広がる)、尖度は分布のとがり具合(本解析ソフトでは正の値であるほど尖り具合が大きく、長い裾を持つ)を意味する。つまり、標準偏差が大きいほど科目間での得点のばらつきが大きく、歪度・尖度の値が正負どちらかに偏るほど得点の分布の形状が正規分布から逸脱することになる。なお、得点分布が正規分布に限りなく近い形状を示すとき、平均値を中心に ± 1 標準偏差の間に全体の約 68%、 ± 2 標準偏差の間に全体の約 95%が含まれるため、こうした指標を生かすことで、科目単位でみた評価の高低を確認することができる。

平成 16 年度後期の結果と平成 17 年度後期の結果の比較検討については、両年度の得点分布を視覚的に描画することに加え、「評価測定尺度」得点の平均値の比較(対応サンプルにおける平均値の差の検定)には、対応のある t 検定を用いた。通常、t 検定は、帰無仮説と対立仮説(帰無仮説を否定する仮説)を立て、有意確率の値(p 値)によってどちらの仮説が採択(棄却)されるのかを判断する。t 検定では、帰無仮説 H_0 は「母平均値に差はない」ことを意味することから、有意確率が 0.05 より大きければ帰無仮説を、0.05 未満であれば対立仮説を採択することになる。したがって、本報告では、t 検定の結果得られた有意確率が、0.05 より小さい場合($p < 0.05$)には、両者の「評価測定尺度」得点間に統計学的な差が認められたことを意味する。

授業評価票の回収は、大学全体で 268 科目(開講授業 275 科目)、10,264 件(総数 12,637 件)、回収率は 81.2%であった。本章では、分析に必要なデータに欠損値(多重回答、未回答)を有さないデータを使用するものとした。

8.2-2 アンケート結果の概要

(1) 14 項目版および 5 項目版「評価測定尺度」得点の分布

「評価測定尺度」は、14 項目版では 267 科目、5 項目版 268 科目が集計対象となった。14 項目版では、受講者全員が未回答とした項目があったため、1 科目を分析から除外した。

全 267 科目における 14 項目版「評価測定尺度」得点の平均値は 53.4 点(70 点満点)、標準偏差 5.82、歪度 0.3、尖度 -0.6 となっており、得点分布は正規分布に近似した形状を示した(図 2.8-1)。

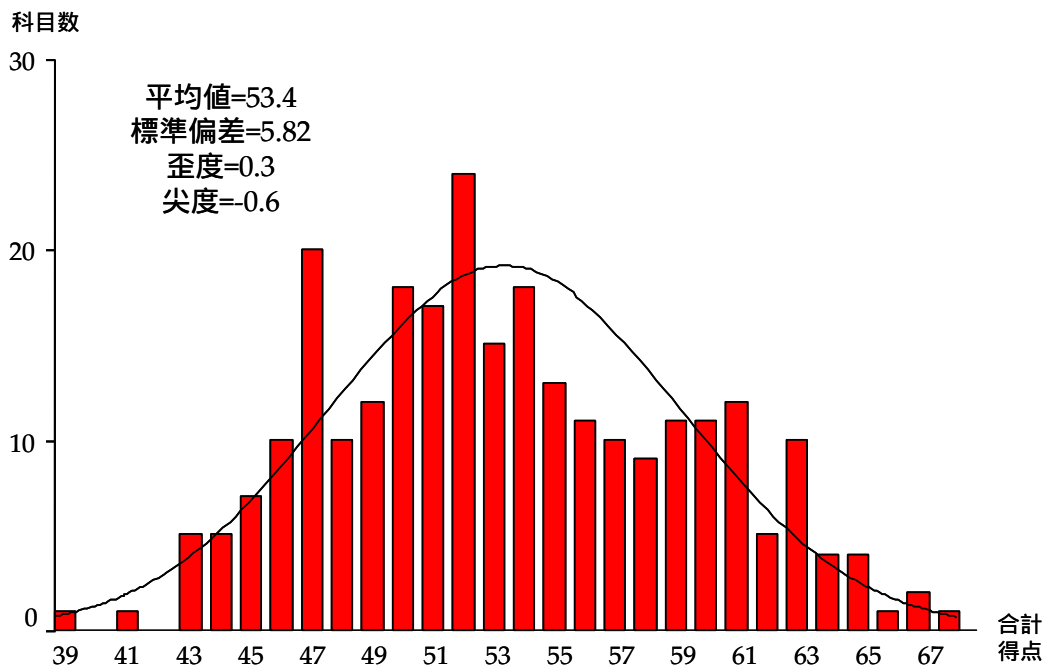


図 2.8-1 「14 項目版評価測定尺度」の得点分布(267 科目)

全 267 科目の 14 項目版「評価測定尺度」得点について、学部別に平均得点を算出した結果、情報工学部 55 科目の平均得点(49.7 点)は、全 267 科目の平均得点(53.4 点)より低く、同様の傾向が全学教育 55 科目(50.8 点)についても認められた(図 2.8-2)。

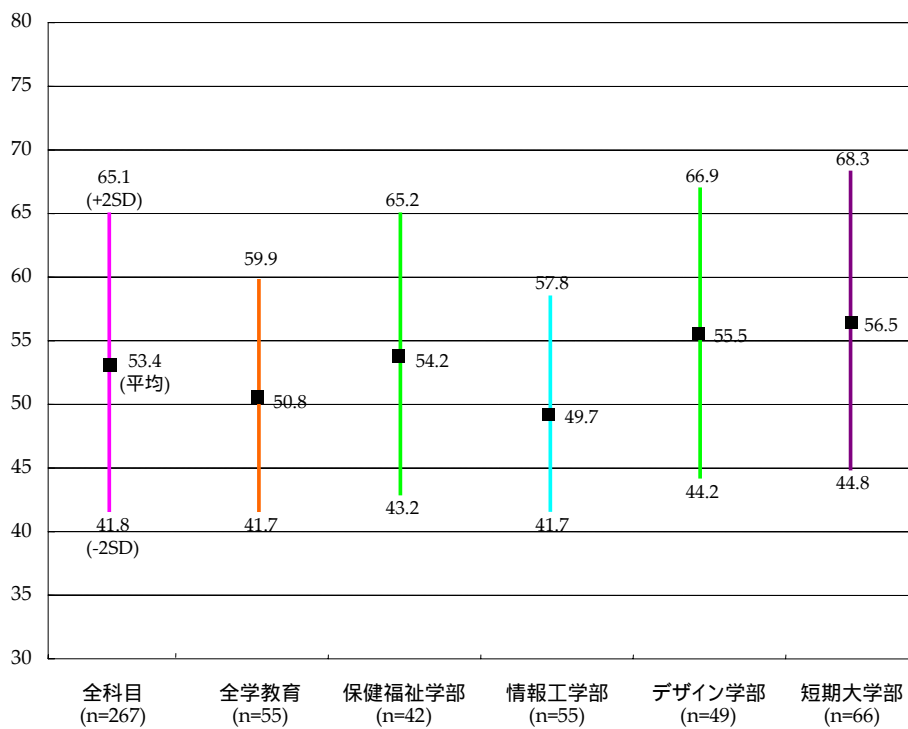


図 2.8-2 学部別にみた 14 項目版「評価測定尺度」得点の平均値(267 科目)

全 268 科目における 5 項目版「評価測定尺度」得点の平均値は 19.2 点(25 点満点), 標準偏差 2.27, 歪度 0.3, 尖度-0.7 となっており, 14 項目版と同様に得点分布は正規分布に近似した形状を示した(図 2.8-3)。

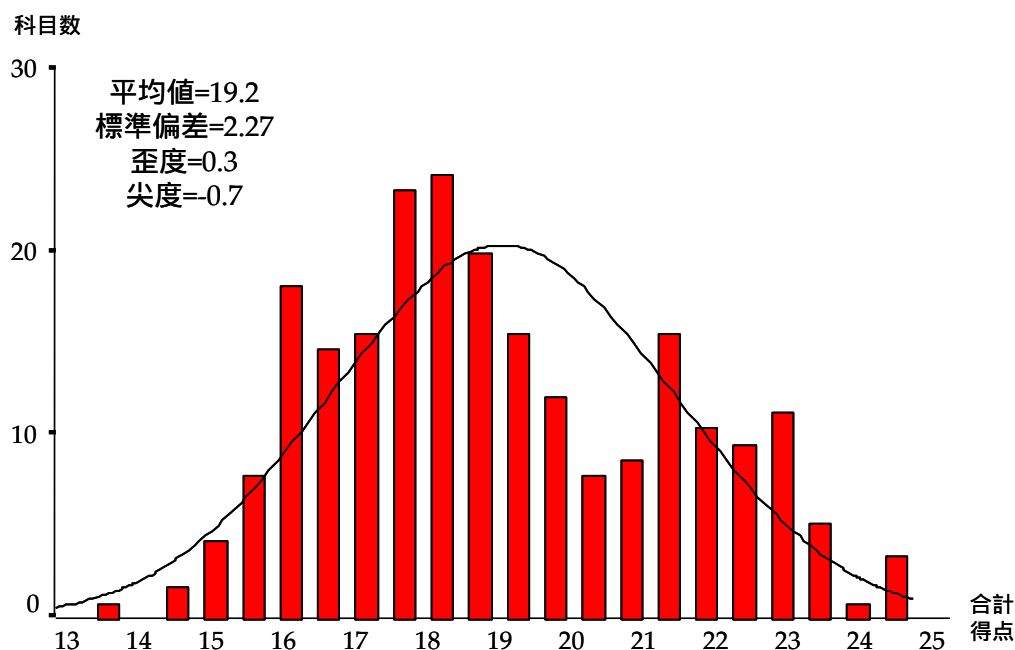


図 2.8-3 「5 項目版評価測定尺度」の得点分布(268 科目)

全 268 科目の 5 項目版「評価測定尺度」得点について, 学部別に平均得点を算出した結果, 情報工学部 55 科目の平均得点(17.7 点)は, 全 268 科目の平均得点(19.2 点)より低く, 同様の傾向が全学教育 55 科目(18.2 点)についても認められた(図 2.8-4)。

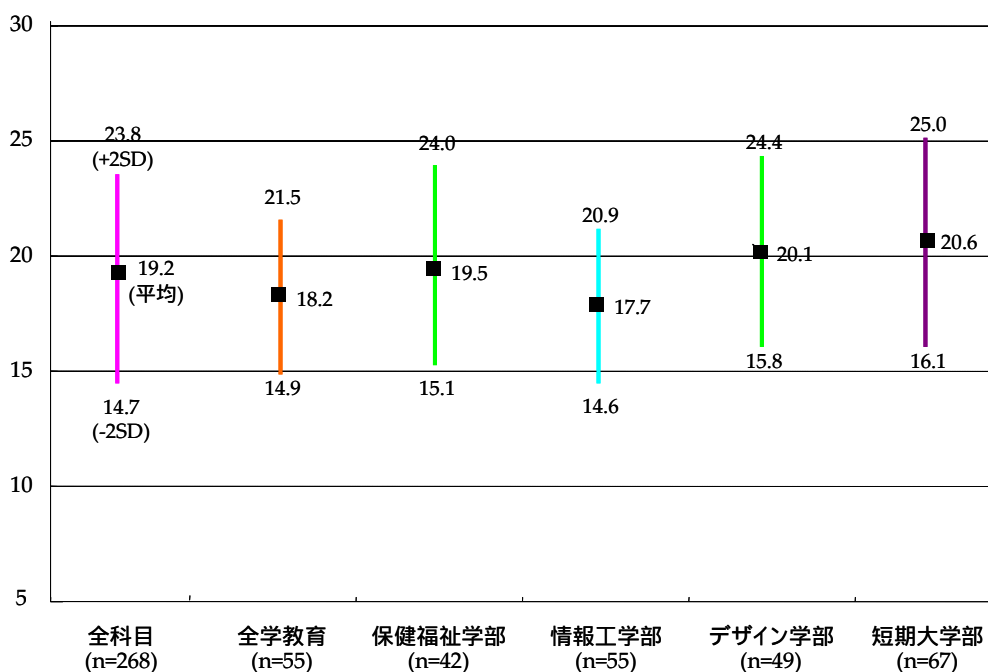


図 2.8-4 学部別にみた 5 項目版「評価測定尺度」得点の平均値(268 科目)

(2)FD 活動の強化教員の抽出と一致度

FD 活動の強化教員の抽出基準として、14 項目版および 5 項目版「評価測定尺度」の各尺度の得点が、全科目の平均値(14 項目版は 267 科目、5 項目版は 268 科目)から 1 標準偏差値を差し引いた得点(平均値 - 1SD)以下になった科目を担当している教員とした。なお、両尺度を使用した得点プロットは図 2.8-5 に示した。

既述の通り、全科目の「評価測定尺度」の平均値は、14 項目版は 53.4 点(SD=5.82)、5 項目版は 19.2 点(SD=2.27)であった。このことから、14 項目版では 47.59 点以下、5 項目版では 16.97 点以下であった科目を担当している教員を、FD 活動の強化教員とした(少数桁数の設定により若干の数値にズレが生じる)。

その結果、FD 活動の教科基準とした得点を下回った科目数は 14 項目版、5 項目版ともに 50 科目であった。このうち、両尺度間で共通した科目は 44 科目であった。

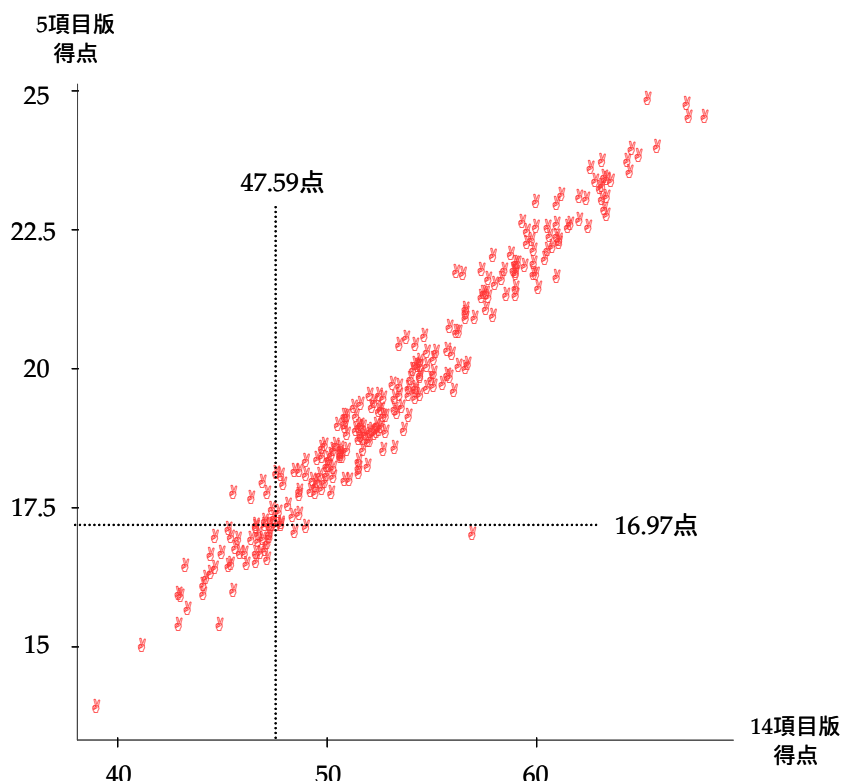


図 2.8-5 5 項目版および 14 項目版「評価測定尺度」の得点プロット

(3)平成 16 年度後期と平成 17 年度後期の見本条件科目における 5 項目版「評価測定尺度」得点の変化

平成 16 年度後期と平成 17 年度後期開講科目のうち、両年度で対応する見本条件科目(77 科目)における 5 項目版「評価測定尺度」得点の平均値の差の検定を行った。その結果、平成 16 年度後期の平均値(18.8 点、標準偏差 2.42)と平成 17 年度の平均値(18.4 点、標準偏差 2.01)のあいだに統計学的な有意差は観察されなかった($t=1.967$, $p=0.053$)。

両年度で対応する見本条件科目(77 科目)の 5 項目版「評価測定尺度」得点をプロットした結果(図 2.8-6)、最大で約 4.0 点の改善、5.4 点の低下が認められた。

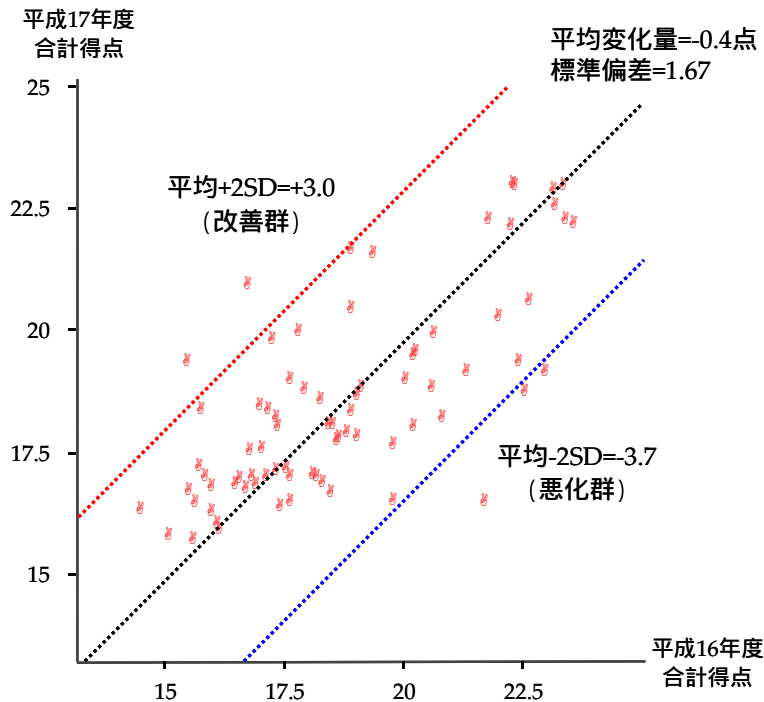


図 2.8-6 平成 16 年度後期と平成 17 年度後期に対応する見本条件科目の 5 項目版「評価測定尺度」得点の変化

両年度間の得点を学部別に詳しくみると、全学教育 14 科目は平均-0.5 点(標準偏差 1.38, 範囲-2.4~2.4), 保健福祉学部 24 科目は平均 0.0 点(標準偏差 1.93, 範囲-4.0~4.0), 情報工学部 25 科目は平均-0.2 点(標準偏差 1.15, 範囲-1.9~2.4), 短期大学部 13 科目は平均-1.1 点(標準偏差 2.19, 範囲-5.4~2.0)であった。デザイン学部は 1 科目のため算出していない(図 2.8-7)。

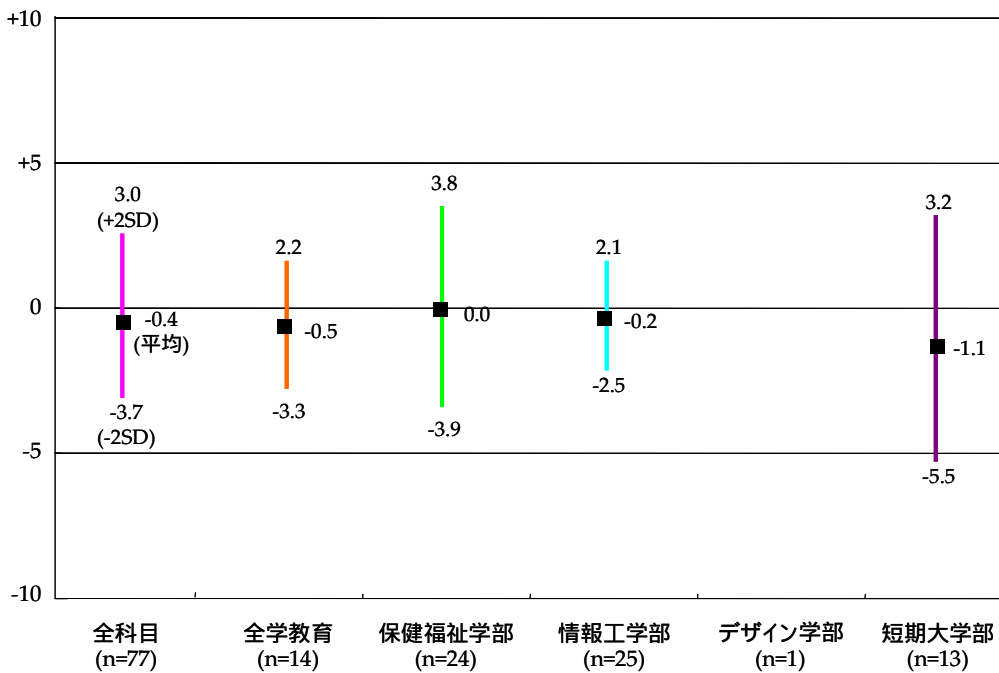


図 2.8-7 学部別にみた両年度で対応する見本条件科目の 5 項目版得点の変化

8.3 平成 18 年度前期授業評価の結果と過去 3 年間の解析結果

8.3-1 アンケートの回収と統計解析法

授業評価票の回収は 287 科目(開講授業 291 科目), 12,229 件(総数 14,308 件), 回収率は 85.5%であった。本章では, 分析に必要なデータに欠損値(多重回答, 未回答)を有さないデータを使用するものとした。

本報告では, 「8.1-1 目的」で列挙した 2 点の目的を達成するために, 記述統計(度数分布, 得点分布など)を行い, 必要に応じて「評価測定尺度」得点の変化を記述するものとした。

記述統計には, 平均値, 標準偏差, 歪度, 尖度といった異なる特徴を持つ 4 つの指標を採用した。平成 16 年度前期から平成 18 年度前期にかけての「評価測定尺度」得点の変化については, 3 年度分の得点の推移を視覚的に描画することに加えて, 潜在曲線モデルを用いてその変動傾向を検討するものとした。一般に, 潜在曲線モデルは, 「切片」と「傾き」という成長の形状を表す構成概念(因子)を測定し, それらの母集団におけるちらばりの程度を構成概念の平均と分散を用いて表現することで, 母集団全体における成長曲線の形状を吟味することができる方法とされている。ここで, 「切片」は初期値, 「傾き」は変化率(変化量)に対応することから, 「切片」と「傾き」を表現する因子の平均値は, 集団全体としての成長曲線の切片と傾きを意味する。これを今回の分析に当てはめるなら, 「切片」の平均は, 観測開始時点(平成 16 年度前期)の全科目の授業評価得点の平均を, 「傾き」の平均は, 1 年間に变化する授業評価得点の平均を意味するものと解釈できる。なお, これら「切片」と「傾き」を従属(基準)変数とし, 他の何らかの要因を説明変数として組み込むなら, 科目ごとに異なる切片と傾きが, どのような要因によって左右されているのかを特定することができる。

8.3-2 アンケート結果の概要

(1) 14 項目版および 5 項目版「評価測定尺度」得点の分布

「評価測定尺度」は, 14 項目版では 285 科目, 5 項目版で 287 科目が集計対象となった。14 項目版では, 受講者全員が未回答とした項目があったため 2 科目を分析から除外した。全 285 科目における 14 項目版「評価測定尺度」得点の平均値は 52.1 点, 標準偏差 5.95, 歪度-0.0, 尖度-0.5 となっており, 得点分布は正規分布に近似した形状を示した(図 2.8-8)。

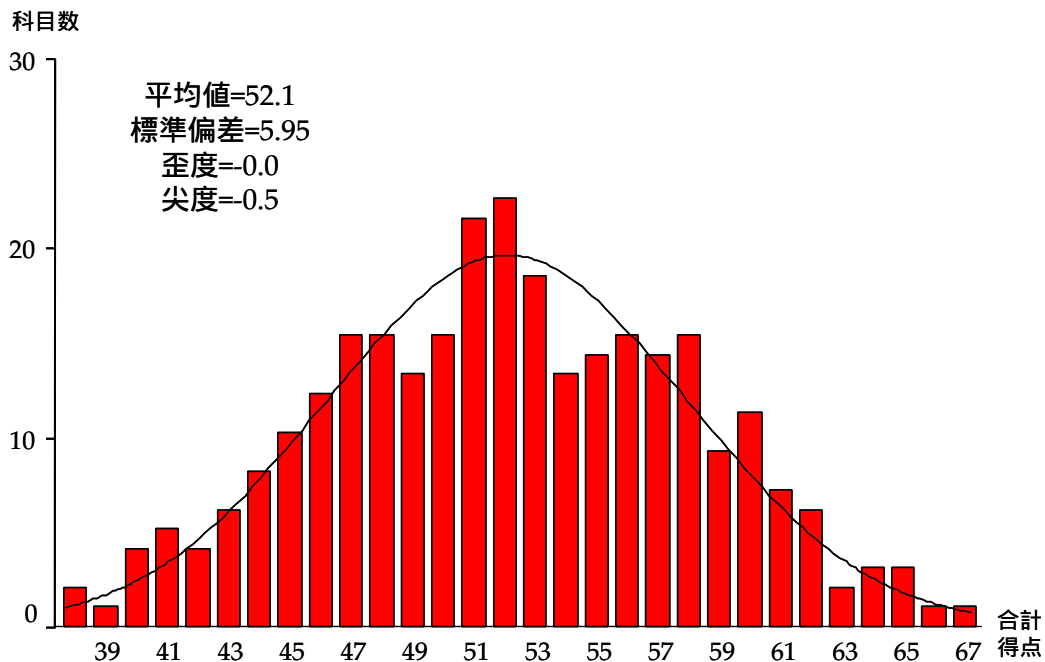


図 2.8-8 「14 項目版評価測定尺度」の得点分布(285 科目)

全 285 科目の 14 項目版「評価測定尺度」得点について、学部別に平均得点を算出した結果、情報工学部 55 科目の平均得点(47.9 点)は、全 285 科目の平均得点(52.1 点)より低く、同様の傾向が全学教育 82 科目(50.7 点)についても認められた(図 2.8-9)。

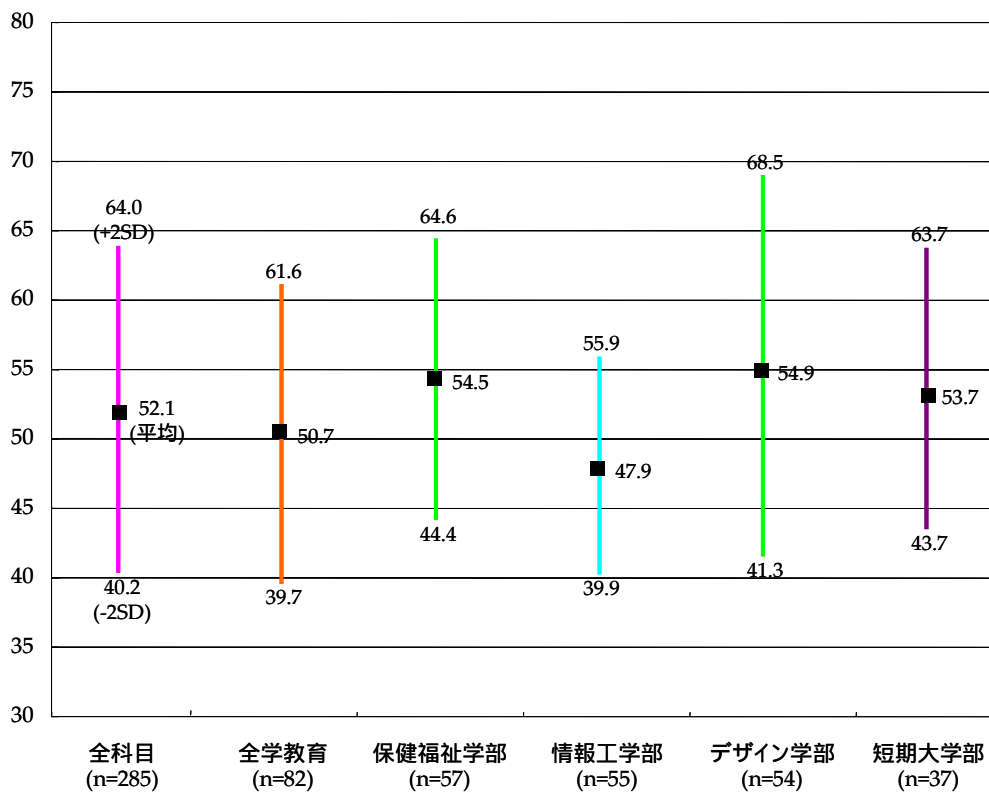


図 2.8-9 学部別にみた 14 項目版「評価測定尺度」得点の平均値(285 科目)

全 287 科目における 5 項目版「評価測定尺度」得点の平均値は 18.7 点、標準偏差 2.27、歪度 0.0、尖度 -0.6 で、14 項目版と同様に得点分布は正規分布に近似した形状を示した(図 2.8-10)。

全 287 科目の 5 項目版「評価測定尺度」得点について、学部別の平均得点について、情報工学部 55 科目の平均得点(17.1 点)は、全 287 科目の平均得点(18.7 点)より低く、同様の傾向が全学教育 84 科目(18.2 点)についても認められた(図 2.8-11)。

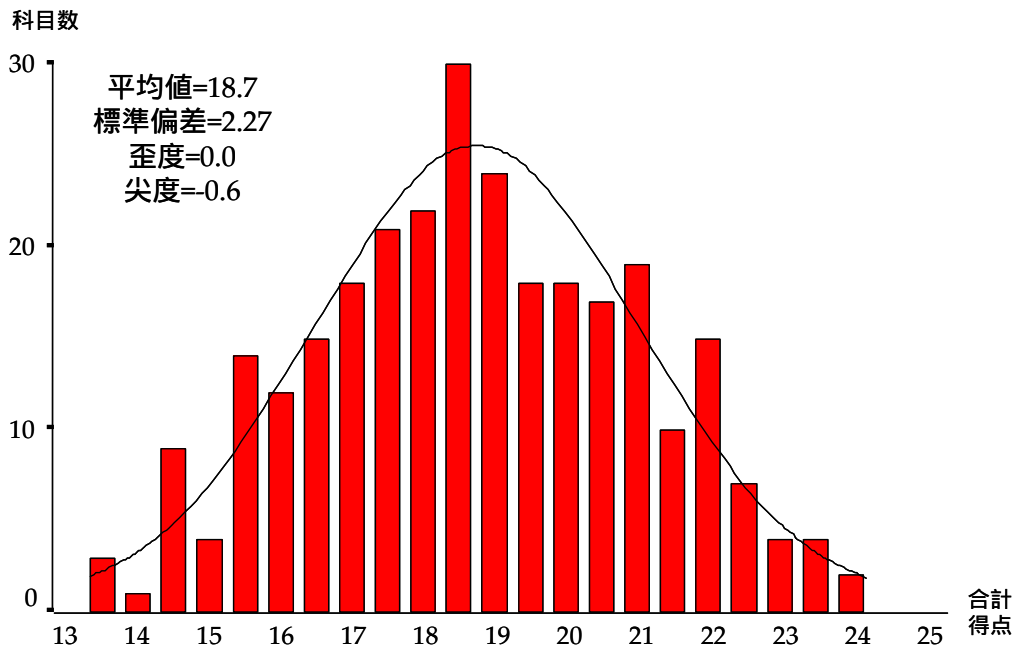


図 2.8-10 「5 項目版評価測定尺度」の得点分布(287 科目)

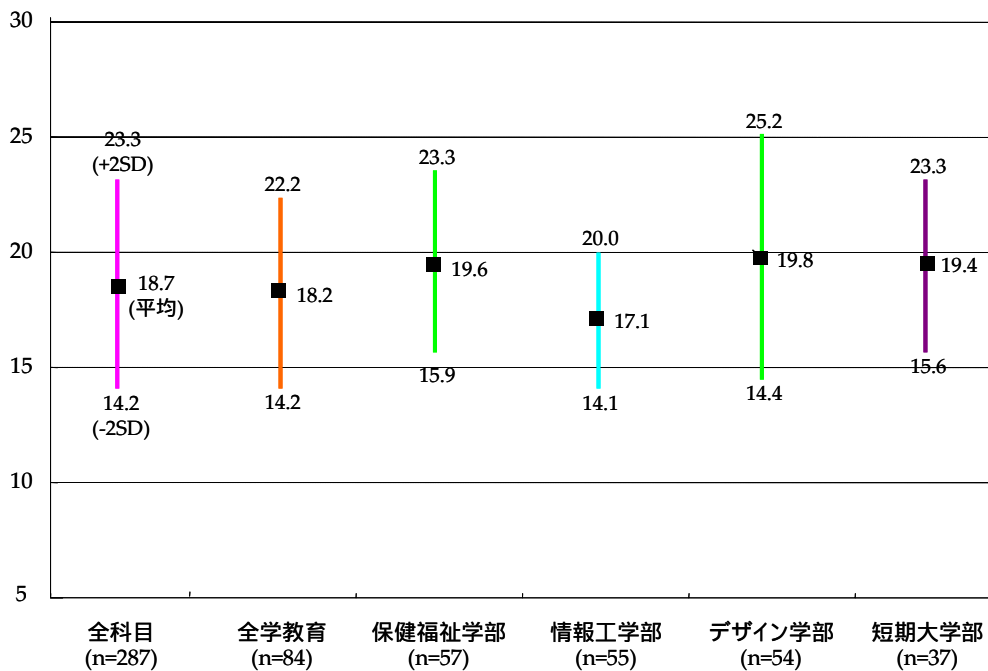


図 2.8-11 学部別にみた 5 項目版「評価測定尺度」得点の平均値(287 科目)

(2)FD 活動の強化教員の抽出と一致度

FD 活動の強化教員の抽出基準として、14 項目版および 5 項目版「評価測定尺度」の各尺度の得点が、全科目の平均値(14 項目版は 285 科目、5 項目版は 287 科目)から 1 標準偏差値を差し引いた得点(平均値 - 1SD)以下となった科目を担当している教員とした。なお、両尺度を使用した得点プロットは図 2.8-12 に示した。

既述の通り、全科目の「評価測定尺度」平均値は、14 項目版は 52.1 点(SD=5.95)、5 項目版は 18.7 点(SD=2.27)であった。このことから、14 項目版では 46.17 点以下、5 項目版では 16.46 点以下であった科目を担当している教員を、FD 活動の強化教員とした(少数桁数の設定により若干の数値にズレが生じる)。

その結果、FD 活動の強化基準とした得点を下回った科目数は 14 項目版で 50 科目、5 項目版で 48 科目であった。このうち、両尺度間で共通していた科目数は 41 科目であった。

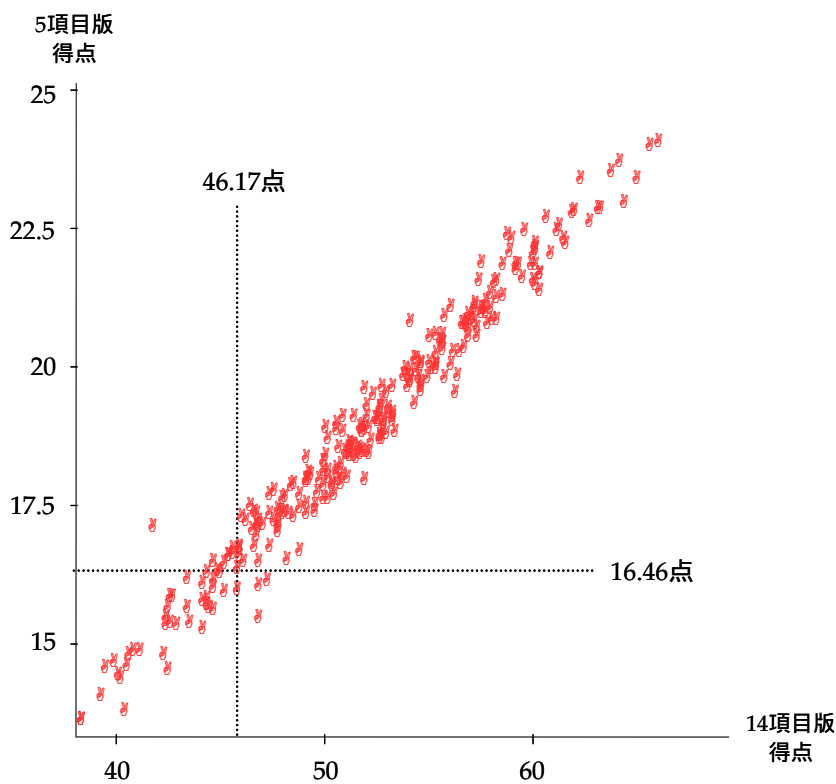


図 2.8-12 5 項目版および 14 項目版「評価測定尺度」の得点プロット

(3)平成 16 年度前期から平成 18 年度前期における見本条件科目の 5 項目版「評価測定尺度」得点の変化

平成 16 年度前期、平成 17 年度前期、平成 18 年度前期開講科目のうち、全年度で対応する見本条件科目(78 科目)のうち、担当教員に変更のあった 3 科目を除く 75 科目における 5 項目版「評価測定尺度」得点の変化の傾向をプロットした。その結果、3 年間でほとんど変化しなかった科目もあれば、平成 16 年度から平成 17 年度にかけて改善(悪化)し、平成 18 年度にかけて悪化(改善)した科目もいくつか見受けられた(図 2.8-13)。

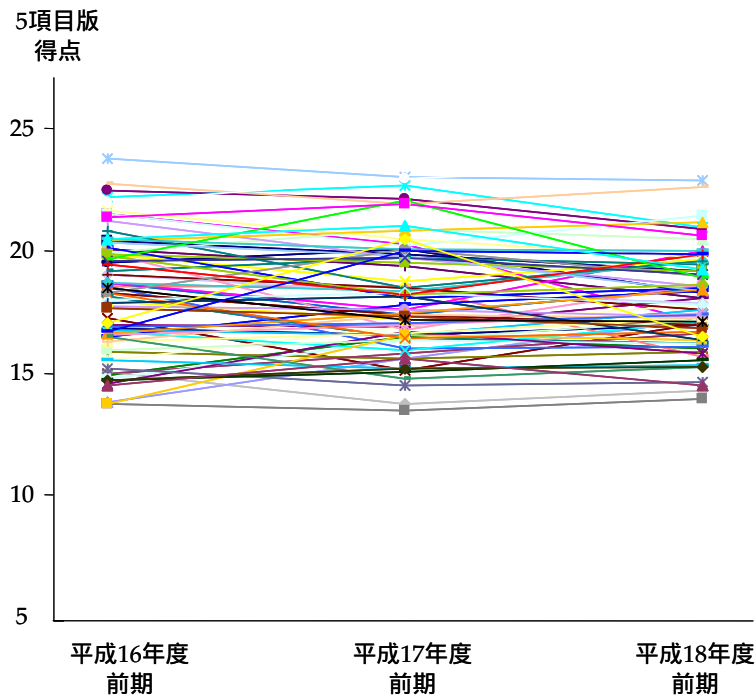
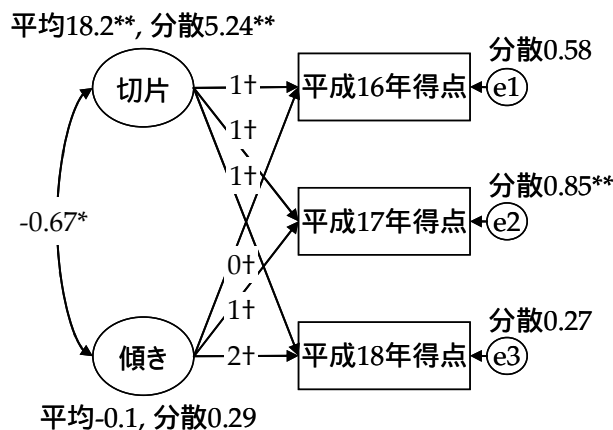


図 2.8-13 平成 16 年度前期から平成 18 年度前期に対応する見本条件科目の 5 項目版「評価測定尺度」の得点の変化

次に、潜在曲線モデルによる推定を行った結果(図 2.8-14)、「切片」の平均(18.2)と分散(5.24)はともに統計学的に有意な水準($p < .05$)にあったが、「傾き」の平均(-0.1)と分散(0.29)は統計学的に有意な水準にはなかった($p > .05$)。

この結果は次のように解釈できる。すなわち、平成 16 年度前期の授業評価得点は、科目ごとにバラツキが認められる(正確には、平成 16 年度得点の分散は、切片の分散に当該指標の誤差分散の推定値を加えたもの)もの、その後 1 年あたりに変化する得点の平均はほぼゼロであって、しかも科目ごとのバラツキもほとんどないといえる。



* $p < .05$, ** $p < .01$, 適合度($\chi^2=0.002$, $df=1$, $p=0.966$, $CFI=1.000$, $TLI=1.016$, $RMSEA=0.000$)

図 2.8-14 平成 16 年度前期から平成 18 年度前期に対応する見本条件科目の 5 項目版「評価測定尺度」得点を用いた潜在曲線モデルの推定結果

なお、平成 16 年度前期から平成 18 年度前期における 5 項目版「評価測定尺度」得点の変化について、年度ごとの得点を学部別にプロットした(図 2.8-15)。その結果、短期大学部を除き、大きな変化は特に観察されなかった。短期大学部では、平成 16 年度前期から 17 年度前期にかけて大きな改善が見られたものの、平成 18 年度前期には平成 16 年度前期と同程度の平均値まで低下していた。ただし、全学教育と情報工学部では 3 年間の平均値はほとんど変化しなかったものの、科目ごとの得点のバラツキは減少し、担当教員や科目の違いによる得点の差が小さくなってきている傾向がうかがえた。

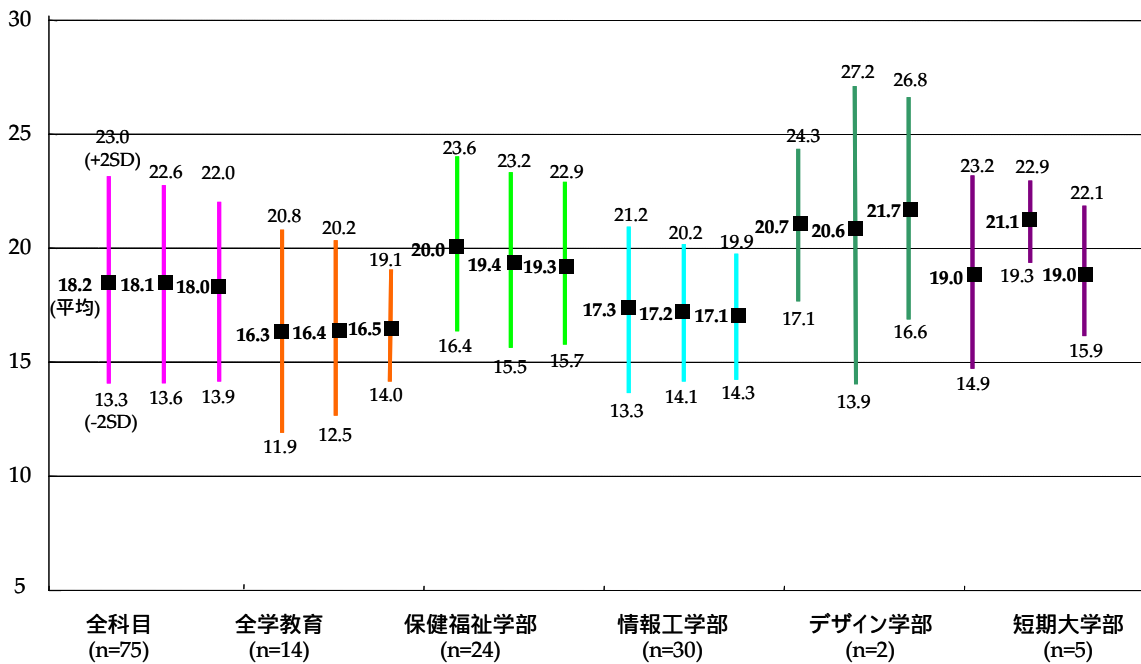


図 2.8-15 学部別にみた 3 年度で対応する見本条件科目の 5 項目版得点の変化

8.4 学生による授業評価の現状と課題

[本年度の解析の趣旨]

本学では、これまで授業評価を5回実施した。その成果のひとつは、より簡便で適切な内容を測定できる授業評価尺度(15項目版・5項目版)を平成16年度前期に開発したことである。そして、尺度の信頼性と妥当性は平成17年度前期まで継続的に検証されたが、15項目版に含まれていた「学生の授業に対する参加頻度」の測定項目は、授業評価を適切に反映してなかったため、平成17年度前期は前記の項目を除く14項目版を開発した。

本年度は、この背景を踏まえ、第一に、14項目版と5項目版の授業評価尺度で得られたデータを、記述統計(平均値、標準偏差、歪度、尖度)的に解析した。第二に、縦断的データとしての平成16年度前期から平成18年度前期の3回分については、「5項目版評価測定尺度」得点に関する得点の変化の様相を視覚的に描画することに加え、潜在曲線モデルを用いてその変動傾向を検討した。その趣旨は、教員個人というより、全学的にどのようなFD活動が必要かに関する資料を得ることをねらいとして、より長期的に見て、授業評価の得点がどのような変動傾向を示すかを明らかにすることにある。潜在曲線モデルは、「切片」と「傾き」という成長の形状を表す構成概念(因子)を測定し、それらの母集団におけるちらばりの程度を構成概念の平均と分散を用いて表現することで、母集団全体における成長曲線の形状を吟味できる方法とされる。ここで、「切片」は初期値、「傾き」は変化率(変化量)に対応するので、「切片」と「傾き」を表現する因子の平均値は、集団全体としての成長曲線の切片と傾きを意味する。これを今回の分析に当てはめれば、「切片」の平均は、観測開始時(平成16年度前期)の全科目の授業評価得点の平均を、「傾き」の平均は、1年間に変化する授業評価得点の平均を意味すると解釈することができる。なお、これら「切片」と「傾き」を従属(基準)変数とし、他の何らかの要因を説明変数として組み込むなら、科目ごとに異なる切片と傾きが、どの要因により左右されるかを特定できる。とはいえ、国内外においてそのような吟味は十分になされていない。この点を勘案するなら、今後は国内外の文献収集を重ね、授業評価に影響する要因を特定する作業が必要になる。

[授業評価の縦断的解析を基礎とした全学的な目標設定の在り方]

潜在曲線モデルによる推定を行った結果、「切片」の平均(18.2)と分散(5.24)はともに統計学的に有意な水準($p < .05$)にあったが、「傾き」の平均(-0.1)と分散(0.29)は有意な水準になかった($p > .05$)。この結果からは、平成16年度前期の授業評価得点は、科目ごと(あるいは広い意味で教員ごと、以下、同様)にバラツキが認められるものの、その後1年あたりに変化する得点の平均はほぼゼロであり、しかも科目ごとのバラツキもほとんどないといえる。換言すれば、科目ごとに、ほぼ安定した直線的な変動傾向にあることを示している。なお、学部別には、短期大学部では、平成16年度前期から17年度前期にかけて大きな改善が見られたものの、平成18年度前期は平成16年度前期と同程度の平均値まで低下した。全学教育と情報工学部では3年間の平均値はほとんど変化しなく、科目ごとの得点のバラツキは減少し、教員や科目の違いによる得点差が小さくなる傾向を示した。以上まとめると、3年間の縦断的授業評価データにおける得点の全般的な変動は、科目ごとの差は全学

的には小さくなる傾向を示しながら、ほぼ一定の得点を維持してコンスタントに推移してきたことになる。

通常、授業評価は、1)学生の満足度が高い授業を提供すること、2)教員の授業改善のための情報を与えること、の2点を主目的としている。1)の目標を達成するためには、当然ながら、2)の資料を基礎に展開される教員の授業改善行動が前提となる。

本年度の解析結果からは、個々の教員の努力は否定できないが、授業評価得点の平均値が3年間ほぼ一定であったことは、今後は向上的な変化に向けて、解決策を講ずる必要性を示唆する。一般的に、回数を重ねる毎に平均値が上昇し、かつ標準偏差値が大きくなることが集団の成長傾向(ここでいう成長とは、集団全体のレベルアップではなく、時間経過による集団の得点の変動傾向を指す)を意味する。また、仮に、集団の平均値は上昇しても標準偏差値が小さくなる場合、評価尺度の天井効果を反映した結果(誰もが満点に近い得点を取り、個人差を反映できないこと状態)と解釈される。実際には、平均値が変化せず、標準偏差値が小さくなる場合もあるが、それは集団全体のレベルアップを意味するものでない。本年度の解析結果は、まさしくその傾向に相当するものであった。もちろん、教員・担当科目が同一であっても、評価する学生が異なることによる得点の変化は、回答集団による評価の違いを反映するものであり、真の意味での教員集団の変動傾向ではないことに留意しなければならない。

それでは、集団全体としてのレベルアップを意味する具体的な達成目標を設定し、どのような改善策を採用すべきなのであろうか。第一に、集団のデータに依拠して大学全体の今後の目標値を設定するなら、1年後のような短期目標でなく、5年あるいは6年の長期目標を設定することが望まれる。そして、そのためには、第二に、授業評価得点の変動に影響する要因の検討を、専門家を配置したFD活動のための「(仮称)大学教育センター」等を通じた組織的アプローチが必要と言えよう。

本学では、FD活動の一環として、すでに平成16年度前期の授業評価得点を基礎に、平成17年度に各学部で指名された上位得点者が、全学の教員を対象に各自の授業の工夫点を紹介する報告会を開催している。また、平成18年度は授業参観を全学規模で実施している。加えて、FD活動を組織的かつ継続的に行なっていくことも、すでに本学の次年度を出発点とする中期目標・中期計画に盛り込まれている。

教員個人は、今後、1)学生による授業評価の結果、2)教員相互の授業参観等の研修、外部の研修プログラムへの参加、3)授業方法の改善や教材開発等に貢献するFD研究会への参加、4)学生と教員との懇談会(キャンパス・ミーティング)への参加、5)その他、教育の質的向上のために必要な企画等への参加を通して、多くの情報を得ながら、授業改善のステップにつなげることが課題と言える。

9. まとめ

本学完成年度以降の教育改革に対する全学的な取組みは、平成 14 年度の教養教育構想検討部会による全学教育に対する改善提案にはじまる。その後、県立大学改革検討委員会の審議を経て、平成 18, 19 年度は学科の新設と再編、短期大学部の募集停止と短期大学部教員の四年制大学への移行が進行中である。

第 2 章の締めくくりにあたり、今後の課題を一言でまとめれば「教育のシステム化を推進すること」になる。このことも考慮に入れて、当面の課題をまとめることにする。

[教育の内容・方法・実施体制]

- (1) 社会経済情勢の変化に一段と沿うように教育目標を不断に見直し、教育課程の改善を適切に実施すること。
- (2) 教育活動は「組織活動」であることを更に認識し、たとえば、教員相互の連携体制を現状より密にする必要があること。
- (3) 教員採用については、教育ニーズの多様化、非常勤講師委嘱・応嘱の削減情勢なども考慮して、幅広い教育に対応できる人材を確保すること。
- (4) 教育組織と教員組織のありかたについては、「学部・学科の垣根を低く」の方針をより明確に打ち出し、それを推進するための具体的方策を検討すること。

[FD 活動]

授業形態が講義のものを対象に、平成 17 年度は授業評価で高得点をあげた教員による講演会を、平成 18 年度は授業参観(本章 7 節)を行い、各教員の講義改善への取組みを促した。今後も、これを継続・拡大する必要がある。同時に、教育内容に関する科目間の連携についても、連携体制を明確化する必要がある。

授業形態が、実験や演習等の、いわゆる実技系科目については、すでに行われている改善活動を「可視化」し、改善を継続する必要がある。

[学生による授業評価]

全学的な授業評価は平成 15 年度後期の試行を経て、平成 16 年度からの正式実施が継続されている。実施から 3 年の実績を評価し、質問項目・方法の改善、アンケート結果の更なる活用等について、全学的な議論が必要な時期を迎えている。

第3章 学生支援

1. 概要

本学では、学生が有意義な大学生生活を安心して過ごせるように、(1)学習、(2)生活、(3)就職、(4)課外活動、について各種の支援を行っている。学生支援は、主として第4 常任委員会と学生生活専門委員会が審議を行い、個々の支援活動は、岡山県立大学後援会規約第4 条による後援会助成(平成 17 年度は基金への繰入れを除き 3,000 万円弱)も受けて実施している。

2. 学習支援

2.1 履修指導

入学時には2 日間にわたりガイダンスを実施している。すなわち、初日は、入学生全員を対象に、全学教育と履修手続きの方法、消費生活におけるトラブル回避、ならびに、人権について、2 日目は学部・学科ごとに履修と学生生活を中心とするガイダンスを行っている。そして、1 年次学生は、前期中に、後援会の助成も受け、学科単位で学外オリエンテーションを実施し、学生生活全般に関する懇談、教員・学生間の親睦を図っている。2 年次以上の学生に対する履修指導は、学期のはじめに学科単位でガイダンスを行っている。

日常的な履修指導については、(1)教務専門委員への相談、(2)後述のオフィスアワーやアドバイザー制度を活用した相談体制等が築かれ、活用されている。

2.2 自学・自習環境の整備

2.2-1 ハード面の整備

自学・自習のための部屋、学習資料や PC の配置に関する全学的な整備については、第2 章 6 節「学内共同教育施設及び附属図書館」を参照されたい。学部別の整備については、たとえば情報工学部では学科ごとに設置されているコンピュータ演習室、デザイン学部では各種の実習室が挙げられる。保健福祉学部では、学部棟のロビーや演習室に自習用 PC も設置している。これらの他に、講義室の活用については、本章 6 節のとおり、空き時間の利用に対する配慮もなされている。

2.2-2 ソフト面の整備

実技系科目が多数配置されている本学では、定められた授業時間内に課題を終了しないこともある。したがって、次週の授業に向けて課題を解決することが日常的になされ、解決に向けた教員の支援が、日常的に行われている。なお、自主学習組織に対する活動支援は、本章 5 節を参照されたい。

3. 生活支援

3.1 経済的支援

3.1-1 授業料免除

経済的理由等により授業料の納付が困難で、学業成績が優秀と認められる学生に対して、本人の申請により、授業料を全額または半額免除している。平成 18 年度における授業料減免申請件数は 201 件で、認定件数は 121 件であった。

3.1-2 奨学金・アルバイトの斡旋

学生の教育機会を保障するための奨学金について、教学課が中心になって、掲示板などを利用して学生に周知している。奨学金には、日本学生支援機構、地方公共団体・民間団体による奨学金、学生の出身地によるもの(各都道府県、市町村などが行うもの)、病気遺児・交通遺児を対象としたもの(交通遺児育英資金、あしなが育英会など)、その他(ノートルダム育英財団など)がある。平成 18 年度(平成 18 年 9 月 30 日)における日本学生支援機構奨学金貸与件数は 738 件(1 種 328 件、2 種 410 件)であった。

アルバイトについては、平成 17 年度の延べ求人件数は 217 件であった。平成 18 年度は(平成 19 年 2 月末現在)217 件であり、昨年と同程度の求人件数である。

3.2 学生相談

3.2-1 学生相談室

(1)相談体制

学生相談室は平成 6 年 5 月に開設された。相談室は、開設当初、本部棟 1 階事務室横にあったが、平成 8 年度から、図書館 2 階個人閲覧室の一室に移動し、現在に至っている。

相談室は、平成 6～9 年度は学内カウンセラー 2 名(臨床心理士)により週 2 日の体制でスタートし、学年進行、大学院の設置、社会経済情勢の変化とともに充実をはかり、平成 17 年度から、学内カウンセラー(臨床心理士、心理学専門)3 名と学外カウンセラー(臨床心理士)2 名の計 5 名の体制で月～金曜日の開室になった。平成 18 年度の開室時間は週 22 時間である(表 3.3-1)。なお、長期休暇中は、必要に応じて開室している。

表 3.3-1 平成 18 年度 開室時間と運営スタッフ

| 曜日 | 時間 | 氏名 | 備考 |
|-----------|-------------|--------|-----------------|
| 相談室長 | | 辻 英明 | 学生部長 |
| 相談室オブザーバー | | 山磨 康子 | 保健福祉学部教授(医師) |
| 月 | 13:00～17:00 | 津川 美智子 | 学外カウンセラー(臨床心理士) |
| 火 | 10:20～12:20 | 西山 修 | 短期大学部講師(心理学専門) |
| | 13:00～17:00 | 津川 美智子 | 学外カウンセラー(臨床心理士) |
| 水 | 13:00～17:00 | 津川 美智子 | 学外カウンセラー(臨床心理士) |
| 木 | 10:00～12:20 | 樂木 章子 | 保健福祉学部講師(心理学専門) |
| | 14:00～18:00 | 疋田 基道 | 学外カウンセラー(臨床心理士) |
| 金 | 17:30～19:30 | 谷口 敏代 | 短期大学部教授(臨床心理士) |

さらに、平成 18 年度後期から、小児神経学専門医である保健福祉学部山磨康子教授が医師の立場から相談室オブザーバーに加わり、学生相談室長(学生部長)を含め、計 7 名のスタッフで構成されている。この他に保健室の担当職員及び学生班長と連携を図りながら運営している(表 3.3-2)。

表 3.3-2 相談室連携スタッフ

| | | |
|-----|--------|--------|
| 保健室 | 吉田 富美江 | 学生班 主任 |
| 学生班 | 田辺 可雄 | 学生班長 |

(2)相談室の取組み

月～金曜日の開室時間内のカウンセリング以外に、さまざまな取組みを行っている。入学式当日は、相談室(愛称；ほっとルーム)のパンフレットやカードを配布し、プロジェクターを使いながらカウンセラーの自己紹介や学生相談室の PR を行い、希望時には気軽に来室できる雰囲気作りを行っている。同時に「ちらっとほっとルームキャンペーン」を 3 週間実施した。また、入学時に実施される健康診断時に「UPI 健康調査(University Personality Inventory)」を実施し、希望学生及び必要と思われる学生との面談を保健室の養護教諭資格を持つ職員が実施し、ほっとルームで相談を受けた。後期には、「ふらっとほっとルームキャンペーン」を 3 週間実施し、進路に関する悩みを聞いた。

表 3.3-3 相談室の取組み

| 月 | 概 要 |
|------|--|
| 4 月 | 入学式オリエンテーション (ほっとルームカード配布),(ほっとルームパンフレット配布及び掲示) UPI 健康調査 ちらっとほっとルームキャンペーン (ほっとルームカード) 相談室会議・カンファレンス |
| 5 月 | カンファレンス |
| 6 月 | 相談室会議・カンファレンス |
| 7 月 | カンファレンス |
| 10 月 | ふらっとほっとルームキャンペーン (ほっとルームパンフレット配布及び掲示) カンファレンス・相談室会議 |
| 11 月 | 重要ケース会議 |
| 12 月 | カンファレンス・相談室会議 |
| 1 月 | |
| 2 月 | カンファレンス・相談室会議 |
| 3 月 | カンファレンス・相談室会議 |

このほか、月1回のカウンセラーにおけるカンファレンス及び相談室長やオブザーバーも参加する相談室会議を3ヶ月に1回開催している(表3.3-3)。また、各学部の教員からの要請やカウンセラーが重要ケースと判断した場合、室長や複数のカウンセラー、および、関係する学部長や教員で対応を協議することがあり、本年度は11月に開催した。学生への緊急対応及び危機介入時には、岡山県精神保健福祉センターに相談・協力を得る体制を整えている。

(3)相談内容及び相談件数

学生相談室は来談者(クライアント)との秘密保持の遵守が重要である。相談内容は、大きく分けて、対人関係(友人・親・教職員・アルバイト等の上司や同僚等)、修学や進路、情緒的な問題、教員へのコンサルテーションがある。件数は少ないが保護者からの相談もある。相談内容は多岐にわたり、中には病理水準域の学生も来室する。

来室のきっかけは、学生の自発的な来談、保健室からの紹介、友人の紹介、教職員からの紹介、に分類される。電話やメールでの相談は原則として行わないが、学生の状況に応じては学生相談室で、電話によるカウンセリングを行うこともある。

相談の基本的スタンスは、学生に個別に会い、ゆったりと時間をとり、学生が語る内容を聴いて、心理臨床の専門家として必要な支援を行い、また、学生が自己を語り、自己を理解し、自己をまとめていく過程を大切にして、個々の学生の発達や成長という視点から心理教育的なかわりを行っている。危機介入が必要な場面を除き、学生が自ら解決できる支援を行いたいと考えている。

来訪学生数の実数は、平成18年度4月～2月は102名、平成18年度は表3.3-4に示すとおり、2月までに95名である。そして、延べ来訪人数は、それぞれ230名、および、178名である。

表 3.3-4 月別来訪者数

平成19年2月28日現在

| 月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 来訪者数 | 52 | 20 | 31 | 16 | 2 | 3 | 16 | 12 | 11 | 8 | 7 | |

3.2-2 オフィスアワー、アドバイザー制度等

本学では、学生が様々な悩みを抱えるとき、学生相談室や保健室に加えて、いくつかの制度を設け、悩み等の解決に対応している。たとえば、オフィスアワーは、学生が、授業などの疑問点や個人的な悩みなどを相談するために、教員が学生のための訪問時間帯を設けて研究室に待機する制度であり、待機教員の氏名と待機時間などは掲示により、学生に周知している。アドバイザー制度は、学生にアドバイザー教員を付け、相談を受ける仕組みである。また、セクハラ対策のため、学科ごとにセクシャルハラスメント相談員を置いている。

3.3 健康管理

本学では、学生の健康管理のために、定期健康診断を実施するほか、本部棟1階の保健

室で、健康相談、学生相談、応急処置などを行っている。また、本学は、学生教育研究災害傷害保険および学研災付帯賠償責任保険に加入し、学内や通学途中でのケガなどに遭遇した際の傷害保障体制を整備している。就職・進学などで、健康診断書が必要な場合、それを発行する体制も整えている。平成18年度の保健室利用状況は表3.3-5のとおりである。

表 3.3-5 保健室利用状況(人数)

| 項 目 | H18年3月末 | H18年2月末 | H19年2月末 | 増減() | |
|------------|-----------------|---------|---------|-------|------|
| 内科的疾患 | 頭痛・発熱 | 37 | 37 | 26 | -11 |
| | 腹痛・下痢 | 35 | 34 | 35 | +1 |
| | かぜ | 44 | 44 | 62 | +18 |
| | 気分不良 | 32 | 32 | 5 | -27 |
| | 脳貧血 | 2 | 2 | 4 | +2 |
| | その他 | 11 | 11 | 18 | +7 |
| | 小 計 (A) | 161 | 160 | 150 | -10 |
| 外科的疾患 | 創傷(擦過傷・切傷等) | 62 | 61 | 48 | -13 |
| | 捻挫・打撲 | 33 | 33 | 27 | -6 |
| | 骨折 | 0 | 0 | 2 | +2 |
| | 脱臼(突き指含む) | 5 | 5 | 6 | +1 |
| | 筋肉・関節痛 | 23 | 22 | 10 | -12 |
| | 交通事故 | 3 | 3 | 1 | -2 |
| | その他 | 22 | 22 | 35 | +13 |
| 小 計 (B) | 148 | 146 | 129 | -17 | |
| その他の疾患 | 皮膚科疾患 | 15 | 15 | 7 | -8 |
| | 眼科疾患 | 7 | 7 | 4 | -3 |
| | 耳鼻科疾患 | 2 | 2 | 1 | -1 |
| | 歯・口腔疾患 | 1 | 1 | 2 | +1 |
| | 婦人科疾患 | 26 | 25 | 18 | -7 |
| | 泌尿器疾患 | 0 | 0 | 1 | +1 |
| | その他 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 小 計 (C) | 51 | 50 | 33 | -17 | |
| S = A+B+C | 360 | 356 | 312 | -44 | |
| 検査 | 血 圧 測 定 | 57 | 53 | 52 | -1 |
| | 視力・聴力検査 | 23 | 22 | 5 | -17 |
| | その他 | 201 | 198 | 3 | -195 |
| | 小 計 (D) | 281 | 273 | 60 | -213 |
| 相談 | 身体的相談 | 37 | 35 | 17 | -18 |
| | 精神的相談 | 174 | 161 | 109 | -52 |
| | その他 | 9 | 8 | 3 | -5 |
| | 小 計 (E) | 220 | 204 | 129 | -75 |
| その他 | (休養) | 6 | 6 | 54 | +48 |
| | (他医療機関紹介) | 10 | 10 | 32 | +22 |
| | 傷害保険申請 | | 0 | 7 | +7 |
| | 健康診断書発行 (枚数) | 910 | 855 | 740 | -115 |
| | 小 計 (F) | 926 | 871 | 833 | -22 |
| T = D+E+F | 1427 | 1,348 | 1,022 | -326 | |
| 合計 (S+T) | 1787 | 1704 | 1,344 | -370 | |
| 入学試験救護者数 | 3 | 4 | 5 | +1 | |

平成18年2月末と平成19年2月末の比較

表 3.3-5 のように、平成 19 年 1 月 30 日現在で、内科的疾患 6 人、外科的疾患 9 人、その他の疾患 21 人の合計 36 人、昨年より保健室を訪れた学生が少なかった。このうち、婦人科疾患(生理不順・生理痛など)の利用が多かった。また、皮膚科疾患の利用が減った。検査の項目は、血圧、視力、聴力、体脂肪、身長、体重である。体脂肪や体重測定のために来室するものが非常に多い。また、体脂肪測定の原因で来室しても、身体、生活、栄養、その他の相談になる場合が多く、その際は、氏名を聞かないことが多くなるので人数確認は難しい。このため、昨年度まで「その他」人数をカウントしていたと考えられるが、本年度はその人数は確認していないため、昨年度より、この項目の人数は大きく減った。

その他の「休養」については、発熱・生理痛によるものが多く、婦人科系の疾患(生理痛)の学生は、休養の後、講義に行けるようになる学生も多い。「医療機関の紹介」については、紹介のみの場合と、外傷、高熱、急病のため入院・受診を要する場合があり、大学から移送したものも含まれる。「傷害保険申請」は、教学課学生班で取り扱っているので、保健室来室ではないが、大きな外傷の発生状況を把握するために記入した。なお、健康診断書発行人数については、平成 19 年 2 月 28 日現在で 740 人が申請し、延べ発行数は 1,344 枚であった。

4. 就職支援

4.1 就職相談・指導体制

4.1-1 全学的な取組み

就職支援に対する全学的な取組は、学生部長と教学課学生班が中心になって行っている。すなわち、就職資料室、県内企業コーナー、掲示板、Web等を通じて、就職情報を広く学生に提供している。さらに、就職活動の心構え、履歴書の書き方や面接に際しての注意など、具体的な対応法について、就職ガイダンスを開催している。表 3.4-1 に本年度のガイダンス実施状況を示す。開催の曜日・時間は、いずれも木曜日の午後 4 時～5 時 30 分で、場所は学部共通棟の 8103 または 8105 講義室である。

表3.4-1 全学就職ガイダンスの実施状況(平成18年度)

| 実施日 | 講師とガイダンス題目 | 参加者概数 |
|--------|--|-------|
| 10月12日 | ㈱ディスコ広島支社 阪本竜也 氏 「就職活動の進め方について(就職活動の第一歩から)」 | 110名 |
| 10月19日 | NPO法人 岡山学生就職支援ネットワーク キャリアコンサルタント 宮原 健 氏 「採用活動の現場から(企業訪問、面接対策など)」 | 100名 |
| 11月1日 | 東京アカデミー岡山校 坂田栄一郎 氏 「公務員試験ガイダンス(公務員試験への出願方法、試験内容及び対策等)」〔栄養学科対象〕 | 40名 |
| 11月16日 | 東京アカデミー岡山校 坂田栄一郎 氏 「公務員試験ガイダンス(公務員試験への出願方法、試験内容及び対策)」 | 40名 |
| 1月25日 | ㈱ジェイ・ブロード大阪支社 花村泰充 氏 「就職活動直前ガイダンス(就職活動の方法、面接の受け方等)」 | 100名 |

4.1-2 学部・学科ごとの取組み

基本的な方針を、就職情報の公平な提示と希望者全員の就職に置き、学部・学科ごとに、学生が就職する業種の採用特性を踏まえた取組みを行っている。実施状況は次のとおりである。

[保健福祉学部]

看護学科

(1)相談・指導体制

卒業研究のゼミ単位で個別に相談するとともに、助産師、保健師、看護師の専門領域から各1名の教員が相談できる体制を整えている。

(2)実施状況

ガイダンス

毎年8月初旬に、3、4年次学生を対象に実習施設(18年度は11施設)と大学院進学について卒業生による懇談会を開きガイダンスを行っている。

就職先開拓のための訪問活動

必要に応じて訪問をしている。病院等からの求人訪問には就職担当教員のほかに、年間を通じて月ごとに担当教員を決めて対応しているが、多くの病院からの多数の求人に対応できない状況である。

栄養学科

(1)相談・指導体制

学科就職委員がWebにより、学生班等に集まった求人情報を、PDFファイル化し、最新情報が閲覧できる体制を整えている。Webには前年度分も残し、過去の情報(就職先の種類、場所、試験時期など)も提供している。また、過去の試験問題や面接に関する調査票を出し、これらについてもWebで提供している。

(2)実施状況

ガイダンス

3年次末の授業で情報を示し、就職活動に望む心構え、情報を得る方法などについてもWeb上で行っている。

就職先開拓のための訪問活動

本学科では出身府県にUターン就職を希望する学生が比較的多いので、その地方での企業情報の集まりやすい大学の就職関係者や、栄養士会に直接出向いて、各種の協力を要請している。

保健福祉学科

(1)相談・指導体制

就職・進路指導委員会を4名の教員で組織している。

(2)実施状況

ガイダンス

- 1) 4月に4年次生を対象に実施
- 2) 4月から5月に就職・進路希望の個人面談を実施
- 3) 7月に卒業生による体験発表会および懇親会を実施
- 4) 8月から3月まで、個別相談を実施(延べ60回)
- 5) 2月に3年次生を対象に就職・進路説明会を実施

就職先開拓のための訪問活動

- 1) 3年次に実施される実習の際の実習先への訪問時に実施
- 2) 実習先以外への就職希望の保健福祉関連機関および施設への訪問を実施

[情報工学部]

(1)相談・指導体制

学科ごとに就職担当教員を配置し、進学・就職に関する進路相談と求人企業への対応を行っている。学科ごとに就職活動のための Web を開設するとともに、情報工学部棟 3 階ロビーに、募集要項やパンフレットを閲覧できる体制を整え、学生の自由な閲覧に供している。さらに、近年ではインターネットを通じた求人が活発であるため、学生に 1 人 1 台のコンピュータ環境を実現し、求人に対応できる環境を整えている。

(2)実施状況

ガイダンス

10 月下旬に、学部 3 年次及び大学院前期課程 1 年次の学生を対象に説明会を実施し、就職への心構え、応募形態(推薦, 自由), Web を介しての応募方法等について説明している。2 月には、県内の情報サービス産業の団体(SEO; システムエンジニアリング岡山, 県内有力企業約 80 社)が情報工学部学生獲得のための就職説明会を開催している。

就職先開拓のための訪問活動

必要に応じて教員が県内企業訪問を行っているが、県内企業からの求人は多いが希望学生が少なく、企業からの要望に応じきれない現実がある。なお、企業訪問の際には、スポーツシステム工学科学部学生が第 1 期生を平成 21 年度に卒業することについて、広報の努力を重ねている。

[デザイン学部]

ビジュアルデザイン学科

(1)相談・指導体制

3 名の教員で学科就職委員会を組織し、指導は卒業研究を担当するゼミ単位で個別に相談する体制を整えている。就職情報コーナーを設置し、就職情報を開示するとともに就職活動の本や PC を整備している。

(2)実施状況

ガイダンス

- 1) 毎年 4 月に行う学年毎のガイダンスでの就職指導。
- 2) 適宜, 3,4 年次生を対象に就職ガイダンスの実施。
- 3) 卒業生に依頼し, 就職懇談会を開き, 就職ガイダンスの実施。
- 4) 企業に依頼し会社説明会の実施。
- 5) 実習授業, ゼミナールの授業においてポートフォリオ制作の指導。

就職先開拓のための訪問活動

- 1) コース毎に専門領域の企業訪問を就職担当委員中心に実施。
- 2) 卒業生の就職企業を積極的に訪問し引き続き採用を依頼。
- 3) 企業からの訪問にゼミ担当の教員で対応。

- 4)卒業制作展の案内および卒業・修了作品図録，卒業研究梗概集，修士論文梗概・修士作品梗概集を各企業に送付．

工芸工業デザイン学科

(1)相談・指導体制

2名の教員が，就職・進路指導委員会を組織し，指導はコースごと，またはゼミ単位で相談等が行える体制を整えている．コースごとの就職担当教員を通じて求人情報を学生に開示し，指導・相談は各ゼミ担当教員の研究室で行っている．

(2)実施状況

ガイダンス

- 1)コース毎の就職ガイダンスの実施(卒業生による会社説明会・セミナーなど)
- 2)企業実習・インターンシップ情報を取りまとめ，実習時間等を利用して，随時啓発及び情報提供(求人情報のメール配信など)
- 3)デザイン実習内でのポートフォリオ(作品集)制作の指導(コース毎)
- 4)エントリーシート，ポートフォリオ(作品集)制作の時間外指導(ゼミ担当教員)
- 5)インハウスデザイナーによる学内レダリング講習会の実施
- 6)企業実習・インターンシップ報告書の作成と保管・開示(就職担当教員)
- 7)ゼミナール時間を利用した企業研究指導の実施

就職先開拓のための訪問活動

- 1)出張・研修を兼ねて企業訪問を実施(不定期)
- 2)卒業制作展の案内及び卒業・修了作品図録，卒業研究梗概集，修士論文梗概・修士作品梗概集を各企業への送付

4.2 平成 18 年度卒業生の就職内定状況

平成 19 年 3 月卒業予定者の就職内定状況は表 3.4-2 のとおりである。

表 3.4-2 就職内定状況

内定率（平成 19 年 2 月末現在）

| | 保健福祉学部 | | | | 情報工学部 | | | デザイン学部 | | | 総計 | |
|-------|--------|------|--------|-----|-------------|---------------|-----|--------------------|------------------|----|-----|-----|
| | 看護学科 | 栄養学科 | 保健福祉学科 | 計 | 情報通信 工学科 | 情報システム 工学科 | 計 | デザイン デジタル 学科 | 工業 デザイン 学科 | 計 | | |
| 卒業予定者 | 39 | 44 | 43 | 126 | 65 | 45 | 110 | 34 | 36 | 70 | 306 | |
| 進路区分 | 就職希望者数 | 36 | 30 | 39 | 105 | 37 | 29 | 66 | 27 | 29 | 56 | 227 |
| | 進学希望者数 | 3 | 13 | 3 | 19 | 26 | 15 | 41 | 5 | 5 | 10 | 70 |
| | その他 | 0 | 1 | 1 | 2 | 2 | 1 | 3 | 2 | 2 | 4 | 9 |
| 就職 | 内定者数 | 35 | 26 | 36 | 97 | 37 | 28 | 65 | 22 | 27 | 49 | 211 |
| | 内定率(%) | 97 | 87 | 92 | 92 | 100 | 97 | 98 | 81 | 93 | 88 | 93 |

今後の課題は、学生生活アンケートの結果(本章 6 節)にも示されているように、次の事項の充実を図ることである。

- (1) 掲示板や Web を充実させ、就職情報が確実に伝わるよう、周知徹底することが必要である。
- (2) 学生が就職する分野の採用特性(募集形態、内定時期、など)に応じて、学科における就職支援体制を再検討することが重要である。
- (3) 本学では就職担当の専門職員が配置されていないが、今後、専門職員の配置についても検討することが求められる。そして、専門職員を中心に就職情報の周知徹底や就職相談・指導を充実することが望まれる。

5. 課外活動の支援

5.1 学友会活動

授業以外の活動である課外活動は、学生にとって、多くの人々と交流を重ね、自己の才能を発展させ、豊かな大学生活を送る上で欠かせない。本学では、課外活動を行う学生団体として 53 のクラブ・サークルがあり、そのうち 36 団体が体育会または文化会に所属し、学友会を組織している。

学友会所属の団体には後援会から活動援助費、設備器具整備費が交付され、未加入の団体には、活動援助費が交付される。このほか、学生が自主的に運営する大学祭、ならびに、今日ますます重要性が高まるボランティア活動についても積極的に支援する体制を整備している。

5.2 自主学習組織に対する活動支援

本学は「実学指向の人材育成」を掲げていることもあり、自主的な学習集団の形成と教員による支援が随所に見られる。表 3.5-1 に、「自主学習」の内容が、学部・学科の人材育成像に近いものの中から代表的なものを取り上げ、それらの活動概要を示す。

表 3.5-1 自主学習組織の活動状況

| | | | |
|---|----------|----------|------------------|
| クッキングサークル LIT'S | 構成員 20 名 | 顧問 教員 | 保健福祉学部 淵上倫子教授 |
| 活動の概要 | | | |
| 調理学、調理学実習、調理学実験で学んだことを、さらに発展させ、管理栄養士としての応用能力を養うため、自主的に料理研究に取り組んでいる。最近では、特にお菓子作りを中心に取組み、その成果の一端（各種パウンドケーキ、クッキーなど）を大学祭で販売している。 | | | |
| ロボット研究サークル「メヒヤニカ」 | 構成員 17 名 | 顧問 教員 | 情報工学部 神代充助教授 |
| 活動の概要 | | | |
| ロボットの設計・製作を通して、機械の設計・加工技術、プログラミングや通信の技術など、多様な能力を身につけている。さらに、製作したロボットを各種の大会に出場させ、他のロボットと競技することで、製作したロボットの問題点や改良点などを明らかにし、今後のロボット製作に役立てている。競技会・交流会等の戦績は、ロボカントリー 4 とロボスクエアロボットバトルでベスト 8 である。 | | | |
| CG サークル「DADA」 | 構成員 40 名 | 顧問 教員 | デザイン学部 益岡 了講師 |
| 活動の概要 | | | |
| CG によるイラストレーション、アニメーション等の制作発表活動を実施している。全体としては、年 4 回の学内展示を行い、有志で作品集制作や関連企業研究等を実施しており、教員はこれらの活動にアドバイスを行っている。 | | | |
| 建築コンペ | 構成員 30 名 | 顧問 教員 | デザイン学部 山田孝延教授 |
| 活動の概要 | | | |
| 学外で公募されている設計コンペなどに応募して、設計能力の研鑽に努めている。また、岡山建築設計クラブが主催する、県内建築系学生を対象にした「ワンデーエクササイズ（一日設計競技）」に 2 チーム編成で参加している。平成 17 年度に優秀賞を得た。 | | | |

6. 学生意見の取り入れ

6.1 キャンパスマネージャ

本学には学生の意見を大学運営に適切に反映するため、キャンパスマネージャ(学生生活企画提言委員)の制度が設けられており、平成17年度28名、平成18年度22名の学生が就任している。活動は、学生部長や学生主任の助言に基づき、全学就職ガイダンスならびに学生に対する生活講習会の企画と実施、ボランティア活動のコーディネータなどを行っている。平成18年度は、前年度に引き続き、次の活動を行っている。

(1)日時：平成18年6月14日(水) 12:00~12:40

場所：学生会館3階多目的室

内容：キャンパスマネージャほか学生16名、学生部長、学生主任、ならびに事務局学生班2名が出席し、平成16年度に実施した学生生活アンケートで出された要望事項に対する本学の改善案の説明、ならびに学生との意見交換を行うとともに、学生が問題となっている事柄について、議論した。

(2)日時：平成19年2月14日(水) 14:00~15:00

場所：短期大学部棟会議室

内容：卒業予定のキャンパスマネージャ8名、学生主任、ならびに事務局学生班1名が出席し、活動をより活発にするための意見交換を行った。キャンパスマネージャからは、辞令交付式を含め年2回程度学長と懇談する機会が欲しい、キャンパスマネージャの年間予算があると企画の立案など自主的に活動しやすいなどの要望があった。

なお、平成16年度の学生生活アンケート(本節第2項参照)で出された「安全への配慮」については、平成18年2月実施の学内点検ツアーに基づいて、学内点検マップの作成を継続中である。

6.2 学生生活アンケート

6.2-1 概要

学生生活に関する平成 16 年 10 月のアンケート(以下,本節では「前回アンケート」と略記)の結果を踏まえ,必要な施設・設備の充実や制度の改善などに取り組んでいる。前回アンケートで出された要望事項への対応については,平成 18 年 6 月 14 日のキャンパスマネージャとの会合で表 3.6-1 に示す改善事項が示され順次,検討・実行に移されている。

表 3.6-1 平成 16 年度実施の学生生活アンケートにおける要望への対応状況

| 主 な 要 望 事 項 | | 対 応 |
|-------------|-----------------|------------------------------------|
| (1)学習支援 | | |
| 履修指導 | シラバス,時間割がわかりにくい | 教務専門委員会等で改善を継続 |
| 自習環境 | 講義室の開放と自習室の数 | 講義室が開いている時間帯には責任者を決め開放できる体制を整備 |
| | 自習用 P C の台数増 | 図書館ロビーに 10 台増設 |
| (2)生活支援 | | |
| 学生相談 | 相談室の存在・場所がわからない | 年度はじめに名刺大の PR カードを配布 相談室周知期間を設定 |
| 経済支援 | 支援実績を知りたい | 前年度支援状況を提示 |
| (3)就職支援 | | |
| 就職情報 | 就職状況の提示 | 学部・学科ごとに Web 等で実績提示 |
| ガイダンス | ガイダンスの早期実施 | 全学就職ガイダンスを 1, 2 年次学生にも 拡大 |
| (4)課外活動 | | |
| 運動施設 | 一般学生の利用促進 | クラブとの間で「棲み分け」を検討 |
| 部室 | 部室の増 | 新設困難なため,共同利用を提案 |
| (5)キャンパス整備 | | |
| 食堂・喫茶・売店 | メニュー,品数の増と混雑緩和 | 食堂・売店に改善を要望 |
| 学内環境 | 外灯の増設 | 最も要望が多い短大棟南駐車場に増設 |
| | 駐車場・駐輪場の改善 | 駐車許可制と駐輪場の増を検討 |
| | 安全への配慮 | 「学内点検マップ」を作成中 |

学生生活専門委員会では,前回から 2 年を経過した状況を把握するため,第 2 回のアンケートを平成 18 年 10 月に実施した。

6.2-2 実施方法

アンケートはマークシート式と自由記述式の 2 種類で行った。マークシートによる質問項目は,前回の「問 14;今年の夏季休業に主に行ったこと」を削除し,「問 13;本学での教育について満足していますか」を追加したこと,さらに「問 6;本学での大学生活に満

足りていますか」を、設問の最後に配置したことである。その他、選択肢の内容に少し変更を加えたことを除けば、平成 16 年度と同じである。

自由記述では、前回の 12 項目を、今回は次の 3 項目に絞った。

- Q1 相談や助言(履修指導, 学生生活, 就職など)
- Q2 大学の施設・設備(例えば, 危険や不便を感じる場所を含めて)
- Q3 その他(大学に対するあなたの意見や提案)

アンケートは、平成 18 年 10 月に学生生活委員により実施した。短期大学部 2 年生を含め、対象者 1,557 名に対し、回収は 1,286 名、回収率は 83%であった。

6.2-3 マークシート式アンケートによる結果の概要

前回の結果と比べて変化が見られ、かつ、今後重要になると考えられる項目のみを取り上げる。アンケート項目全体の整理は付録 A4 を参照されたい。

(1)居住地、通学時間、経済状況(図 3.6-1)

前回と比べて、県内居住者が 90%以上になり、それと同時に、通学時間は、「30 分未満」が減少し、「30 分～60 分未満」が半減し、「2 時間～3 時間未満」が大幅に増加し、後者の実数は回答者の約 2 割に達する。

主な収入源を前回と今回で比較すると、「仕送りのみ」は約 40%で変化は少ない。一方、「アルバイト」と「奨学金」に依存する学生は前回の 40%から今回の 50%へと増加し、依存率が増大している。

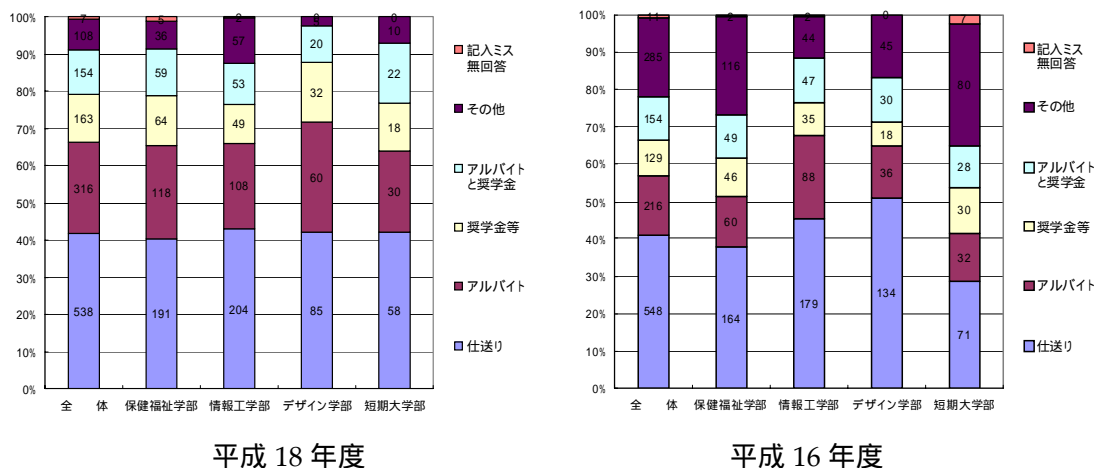


図 3.6-1 「問 4 主な収入源」

(2)進路について(図 3.6-2,3)

進路については、学部ごとの特徴が明確に現れている。進学希望者は情報工学部では 40%程度であるが、保健福祉学部とデザイン学部は 10%を下回る。民間企業への就職希望は保健福祉学部とデザイン学部で約 40%、公務員希望は、保健福祉学部で約 20%だが、情報工学部は 10%強、デザイン学部は 1%未満である。希望する就職地域について、地元志向は、全体で 50%を越えるが、保健福祉学部、情報工学部、デザイン学部の順に、他の地域への就職希望割合が増加している。

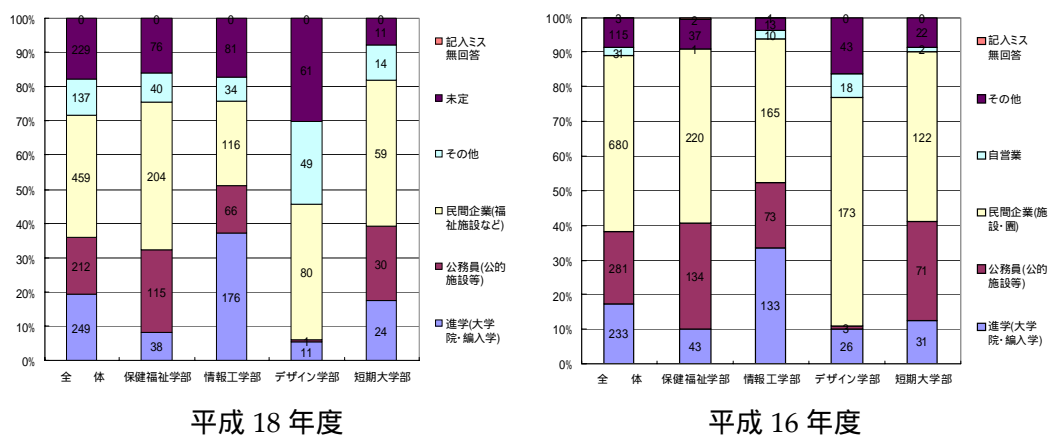


図 3.6-2 「問 23 卒業後の進路」

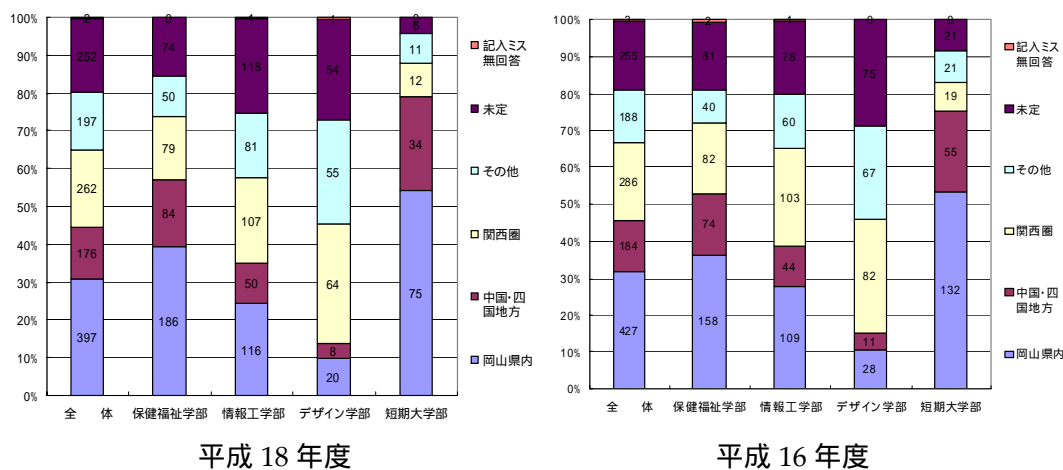
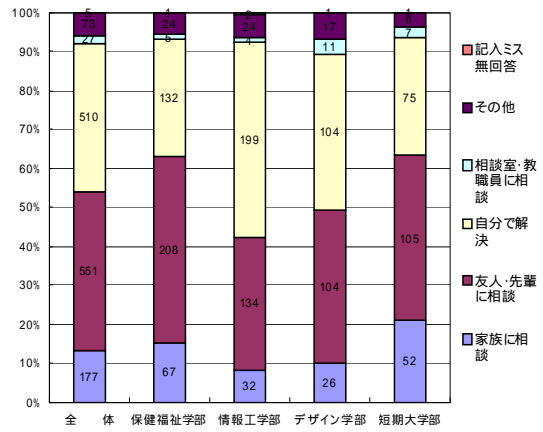
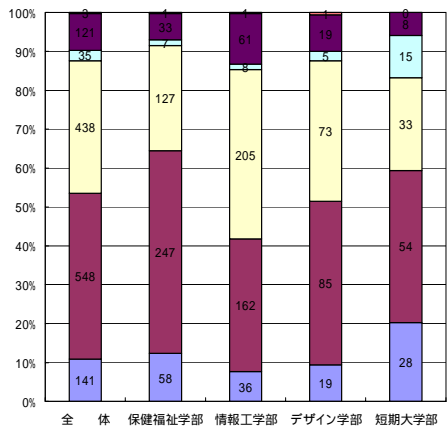


図 3.6-3 「問 24 希望する就職地域」

(3) 学生相談について (図 3.6-4,5)

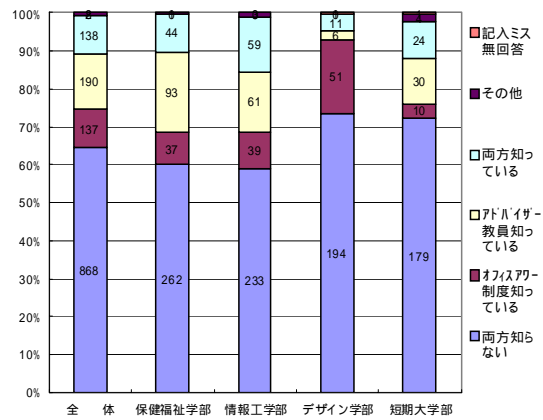
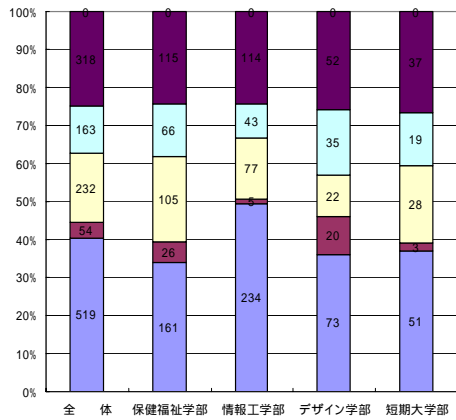
学生が抱える悩みについては、学部ごとの違い、調査年度別の変化は少なく、「友人・先輩に相談」が4割、「自分で解決」が3割を占めた。またオフィスアワー制度・アドバイザー教員に関する調査では、両者を知らない学生は20%以上減少したが、「制度を知らない」も20%を上回る。



平成 18 年度

平成 16 年度

図 3.6-4 「問7 悩みの解決法」



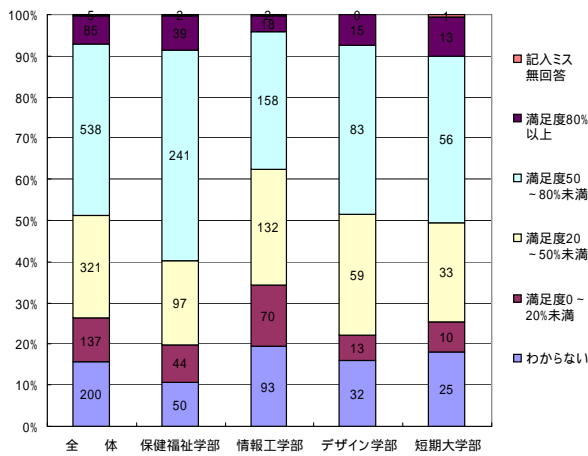
平成 18 年度

平成 16 年度

図 3.6-5 「問8 オフィスアワー制度の周知」

(4)教育の満足度 (図 3.6-6)

教育の満足度について、今回はじめて調査を行い、満足度 50%以上が約半数であった。



平成 18 年度

図 3.6-6 「問13 教育満足度」

6.2-4 自由記述アンケートのまとめ

学生生活に関する意見を3項目(相談や助言,大学の施設・設備,その他)について,今回と前回の結果をおおまかに比較すると,次の事が言える.

大きく減った要望は,履修指導の方法,自習環境の整備,学生相談体制の周知法に関するものである.変化が少なかったものは,食堂・売店の品数や混雑緩和,ならびに,営業期間・時間の問題,大学・JR 服部駅間の外灯設置が代表的である.増加した意見は,学生への情報提供方法(掲示板,Web)に関するものである.なお,平成18年度から実施された履修登録の上限単位数に関する意見も出されている.以上の詳細は,学生生活委員会で整理・検討中であり,ここでは,比較的多い意見の概要をまとめておく.

[相談・助言について]

(1)学習

履修指導の充実に対する要望は全学的に前回より大きく減少した.その反面,平成18年度から実施された履修登録の上限単位数の増を求める意見が,保健福祉学部を中心に40名前後の学生から出された.

(2)就職

就職情報の提供と指導体制について,希望就職地域と業種に固有な採用活動に起因し,たとえば保健福祉学部とデザイン学部学生から,県外就職を含む情報の充実に関する要望が30名前後から出されている.指導の体制,時期,方法に対する要望は,前回より件数は減少傾向にあるが,更なる充実を求める意見は,保健福祉学部学生を中心に多い.

(3)大学からの情報伝達

掲示板は平成14年度に再編されたが,その後の掲示項目の増大等により,保健福祉学部と情報工学部を中心に,70名前後の学生から改善要望が出された.さらに,Webによる情報提供の充実についても,40名前後の学生から意見が出された.

[施設・設備]

空調について,稼働期間・時間および設定温度に関する要望が情報工学部とデザイン学部を中心に34名から出された.学内の外灯設置については,前回調査以降,一定の改善が図られたが,大学・JR 服部駅間の外灯設置については,引き続き強い要望が出された.

7. まとめ

本学学生を取り巻く環境は、学生生活アンケート結果に示されるように、通学時間が増大し、アルバイト・奨学金への依存度が高まる傾向にある。このため、経済支援の充実、公共交通機関や自治体との連携など、学外の理解と協力も重要になっている。今後の主要課題は、次のとおりである。

(1)履修指導

平成 18 年度入学生から履修登録の上限設定を実施しているが、その趣旨が学生・教員ともに徹底していると言い難い。したがって、上限設定の趣旨を、さらに徹底する必要がある。

(2)学生相談室

課題は相談室の場所と広さ、相談室の周知方法である。前者については、保健管理部門と相談室を隣接させ「心と体」の両面から効率的に相談できるように検討する必要がある。さらに、箱庭療法等の可能な相談室を視野に入れた場所の選定、他大学と同様に、精神科医の配置も将来的に必要なであろう。

(3)経済支援

上述のように、収入源をアルバイトと奨学金に依存する学生は 50%に達した。しかし、本学周辺のアバイト状況を見ると、学生の希望に対して、十分に応えることは困難である。今後、新たな施策を検討する時期を迎えている。

(4)就職支援

県外就職希望者の増加、企業の採用活動に対する Web の活用、など本学学生の就職環境にも変化が見られる。これに十分に対応できるように、県外就職の支援体制をはじめとする、学部ごとの就職活動の特性に応じた支援の見直しが必要である。

(5)大学からの情報伝達

学生に情報を伝達する掲示板は、平成 14 年度に再編されたのち、その後の情報量の増大と内容の多様化に対応できなくなりつつある。今後は、Web と掲示板を併用し、必要な情報を適切に提供できる体制と方法を再検討すべきである。

(6)キャンパス環境

食堂・売店については、メニューの数や低価格化、営業期間・時間の延長と混雑緩和などの問題が出され、食堂・売店に対して改善の要望を継続している。また、大学・JR 服部駅間の外灯設置の促進も重要である。以上のことは、学外との連携協力が重要であるため、関係機関への働きかけをいっそう強化する必要がある。

第4章 卒業・進路等の状況

1. 卒業と進路の状況

表4.1-1に、平成15年度からの3年間にわたる学生の卒業と進路の状況を示す。卒業生数は、いずれの年度についても、全学部で入学定員とほぼ同数である。卒業後の進路を見ると、就職希望者は保健福祉学部とデザイン学部で80～90%、情報工学部で40～50%である。年度末における就職内定状況は、保健福祉学部と情報工学部は、例年100%と言える。一方、デザイン学部は70～80%であり、平成18年度から入学定員増を図ったことも考慮に入れ、就職先の開拓、キャリア形成支援を含む指導体制の見直し、大学院への進学促進等をいっそう推進することが重要である。

なお、平成18年3月卒業生について、大学院進学者は、保健福祉学部が13名、情報工学部が49名、デザイン学部が5名であり、その多くは本学大学院へ進んでいる。

表4.1-1 卒業と進路の状況(平成15～平成17年度)

| 学部・学科 人数 | | 保健福祉学部 | | | | 情報工学部 | | | デザイン学部 | | | 合計 |
|-------------------|------------|--------|------|--------|-----|---------|-----------|-----|-----------|-----------|----|-----|
| | | 看護学科 | 栄養学科 | 保健福祉学科 | 計 | 情報通信工学科 | 情報システム工学科 | 計 | デジタルデザイン学 | デジタルデザイン学 | 計 | |
| 定員 | | 40 | 40 | 40 | 120 | 50 | 50 | 100 | 40 | 40 | 80 | 300 |
| 平成15年度(平成16年3月卒業) | | | | | | | | | | | | |
| 卒業生 | | 36 | 43 | 42 | 121 | 55 | 50 | 105 | 36 | 42 | 78 | 304 |
| 進路区分 | 就職希望(A) | 31 | 36 | 36 | 103 | 24 | 16 | 40 | 33 | 34 | 67 | 210 |
| | 進学・その他 | 5 | 7 | 6 | 18 | 31 | 34 | 65 | 3 | 8 | 11 | 94 |
| 就職希望者 | 内定(B) | 31 | 36 | 34 | 101 | 24 | 16 | 40 | 18 | 27 | 45 | 186 |
| | 未定 | 0 | 0 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 15 | 7 | 22 | 24 |
| | 内定率(%) B/A | 100 | 100 | 94 | 98 | 100 | 100 | 100 | 55 | 79 | 67 | 89 |
| 平成16年度(平成17年3月卒業) | | | | | | | | | | | | |
| 卒業生 | | 42 | 44 | 43 | 129 | 62 | 50 | 112 | 42 | 39 | 81 | 322 |
| 進路区分 | 就職希望(A) | 40 | 34 | 32 | 106 | 27 | 24 | 51 | 33 | 30 | 63 | 220 |
| | 進学・その他 | 2 | 10 | 11 | 23 | 35 | 26 | 61 | 9 | 9 | 18 | 102 |
| 就職希望者 | 内定(B) | 40 | 34 | 32 | 106 | 27 | 24 | 51 | 26 | 23 | 49 | 206 |
| | 未定 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7 | 7 | 14 | 14 |
| | 内定率(%) B/A | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 79 | 77 | 78 | 94 |
| 平成17年度(平成18年3月卒業) | | | | | | | | | | | | |
| 卒業生 | | 41 | 43 | 43 | 127 | 48 | 58 | 106 | 38 | 36 | 74 | 307 |
| 進路区分 | 就職希望(A) | 37 | 34 | 31 | 102 | 24 | 28 | 52 | 28 | 28 | 56 | 210 |
| | 進学・その他 | 4 | 9 | 12 | 25 | 24 | 30 | 54 | 10 | 8 | 18 | 97 |
| 就職希望者 | 内定(B) | 37 | 34 | 31 | 102 | 24 | 28 | 52 | 24 | 22 | 46 | 200 |
| | 未定 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 6 | 4 | 10 | 10 |
| | 内定率(%) B/A | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 86 | 79 | 82 | 95 |

2. 資格等の取得状況

2.1 看護師，保健師，助産師，管理栄養士，社会福祉士

表 4.2-1 に看護師，保健師，助産師，管理栄養士，及び，社会福祉士国家試験の合格状況を示す．同表において，合格率の欄に示す「本学」は，本学新卒者に関する合格者数と受験者数の比を表す．同様に，「全国」は，養成機関(大学，専門学校等)の相違を無視した場合の，合格者数と受験者数の比を表す．

平成 17 年度の保健師と助産師の合格率を除けば，本学学生の合格率は「全国」と比較して高い．しかし，中期計画に定める合格率を達成し，それを維持するためには，教育内容・方法の持続的な改善と学生支援の充実をはかることが重要である．

表4.2-1 看護師,保健師,助産師,管理栄養士,社会福祉士国家試験の合格率

| 試験の名称 | 卒業年度 | | 平成15年度 | 平成16年度 | 平成17年度 |
|----------------|--------|----|--------|--------|--------|
| | 人数・合格率 | | | | |
| 看護師 国家試験 | 受験者 | | 34 | 39 | 39 |
| | 合格者 | | 34 | 39 | 36 |
| | 合格率(%) | 本学 | 100.0 | 100.0 | 92.3 |
| | | 全国 | 91.2 | 91.4 | 88.3 |
| 保健師 国家試験 | 受験者 | | 36 | 41 | 42 |
| | 合格者 | | 35 | 35 | 31 |
| | 合格率(%) | 本学 | 97.2 | 85.4 | 73.8 |
| | | 全国 | 92.3 | 81.5 | 78.7 |
| 助産師() 国家試験 | 受験者 | | 4 | 4 | 3 |
| | 合格者 | | 4 | 4 | 2 |
| | 合格率(%) | 本学 | 100.0 | 100.0 | 66.7 |
| | | 全国 | 96.2 | 99.7 | 98.1 |
| 管理栄養士 国家試験 | 受験者 | | 43 | 42 | 42 |
| | 合格者 | | 38 | 40 | 40 |
| | 合格率(%) | 本学 | 88.4 | 95.2 | 95.2 |
| | | 全国 | 15.6 | 25.3 | 26.8 |
| 社会福祉士 国家試験 | 受験者 | | 40 | 36 | 39 |
| | 合格者 | | 26 | 28 | 25 |
| | 合格率(%) | 本学 | 65.0 | 77.8 | 64.1 |
| | | 全国 | 28.5 | 29.8 | 28.0 |

養成定員 4

2.2 工業英検

情報工学部では平成 14 年度入学生から工業英語に関する授業を実施している。本学は日本工業英語協会から、準会場または特別準会場の指定を受け、学内で同協会主催の工業英検を実施している。表 4.2-2 に工業英検 3 級(大学専門課程レベル)の受験状況を示す。平成 19 年 1 月(66 回)の試験では、本学合格者は 22 名で、1 名が工業英検文部科学大臣奨励賞を受賞した。なお、全国での合格者は 202 名、合格率は 40%である。この他、実務経験者を標準とし、工業英語全般の知識を有するとされる 2 級合格者が、平成 18 年 5 月に 1 名、工業高校レベルを対象とする 4 級合格者が平成 17 年 1 月に 1 名ある。なお、英語教育に関する TOEIC IP テストにおけるスコアの年度別変化は第 2 章 6 節を参照されたい。

表4.2-2 工業英検の受験状況

| 年 度 | 回 | 試験年月 | 受験者数 | 合格者数 |
|--------|----|-----------|------|------|
| 平成15年度 | 57 | 平成16年 1 月 | 32 | 25 |
| 平成16年度 | 59 | 平成17年 1 月 | 12 | 6 |
| | 58 | 平成16年11月 | 27 | 19 |
| 平成17年度 | 62 | 平成18年 1 月 | 2 | 2 |
| | 60 | 平成17年 5 月 | 4 | 2 |
| 平成18年度 | 66 | 平成19年 1 月 | 22 | 22 |
| | 63 | 平成18年 5 月 | 8 | 7 |

3. 学生・クラブの表彰

平成 18 年度における学生の活動に対する表彰等は次のとおりである。

3.1 学生個人の活動に対する表彰

| | 受賞者 | 受賞 |
|----------|---|---|
| 保健福祉学部 | 栄養学科 4年 横路 三有紀 保健福祉学科 3年 藤本 舞子 | 総社市奨励賞 天皇賜杯 第 75 回日本学生陸上競技対校選手権大会 (ハンマー投げ) 出場 |
| 情報工学部 | 情報システム工学科 2年 足立 和也 4年 小柳 夏来 | 平成 18 年度工業英検文部科学大臣奨励賞 総社市奨励賞 |
| デザイン学部 | ビジュアルデザイン学科 4年 奥村 絵里子 4年 長谷川 雄一 工芸工業デザイン学科 2年 池田 尚樹 3年 池上 智子 4年 藤井 雅子 | 総社市奨励賞 第 43 回宣伝会議賞 奨励賞 伊丹市・(財)伊丹市文化振興財団主催「2006 伊丹国際クラフト」展, 審査員賞(大手柄賞) (社)日本インダストリアルデザイナー協会主催 「あかりメッセージ 2006」展, 関西照明設計者協会 /LIDA 賞(学生部門) 工芸都市高岡 2006 クラフトコンペ入選 |
| 情報系工学研究科 | 電子情報通信工学専攻 1年 岩崎 雄介 1年 孫 暁霞 2年 平山 怜 2年 辻 圭一 | 岡山地域部会第 18 回研究会・第 117 回統計研究会 最優秀賞 ICIM2006 エクセレントペーパー賞 平成 18 年度電子情報通信学会中国支部奨励賞 平成 18 年度電気・情報関連学会中国支部第 57 回連合 大会奨励賞 |
| | 機械情報系システム工学 専攻 1年 瀬島 吉裕 2年 西 亮 2年 木村 康秀 | 第 8 回 IEEE 広島支部学生シンポジウム HISS 優秀プレゼンテーション賞 (社)軽金属学会中国四国支部 奨励賞 電子情報通信学会 2007 年総合大会 ISS 特別企画 「学生ポスターセッション」 優秀賞 |
| | システム工学専攻 3年 長井 弘志 | 仁科賞 |
| 短期大学部 | 生活福祉専攻 2年 宇野 栄輔 2年 田林 正美 健康体育専攻 2年 中山 唯 児童福祉専攻 2年 落合 茉耶 | 総社市奨励賞 日本介護福祉士養成施設協会 会長表彰 第 53 回全国国公立大学選手権水泳競技大会出場 全国保育士養成協議会 会長表彰 |

3.2 サークル活動等に対する表彰

| サークル名 | 大会名 | 成績または受賞等 |
|-------------------|---|---|
| 軟式野球部 | 第 1 回中国地区大学軟式野球連盟新人戦 | 優勝 |
| フットサルサークル | 第 41 回エンジョイ大会 第 14 回ミドル大会 | 優勝 優勝 |
| 弓道部 | 岡山中央弓道会 20 周年記念射会 秋季県内リーグ 県内新人戦 岡山県納射会 | 一般男子 5 位, 6 位 一般女子準優勝 女子 部リーグ 3 位 男子優勝, 3 位 男子優勝, 5 位 |
| サッカー部 | 岡山県学生サッカーリーグ前期 岡山県学生サッカーリーグ後期 中国学生サッカーリーグ チャレンジ大会 | 6 位 5 位 準々決勝敗退 |
| ダンス部 | B-BOY 商店街 新年バトル BEAT SEREAT MARS 150 人 | ベスト 16 ベスト 8 審査員特別賞 |
| バスケットボール部 | 総社フェア サマーカップ 総社フェア 県内リーグ 県一般 中国大会 | 女子 2 位 女子 3 位 女子優勝 女子 3 位 女子 4 位 女子 5 位 |
| ハンドボール部 | 第 33 回中四国学生ハンドボール選手権春季リーグ 第 34 回中四国学生ハンドボール選手権秋季リーグ | 部 4 位 部 5 位 |
| マウンテンバイク部 サエラ | JAPAN シリーズ #1~9 吉井川 MTB 2h エンデューロ 春の中山 3H/5H エンデューロ サイクル耐久レース in 岡山国際サーキット | シリーズ 3 位 MIX 3 位 1 位 4 位 |
| 陸上競技部 | 第 27 回中国四国学生選手権 第 16 回県学生選手権 第 60 回中国四国 IC | 女子ハンマー 1 位 女子ハンマー 1 位, 女子 100m 5 位 女子ハンマー 1 位 |
| 剣道部 | 津山市岡山県下一般剣道大会 第 53 回中四国学生 | A: 二回戦進出 男子予選リーグ 3 位 |
| 水泳部 | 第 37 回中国四国学生選手権水泳競技大会 | 200m バタフライ 2 位 100m バタフライ 1 位 |
| AMC ! | 第 19 回オール岡山コンテスト 6m AND DOWN コンテスト フィールドデーコンテスト | 2 位 中国地区 1 位 中国地区 1 位 |
| OPU ウインドオーケストラ | 第 47 回岡山県吹奏楽部コンクール | 銀賞 |
| ロボット研究サークル「メヒヤニカ」 | ロボスクエア ロボットバトル ロボゴング ロボカントリー 4 | ベスト 8 位 ベスト 16 位 ベスト 8 位 |

4. 卒業時アンケート

本学では、平成 15 年度から、卒業時に「卒業時アンケート」を実施している。平成 15 年度の結果は「教育年報 2004」に、平成 16 年度の結果は「教育年報 2005」にそれぞれ報告した。ここでは、平成 17 年度の概要と、アンケート項目の検討結果をまとめる。アンケート結果の詳細は付録 A5 を参照されたい。

4.1 平成 17 年度卒業時アンケート

卒業生(大学・短期大学部)437 名を対象に、卒業式(平成 18 年 3 月 23 日)の直後に 17 項目で構成されるアンケートを実施した。回収率は 97.5%であった。最終的なアウトカム指標である「教育満足度」に対する学部別回答状況は表 4.4-1 のとおりであり、約 70%の学生が本学の教育に対して、満足、または、どちらかと言えば満足である、と回答している。

表4.4-1 問17本学での教育を振り返って、全般的に満足でしたか

| 学 部 | 不満足 | どちらかと言え ば不満 | どちら でもない | どちらか と言え ば満足 | 満足 |
|---------|-----|----------------|-------------|--------------------|------|
| 保健福祉学部 | 0.8 | 0.0 | 5.9 | 43.2 | 50.0 |
| 情報工 学 部 | 4.0 | 9.1 | 18.2 | 50.5 | 18.2 |
| デザイン学部 | 0.0 | 3.0 | 10.6 | 34.8 | 51.5 |
| 短期大学部 | 0.8 | 0.8 | 4.5 | 24.2 | 69.7 |

問 1 ~ 問 16 の結果は、過去 2 年間のものとほぼ同様であり、その概要を表 4.4-2 に示す。

表4.4-2 問1～問16に対する回答の概要

| | |
|--------------|---|
| 求めていたもの | 「専門知識・技術」が最も多く、保健福祉系(短期大学部を含む)では「資格・学歴」も約 2 割ある。そして、7 割以上の学生は在学中にそれが求められたとしている。 |
| 学習時間 | 個人差がある。学部間ではデザイン学部で多くなる傾向がある。年次別では、卒業年次で増加する。 |
| 自己形成に役立った科目群 | 「卒業研究」、「実験・実習・演習」、「学部教育科目」が挙げられ、「全学教育科目(教養科目)」は低い。 |
| 卒業研究への取り組み | ほとんどの学生が積極的に取り組み、「発見や創造の楽しさを実感」し、「知識・スキルが身に付いた」と感じている。 |
| 身につけた能力 | 「物事を広く考える力」と「能力を磨き発展させる力」を挙げ、その能力を社会で発揮できると考える学生は多い。一方、「分からない」とする学生も 2 割前後いる。 |

4.2 卒業時アンケートの妥当性・信頼性に関する検討

過去3年のアンケート結果をもとに、アンケートの妥当性・信頼性を検討し、今後の「卒業時アンケート」のあり方について検討する。

(1) アンケート項目の吟味

アンケート17項目の中で、順序尺度として扱える12項目は、質問内容および回答(876例)の類似性(クラスタ分析)の両面から、図4.4-1に示すA~Eの5つのクラスタに集約できる。すなわち、「期待と満足」、「専門的成長」、「研究的成長」、「自己学習」、「教養的成長」の領域である。そして、問4、16、17の「期待と満足」のクラスタが総体的なアウトカム指標となるが、問4は問3を受けた回答であり、同様に、問16は問15を前提としており、それぞれの関連については、別途、詳細な調査と統計的解析が必要となる。従って、ここでは問17を卒業時の満足度のアウトカム指標とする。

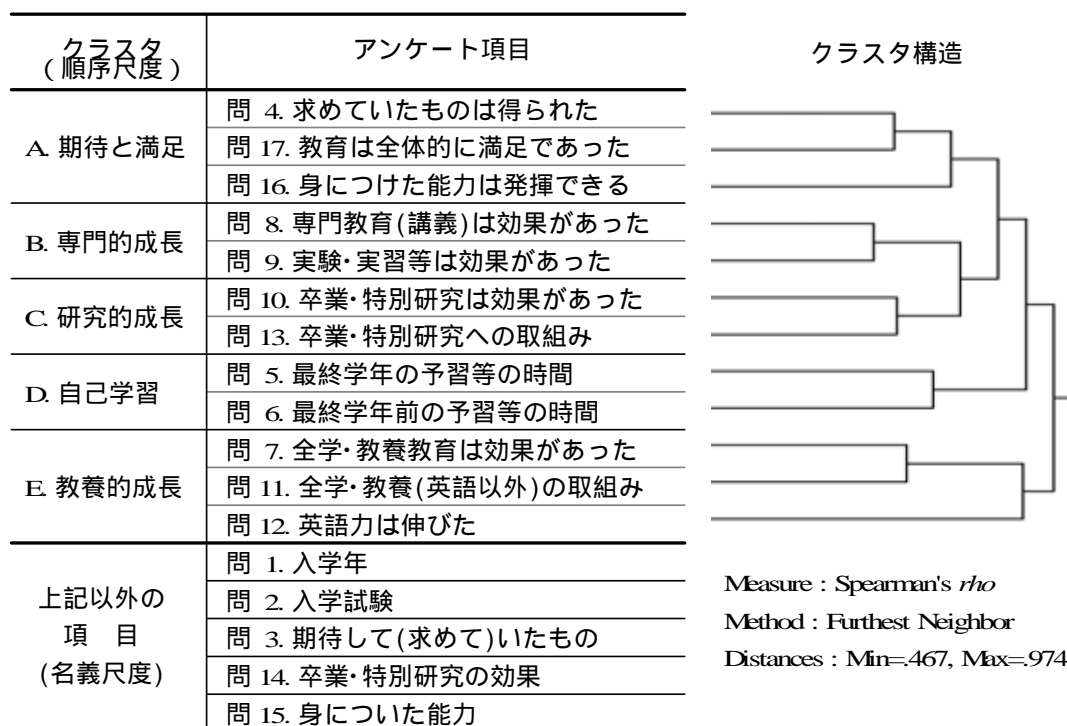


図4.4-1 回答分布から考えられるアンケート項目の構造

(2) 全般的な満足度に与える影響要因の検討

次に、この総合的な指標(問17)をアウトカム指標として、因果モデルを「本学に対する全般的な評価は、教養と専門性に関する成長感ならびに自宅学習の時間に影響される」と設定し、このモデルに対するデータの適合性と要素間の関連性について検討した。潜在変数は、教養に関する成長感については、問7と問12を、また専門性の成長感については、問8、問9、問10を用いた。自宅学習時間については、問5と問6で形成した。

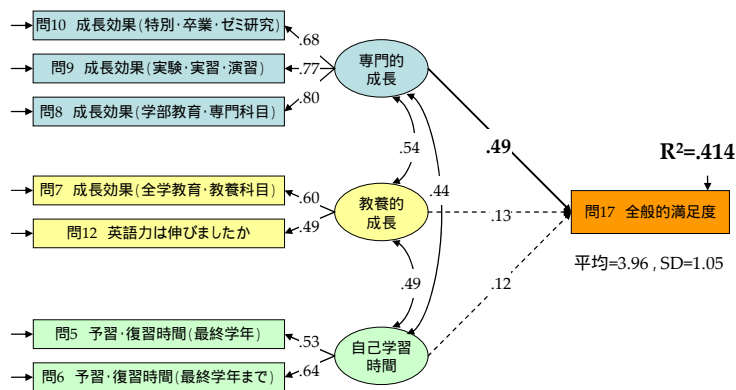
4年制大学のデータを用いたところ，図 4.4-2～図 4.4-4 に示すように，3年間にわたり互いに類似な結果，すなわち，

- (1) 前述の因果モデルはデータに適合すること
- (2) 専門性の成長感のみが本学教育に対する評価に影響すること
- (3) 満足度の平均値は年々増加しているが，専門性の寄与率は年々低下していることが得られた。

これらの結果について，結果(2)は，専門性の寄与率が必ずしも高くないため，専門教育を通しての自己成長感をどう図るかについて検討が望まれると解釈できよう。結果(3)については，総合的な満足度の標準偏差も小さくなる傾向があることを考慮するなら，関連性の強さの低下の原因として「天井効果」が仮定できよう。このことは，質問項目の再検討の必要性を意味しているものと推察される。

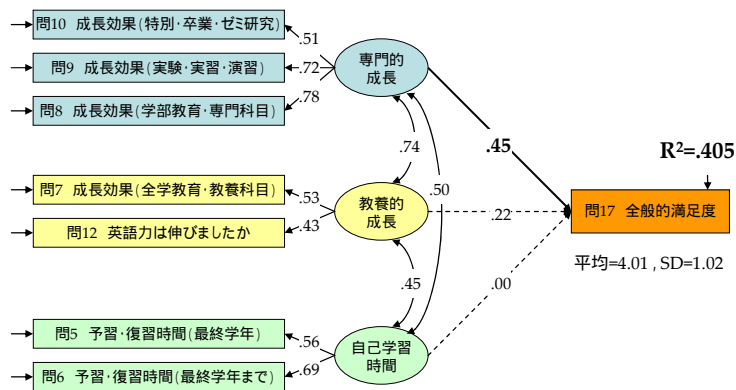
ただし，教養性に関する成長感がいずれの年度も有意な関連性を示さなかったことについては，慎重な検討を要する。たとえば，全学教育について，カテゴリ別評価がなされていないので，それを評価項目として拡大することも，潜在変数を前提に解析する場合に必要と判断される。そのような措置を講じながら，全学教育の学年配当等に関する再検討が望まれよう。全学教育の授業評価得点の平均値が学部教育科目のそれと比較して低いことを考慮するなら，全学教育のあり方の検討が望まれる。

以上のことから，1) 評価項目の再検討，ならびに 2) アウトカムに影響する要因をさらに明らかにすることが，本学教育のあり方を検討する上で，重要な課題と考える。



カイ二乗値=40.386, df=17, GFI=.968, CFI=.956, RMSEA=.069
(4年制のみ, 平成15年度, n=293)

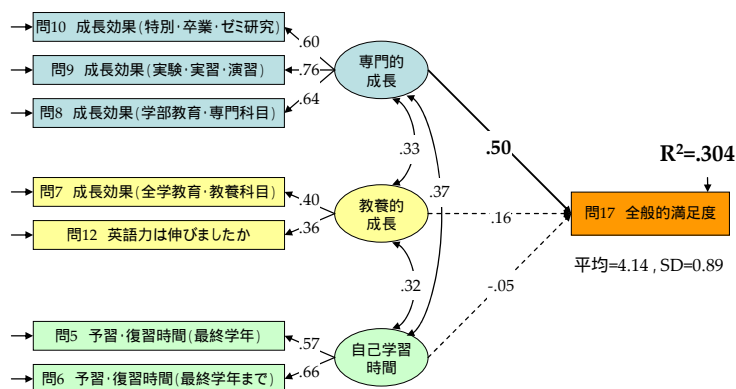
図4.4-2 平成15年度の解析結果



カイ二乗値=53.566, df=17, GFI=.957, CFI=.920, RMSEA=.085
(4年制のみ, 平成16年度, n=300)

図4.4-3 平成16年度の解析結果

資料3



カイ二乗値=17.538, df=17, GFI=.985, CFI=.998, RMSEA=.011
(4年制のみ, 平成17年度, n=283)

図4.4-4 平成17年度の解析結果

4.3 卒業時アンケートの今後のあり方

前述の課題のほかに、従来のアンケートは「教育」に限定したものであるが、「大学に対する総合的満足度」を評価するのであれば、「卒業時アンケート」と「授業評価アンケート」、「学生生活アンケート」との間で有機的関連を持たせた合理的なアンケート（評価体系）を構築し、FDや大学教育の理念や目標との関連を吟味する必要がある。

5. 就職先による卒業生評価

学生に対する社会からの評価は、大きく分けて、採用時と採用後に分けられるであろう。本学では評価委員会が中心になって、就職先における卒業生の評価を、聞き取り調査方式で試行した。調査対象は、卒業生を採用している県内の企業・事業所を中心に計 14 である。

はじめに、採用時に求められる一般的な資質について調査を行った。その結果、採用時の重視項目として、熱意・意欲、コミュニケーション能力、一般常識・教養、自己啓発力などが挙げられた。これらの項目は、厚生労働省による雇用管理調査「新規大学卒・大学院卒の採用の際の重視項目別企業数割合」の結果とおおむね一致することを確認した。ついで、職業分野の特性と密接に関連するとともに、本学における人間形成で注意すべき、いくつかの重要な意見が出された。その概要をまとめると次の表現になる。

[保健福祉学部]

清潔で品があり、相手に安心感を持たせ、思いやりのある姿勢

[情報工学部]

礼儀を重んじ、積極的に対話を求め自己研鑽に励む姿勢

[デザイン学部]

自立心を持ちつつ、他者と明るく接し、自己表現を重んじる姿勢

今後は、学部構成の特色を踏まえた、合理的な調査と分析を継続することが重要である。

6. まとめ

本章では、学生の卒業と進路について現状の把握と今後の検討を行った。それらの概要は、次のとおりである。

(1) 卒業者数と進路

卒業者数は、学部・学科ごとに、入学定員とほぼ同数を、例年送り出している。そして、進路の状況について、大学全体で見ると、平成 17 年度卒業生の場合、進学が 22%、就職が 68%、その他が 10%である。学部別に見ると、保健福祉学部とデザイン学部は就職者が 70～80%である。第 1 章の在学生の出身地、および、第 3 章で述べた就職希望地から判断すると、県外就職に対する支援体制の整備充実が必要である。一方、情報工学部は進学と就職とがほぼ二分され、県内外への就職も活発である。

(2) 資格取得

看護師、管理栄養士等の保健福祉学部が関係する資格試験の合格率は、全国平均と比較して高い。しかし、中期計画に定める合格率を維持・向上させるためには、教育内容・方法の更なる向上と学生支援の充実を図ることが重要である。

(3) 卒業時アンケート

平成 15 年度から継続中である卒業時アンケートの分析を行い、アンケート項目に対する改善指針を与えた。今後は、授業評価アンケート、学生生活アンケートとの間で、合理的かつ簡便な評価体系を築くことも重要である。

(4) 卒業生の評価

採用者側による卒業生評価を、サンプル数は少ないが試行的に行った。その結果によれば、教育内容や職業分野の特性に応じた調査方法を検討すべきである。さらに、本学教育の成果を検証するため、既卒業生による評価について検討を行う必要がある。

なお、大学教育の成果は授業、課外活動、学外活動などにより総合的に得られるものである。また、教育成果の評価は、その時期と内容に関して多面的に実施されねばならない。たとえば、評価時期については、入学から一定期間を経過後、学生の「成長プロセス」を大学全体で評価するように設定することも重要である。

編集後記

道州制に関する議論の急激な進展に象徴されるように、地方分権が顕著に進んでいる分野が大学行政ではなからうか。公立大学の法人化も、一つの典型的な事象と言える。本学もその真直中にある。こうした大学の管理運営体制の激変を伴う中でまとめ上げた成果が今回の「教育年報 2006」である。

「教育年報 2006」は、前年度の「教育年報 2005」より充実した内容に到達すべく、取組んだものである。特徴は、過去 2 年間の作成実績を踏まえ、さらに、平成 21 年度(予定)の認証評価受審を視野に入れつつ、特色ある岡山県立大学の年報となるように目次を編成したことである。

認証評価は 11 の基準からなる。すなわち、「大学の目的」、「教育研究組織(実施体制)」、「教員及び教育支援者」、「学生の受入」、「教育内容及び方法」、「教育の成果」、「学生支援等」、「施設と設備」、「教育の質的向上及び改善のためのシステム」、「財務」、及び「管理運営」、である。

「教育年報 2006」では、これらの基準の中から、主として「学生の受入」、「教育内容及び方法」、「教育の成果」、「学生支援等」、「教育の質的向上及び改善のためのシステム」に対応させつつ、本学独自の構成として、「インプット(入学) - アウトプット(成果)、そしてアウトプットをもたらす教員の教育活動と学生支援」などの課題を基軸においている。したがって、年報の内容を、目次が指示する各座標軸にそって、適切な資料を根拠に報告書として組み立てていくことが、編集上の大きな課題であった。

しかし、本年度は、このコンセンサスが教員間に浸透せず、よく馴染んでなかったこと、単にアンケート結果を持ち寄るケース、なども混在し、結果的に濃淡のある報告になった可能性は否めない。また、全方位的に取組んだパーツの集大成に際しては、冗長になり兼ねないものを果敢に切り捨て、その一方、欠落と思われるデータを貪欲に収集の後、集中的に編集し、纏めあげた。昨年度までと大幅に異なる目次へと変更したにもかかわらず、2006 年版を編集できたことは、本学にとって、大きな財産になり得ると言えよう。

おわりに、次年度の「教育年報 2007」をより一層充実した内容とするためには、今春からスタートする「中期目標・中期計画」、「年度計画」に明記する予定の事項を踏まえ、全教員が、教育の成果を深く認識しつつ、教育活動や関連業務に邁進することが望まれる。

(岡山県立大学・岡山県立大学短期大学部評価委員会・教育年報編集担当 中嶋和夫)

A1. アドミッションポリシー

保健福祉学部

保健福祉学部は看護，栄養，保健福祉学科の3学科で構成されており，地域社会の人々の健康と福祉の増進に積極的に貢献できる，豊かな人間性あふれる人材の育成をめざしています．このため，教育目標を，保健・医療・福祉に関する基本的知識と技術を修得し，あわせて健康課題に対して科学的な思考や分析に基づいた問題探究能力と問題解決能力を養い，将来にわたって応用知識・技術を積み上げていける力を磨くこと，さらに社会の変化，国際化に柔軟に対応できる能力を培い，豊かな感性，高い倫理観，そして人とのコミュニケーション能力を育成し，人を支援する心をもった人間形成をめざすことに置いています．したがって，本学部では求める学生像を次のとおり定めています．

看護・栄養・福祉のそれぞれの分野に明確な目的意識と意欲，情熱を持っている学生
高い基礎学力を備え，論理的思考能力がある学生
人間理解と人間中心の保健・医療・福祉を学ぶ中でその成果を広く地域や世界に発信する意欲と創意にあふれる学生
豊かな感性や人とのコミュニケーション能力，人を支援する心を身につけたい学生

[看護学科]

看護学科は，看護の発展に寄与できる人材の育成をめざしています．このため，教育目標を，豊かな教養を基礎にしたヒューマンケアリングの実践ができるよう，人を深く理解し，よい人間関係を築き，看護を科学的に探求し，専門職業人として知識，技術，態度，価値観を学び，生涯にわたり学習し続けていくことのできる基盤を学ぶことに置いています．

したがって，本学科では求める学生像を次のとおり定めています．
人間に興味や関心があり，人と関わるのが好きな学生
基礎学力があり，思考力，判断力，分析力，表現力のある学生
バイタリティがあり，チャレンジ精神旺盛で思いやりのある学生
感受性豊かで，何事にも前向きに取り組める積極性のある学生
看護への意志と情熱に富み，創造性，探求心があり，地域貢献したい学生
志を高く持ち，自らの責任において進路を決定し，看護を生涯の仕事にしたい学生

[栄養学科]

「医食同源」といわれるように，ヒトの健康と食は密接に関連しています．栄養学科は，ヒトの体のしくみを理解した上で，食品の科学，調理法から衛生管理，栄養教育までの広い知識・技術を身につけ，健康づくり・疾病の予防，治療などに応用することのできる人材の育成をめざしています．このため，教育目標を，「食物を摂取するヒト」を中心に据えたカリキュラムを編成し，栄養科学の基礎から応用まで高度な学力を身につけること，栄養と食の現場における問題発見，提議，解決能力を備えた管理栄養士を育てることに置いています．

したがって，本学科では求める学生像を次のとおり定めています．

「栄養を科学する」という意欲にあふれ、論理的思考に秀でた学生
ヒトの成長、加齢、疾病などさまざまな場面での栄養学を学びたい学生
食品の調理・加工、及び食品の持つ機能性などの研究開発に挑戦したい学生
健康の維持増進・疾病予防のための食育及び栄養指導に取組みたい学生

私たちは、豊かなコミュニケーション能力とチャレンジ精神旺盛な若さと情熱にあふれた学生の入学を期待しています。

[保健福祉学科]

保健福祉学科は、21世紀の超少子高齢・人口減少社会における福祉課題の解決に取り組む対人援助の専門職養成をめざしています。特に、子育て支援、介護支援、障害者支援といった具体的な3つの領域における専門的知識と相談・援助方法の修得を重視しています。そのため、教育目標として、人間の健康や福祉に関心と情熱を持ち、豊かな感性と科学的な思考力並びに分析力を備え、専門的な援助技術を背景に地域社会に貢献する人材の涵養を掲げ、教育内容は、法律や制度政策、相談援助の理論と方法、介護並びに保育の理論と方法、障害や行動の理解から構成しています。

したがって、本学科では求める学生像を次のとおり定めています。

豊かな人間性を育み、援助を求める人々に対し、共感、共生しようとする学生
豊かな感性と科学的な思考力や分析力を養い、問題解決能力を高めようとする学生
援助対象者の成長や自立支援を促す専門的援助技術の修得に努める学生
21世紀の福祉社会や地域社会に貢献する意欲のある学生

情報工学部

情報工学とは、情報の伝送・認識・処理・利用にかかわるハードウェアとソフトウェアの技術を研究開発するための学問です。情報工学部は、情報技術を活用して、社会を中心に据えた社会の形成に貢献できる技術者の育成をめざしています。本学部には、情報通信工学科、情報システム工学科及びスポーツシステム工学科があります。それらの学科が行う教育では、(1) 情報工学とそれに密接に関連する工学と技術を学ぶこと、(2) 人間の身体運動や動作・行動を科学的に解明すること、(3) 両分野の知識を融合的に活用して社会の発展に貢献すること、(4) 技術者に求められる高い倫理観、多面的な思考力、それらに培われた実行力や行動力を身につけること、に置いています。

したがって、本学部では求める学生像を次のとおり定めています。

情報工学の新しい発展分野に興味を抱いている多感な学生
人間及びそれを取りまく環境とよく適合する情報社会の形成に貢献する意欲を持つ学生
新技術の創出に関心を持ち、地域と世界に向けて情報発信したい学生

インターネット技術を中心にして急速に発展している高度情報化社会を支え、さらに発展させていくために、若さと夢を持った学生の挑戦を期待しています。

[情報通信工学科]

情報通信工学科は、高度情報化社会の中核技術である情報通信技術を支えている情報工学、通信工学、電子工学の三つの学問領域を共通の基盤として、各種情報システムの知能化等に必要となるソフトウェア技術及びシステムの超高速化等に欠かせないハードウェア技術を有する人材の育成を目指しています。このため、教育目標を、(1) グローバルな視点から他面的に物事を捉える能力、(2) 技術者倫理に基づいた社会環境及び自然環境に対する深い理解、(3) 情報工学・通信工学・電子工学の幅広い知識、(4) 現実の様々な問題に柔軟に対処する能力、(5) 論理的な記述力、発表能力、及びコミュニケーション能力、(6) 生産を通じて自主的、継続的に学習する能力、の育成に置いています。

したがって、本学科では求める学生像を次のとおり定めています。

理数的、論理的思考が好きな学生

高度情報化社会の発展に貢献したい学生

高度情報化社会の新しいテーマに挑戦したい学生

将来創造的な研究開発に取組みたい学生

[情報システム工学科]

情報システム工学科は、コンピュータ技術の開発に貢献する情報工学、力学に基礎を置くものづくりのための機械工学、機械やコンピュータをインテリジェント化する知識工学などの学問を領域横断型に身につけ、総合的なエンジニアリングのセンスをもって、新たな工学的価値の創出に積極的に参加できる人材の育成をめざしています。このため、教育目標を、(1) 物事に柔軟かつ総合的な視点から対応できること、(2) 技術者倫理を尊重し、それに従う行動ができること、(3) 論理的思考に基づくコミュニケーションができること、(4) 技術者に必須な理工学の基礎知識とその応用力を持つこと、(5) インテリジェント型機器や実システムの設計ができること、(6) 創造性を発揮して課題を計画的に遂行できること、に置いています。

したがって、本学科では求める学生像を次のとおり定めています。

IT時代に対応できる理系の素養をそなえ、それを自ら発展させる熱意のある学生

インテリジェント型機器や実システムの設計能力を獲得し、それをもとに社会貢献したい学生

領域横断型の新技術を創出し、地域と世界へ向けて情報発信したい学生

[スポーツシステム工学科]

スポーツシステム工学科は、身体運動や人間の動作・行動を科学的に解明するスポーツ科学及び行動科学並びに情報系の工学を幅広く学び、人間を中心に据えたものづくりやシステム設計の能力を身につけた人材及びスポーツや人間の健康福祉に理論・技術を活用できる人材の育成をめざしています。このため、教育目標を、(1) 身体運動や動作・行動の解析能力、(2) 情報工学の応用とソフトウェア設計の能力、(3) 身体運動の特性をシステム設計に生かせる力、(4) 環境変動に柔軟に適応できる判断力及びコミュニケーション能力、(5) 専門分野における問題解決と社会貢献の能力、の育成に置いています。

したがって、本学科では求める学生像を次のとおり定めています。

スポーツに代表される，ダイナミックで巧みな身体運動や動作・行動を理系の視点から
解明したい学生
スポーツ指導や健康福祉の増進に科学的知識及び技術を生かしたい学生
新産業の創出に参加し，地域社会の発展に貢献したい学生

デザイン学部

デザイン学部は，人間・社会・自然の関係性を重視する立場から，造形を通じてこれらの関係構築や改善に挑むことのできる，高い志と美的創造力にあふれた，社会にとって有為な人材の育成をめざしています．このため，教育目標を，十分な情報収集・分析・構築力のうえに，言語的かつ造形的発想・構想力，課題発見・解決力，提案力を個々の学生が身につけることに置いています．

したがって，本学部では求める学生像を次のとおり定めています．

諸科学に関して幅広く知的好奇心を持ち，かつそれらを「つないで」考え，地域や一般社会における課題の開発と解決に取り組みたい学生

自らに課した課題を造形あるいは造形システムの構築を通じて解決できる発想力・美的造形力・技術力を身につけたい学生

言語と造形両面から，解決策を地域や一般社会に向け説得力をもって発信できる，提案力を身につけたい学生

[デザイン工学科]

デザイン工学科では，これからの社会や産業界のニーズに適切に応え，デザインが備えている身体性，芸術性と，工学とが融合した視点で人間性豊かなモノ，スペース，システム等の提案に参加して，より新しい生活価値を創造するデザインクリエイターの育成をめざしています．このため，教育目標を「人間性豊かな創造的感性と主体的で柔軟な思考力を身につけ自立した価値判断を涵養する」ことに置いています．

したがって，本学科では求める学生像を次のとおり定めています．

豊かな創造力と主体的な思考力を鍛え，自立した価値観にもとづき創作したモノやスペース，システムのデザインを行うことにより，社会と産業に貢献したいと考える学生
人間を見つめ世界の文化・芸術・歴史を深く理解して育んだ感性と，人間と自然との調和をはかる科学技術とを融合したデザインの筋道を生み出し発信することによって，人々の幸福に貢献したいと考える学生

社会の要請を洞察して課題を発見し，その解決策を提案することにより共生と自立にもとづく新たな生活価値を創造したいと考える学生

2年次から，いずれかのコースに所属して専門教育を行います．そのために，プロダクトデザインコースでは理科及び数学，建築デザインコースでは力学の基礎と数学を学習していることが望まれます．

[造形デザイン学科]

造形デザイン学科は、情報化、高齢化、国際化など刻々と変化を続ける社会にあって時代に適切に対応した視点を持ち、オリジナリティー溢れる創造力で自らデザインし提案できる造形デザイナーの育成をめざしています。このため、教育目標を「幅広い教養に裏打ちされた人間性、美をみきわめる感性、創造的な思考力を身につけ、意欲的に造形表現に取り組む姿勢を涵養する」ことに置いています。

したがって、本学科では求める学生像を次のとおり定めています。

豊かな人間性、美をみきわめる感性、創造的な思考力のもとに造形表現と取り組む意欲を持ち、自らのデザインを積極的に社会に役立てて行こうとする学生

造形デザインの実現に欠かせないメディア、素材などをめぐる機能、技術を諸科学の理解のもとに把握し習熟して、21世紀の新しい表現者、デザイン技術者を目指そうとする学生

造形デザインをめぐる課題解決にあたって方法や提案の妥当性を検討し、かつそれらを社会に向かって説得力をもって伝えることのできる、言語及びコミュニケーション能力を身につけたい学生

2年次からはグラフィックデザインコース、ITコンテンツデザインコース、セラミックデザインコース、テキスタイルデザインコースのいずれかに所属して、それぞれの専門教育を行います。

A2. カリキュラム（平成 18 年度入学生用）

全学教育

平成 18 年度開設授業科目（その 1）

| カテゴリー | 授業科目の名称 | 授業形態 | 担当教員 | 開講学期 | | 開講 時間数 | 単位数 | 備考 | |
|------------------|--------------|----------|----------------------|---------------------------|-----|-----------|-----|----------------------|------------------|
| | | | | 前 | 後 | | | | |
| 大学でどう 学ぶか | フレッシュマンセミナー | 講義 | 横手 池田 香川 野津 | * | | 15 | 1 | 保健福祉学部、スポーツシステム工学科のみ | |
| | フレッシュマンセミナー | (注1) | 稲井 早瀬 | * | | 30 60 | 2 | 情報通信工学科、情報システム工学科のみ | |
| | フレッシュマンセミナー | 講義 | 太田 | | * | 30 | 2 | デザイン学部のみ | |
| | フレッシュマンセミナー | 講義 | 鈴木 | * | | 30 | 2 | デザイン学部のみ | |
| | フレッシュマン特別講義 | 講義 | 高井 | * | | 15 | 1 | | |
| コミュニケーション | 日本語表現法 | 講義 | 柴田 | * | | 30 | 2 | | |
| | 英語 | 英会話 | 演習 | フルネ 松尾 スタフォード リン | * | | 30 | 1 | |
| | | 英会話 | 演習 | フルネ 松尾 スタフォード リン | | * | 30 | 1 | |
| | | 英会話 | 演習 | フルネ リン スタフォード | * | | 30 | 1 | |
| | | 英会話 | 演習 | フルネ リン スタフォード | | * | 30 | 1 | |
| | | 基礎英語 | 演習 | 沼本 長谷川 桂 上仲 | * | (*) | 30 | 1 | 後期は単位未修得者のみ履修できる |
| | | 基礎英語 | 演習 | 沼本 長谷川 桂 上仲 | (*) | * | 30 | 1 | 前期は単位未修得者のみ履修できる |
| | 中級英語 | 演習 | 桂 | * | | 30 | 1 | | |
| | 中級英語 | 演習 | 桂 | | * | 30 | 1 | | |
| | 上級英語 | 演習 | | * | | 30 | 1 | 19年度から開講 | |
| | 上級英語 | 演習 | | | * | 30 | 1 | 19年度から開講 | |
| | 英語以外の 外国語 | 基礎ドイツ語 | 演習 | 子野日 | * | | 30 | 1 | |
| | | 基礎ドイツ語 | 演習 | 子野日 | | * | 30 | 1 | |
| | | 基礎フランス語 | 演習 | 瀧本 | * | | 30 | 1 | |
| | | 基礎フランス語 | 演習 | 瀧本 | | * | 30 | 1 | |
| | | 基礎中国語 | 演習 | 華 劉 | * | | 30 | 1 | |
| | | 基礎中国語 | 演習 | 華 劉 | | * | 30 | 1 | |
| | | 基礎韓国語 | 演習 | 柳 | * | | 30 | 1 | |
| | | 基礎韓国語 | 演習 | 柳 | | * | 30 | 1 | |
| 情報 処理 | | 情報処理 | 講義 | 益岡 | * | | 30 | 2 | |
| | | コンピュータ演習 | 演習 | 松澤 高原 | * | | 30 | 1 | |
| 人間と 文化の 理解 | 現代の思想 | 講義 | 子野日 | | * | 30 | 2 | | |
| | 倫理学の基礎 | 講義 | 稲村 | | * | 30 | 2 | | |
| | 人間学入門 | 講義 | 瀧本 | | * | 30 | 2 | | |
| | 人間関係を考える | 講義 | 西山 | | * | 30 | 2 | | |
| | 心理学入門 | 講義 | 樂木 迫 | | * | 30 | 2 | | |
| | 歴史の見方 | 講義 | 吉田 | | * | 30 | 2 | | |
| | 日本文学 | 講義 | 柴田 | * | | 30 | 2 | | |
| | ヨーロッパ文学 | 講義 | 長谷川 | | * | 30 | 2 | | |
| | 美術の鑑賞 | 講義 | 関崎 | * | | 30 | 2 | | |
| | 音楽の鑑賞 | 講義 | 岡崎 | | * | 30 | 2 | | |
| | 美術の歴史 | 講義 | 瀧本 | | * | 30 | 2 | | |
| | 映像の時代 | 講義 | 嘉数 | * | | 30 | 2 | | |
| | オリエンタ文化 | 講義 | 四角 | * | | 30 | 2 | | |
| | 比較文化 | 講義 | 桂 | * | | 30 | 2 | | |
| | 教育学入門 | 講義 | 岡本 | * | | 30 | 2 | | |
| | 生涯学習にとりくむ | 講義 | 岸 | * | | 30 | 2 | | |
| | 景観原論 | 講義 | 児玉 | * | | 30 | 2 | | |

(注1) 情報通信工学科は「講義」、情報システム工学科は「演習」

平成18年度開設授業科目(その2)

| カテゴリー | 授業科目の名称 | 授業形態 | 担当教員 | 開講学期 | | 開講時間数 | 単位数 | 備考 |
|----------|----------|----------------|---------------------------|---------------------------|----|-------|-----|------------------------------|
| | | | | 前 | 後 | | | |
| 現代社会に生きる | A | 日本国憲法 | 講義 | 伊藤(治) | * | 30 | 2 | |
| | | 現代社会と法律 | 講義 | 近藤(弦) | * | 30 | 2 | |
| | | 現代社会と経済 | 講義 | 建部 | * | 30 | 2 | |
| | | 地方自治のしくみ | 講義 | 山田 | * | 30 | 2 | |
| | | 産業と社会 | 講義 | 小林 | * | 30 | 2 | |
| | | 高齢社会 | 講義 | 井村 | * | 30 | 2 | |
| | | マスメディア | 講義 | 安田 | * | 30 | 2 | |
| | B | 子どもと家族 | 講義 | 福 | * | 30 | 2 | |
| | | ジェンダー | 講義 | 近藤(理) | * | 15 | 1 | |
| | | 国際関係 | 講義 | 吉田 | * | 30 | 2 | |
| | | 経営管理 | 講義 | 戸前 | * | 30 | 2 | |
| | | 企業の組織と活動 | 講義 | 川畑 | * | 15 | 1 | |
| | | 知的財産権 | 講義 | 平野 | * | 30 | 2 | |
| 科学技術と環境 | A | マーケティング | 講義 | 志水 | * | 30 | 2 | |
| | | 起業の条件 | 講義 | 高橋(浩) (南部, 鈴木) | * | 15 | 1 | |
| | | 情報技術の進展 | 講義 | 福嶋 他 | * | 30 | 2 | |
| | | ヒューマンコミュニケーション | 講義 | 渡辺 | * | 30 | 2 | 隔年開講(18年度開講) |
| | | 地球の科学 | 講義 | 加藤(内) | * | 30 | 2 | |
| | | 生物と環境 | 講義 | 伊藤(國) | * | 30 | 2 | |
| | | 環境の科学 | 講義 | 木本 | * | 30 | 2 | |
| | | エネルギーと環境 | 講義 | 野津 | * | 30 | 2 | |
| | | 食糧を考える | 講義 | 中島 | * | 15 | 1 | |
| | | みずかなバイオテクノロジー | 講義 | 赤木 (森, 池田) | * | 30 | 2 | |
| | 脳と身体の科学 | 講義 | ・原 | * | 30 | 2 | | |
| | 健康の維持・増進 | 健康の管理 | 講義 | 高井 | * | 30 | 2 | 栄養学科学学生は学部教育科目「健康管理論」を履修すること |
| | | 食と健康 | 講義 | 山下 | * | 15 | 1 | 栄養学科学学生は学部教育科目「食生活論」を履修すること |
| 健康と心理 | | 講義 | 迫 (谷口) | * | 30 | 2 | | |
| スポーツの科学 | | 講義 | 後藤 (辻(博)) | * | 15 | 1 | | |
| スポーツ | | 講義・実技 | 後藤 (平田, 越川, 清水, 笠原) | * | 30 | 1 | | |
| 学部教育への準備 | A | スポーツ | 講義・実技 | 後藤 (平田, 越川, 清水, 笠原) | * | 30 | 1 | |
| | | 数学の世界 | 講義 | 小松 | * | 30 | 2 | |
| | | 統計の世界 | 講義 | 高橋(泰) | * | 30 | 2 | |
| | | 線形代数学 | 講義 | 納所 | * | 30 | 2 | |
| | | 線形代数学 | 講義 | 高橋(浩) | * | 30 | 2 | |
| | | 解析学 | 講義 | 小松 高橋(泰) 難波 | * | 30 | 2 | |
| | | 解析学 | 講義 | 小松 高橋(泰) 難波 | * | 30 | 2 | |
| | | 解析学演習 | 演習 | 小松 高橋(泰) 難波 | * | 30 | 1 | |
| | | 物理学 | 講義 | 坂本 | * | 30 | 2 | |
| | | 物理学 | 講義 | 福嶋 | * | 30 | 2 | |
| | B | 化学 | 講義 | 辻(英) | * | 30 | 2 | |
| | | 化学 | 講義 | 辻(英) | * | 30 | 2 | |
| | | 生物学 | 講義 | 池田 | * | 30 | 2 | |
| | | 生物学 | 講義 | 池田 | * | 30 | 2 | |
| | | 医学概論 | 講義 | 高井 | * | 30 | 2 | 栄養学科学学生は学部教育科目「医学概論」を履修すること |
| | | 看護学概論 | 講義 | 村上 | * | 30 | 2 | 栄養学科学学生は学部教育科目「看護学概論」を履修すること |
| | | 生命倫理 | 講義 | 掛橋 | * | 15 | 1 | |
| | | 言語文化とデザイン | 講義 | 長谷川 | * | 30 | 2 | |
| C | 色彩学 | 講義 | 荒生 | * | 30 | 2 | | |
| | 造形文化論 | 講義 | 子野日 | * | 30 | 2 | | |
| | 造形文化論 | 講義 | 瀧本 | * | 30 | 2 | | |

「」は非常勤講師

看護学科（平成 18 年度入学生）

| カテゴリー | 授業科目の名称 | 授業形態 | 担当教員 | 開講年次及び必修選択の別 | | | | 開講時間数 | 開講単位数 | 卒業要件単位数 |
|------------------------|---------------|--------|-------|--------------|---|---|----|-------|-------|------------------------|
| | | | | 1 | 2 | 3 | 4 | | | |
| 専門 支 持 科 目 | 生化学 | 講義 | 赤木 | | | | | 30 | 2 | 97 単 位 以 上 |
| | 栄養学総論 | 講義 | 山下 | | | | | 30 | 2 | |
| | 微生物学 | 演習 | 山本 | | | | | 30 | 1 | |
| | 公衆衛生学 | 講義 | 吉田 | | | | | 30 | 2 | |
| | 社会福祉概論 | 講義 | 中嶋 | | | | | 30 | 2 | |
| | 薬理学 | 講義 | 赤木 | | | | | 30 | 2 | |
| | 生殖の科学 | 講義 | 林 | | | | | 15 | 1 | |
| | 解剖生理学 | 演習 | 森 | | | | | 45 | 2 | |
| | 解剖生理学 | 講義 | 高井 | | | | | 30 | 2 | |
| | 病理学 | 講義 | 森 | | | | | 30 | 2 | |
| | 臨床病態学 | 講義 | 森 | | | | | 30 | 2 | |
| | 臨床病態学 | 講義 | 高井 | | | | | 30 | 2 | |
| | 臨床病態学 | 演習 | 松岡 | | | | | 30 | 1 | |
| | 看護関係法規 | 講義 | 二宮 | | | | | 15 | 1 | |
| | 公衆衛生学 | 講義 | 延原 | | | | | 30 | 2 | |
| | 保健統計 | 演習 | 矢嶋 | | | | | 30 | 1 | |
| | 保健福祉行財政論 | 講義 | 村上 | | | | | 15 | 1 | |
| | 保健福祉システム概論 | 講義 | 未定 | | | | | 30 | 2 | |
| | 保健医療行政論 | 講義 | 二宮 | | | | | 15 | 1 | |
| | 保健福祉学 | 講義 | 田内 | | | | | 30 | 2 | |
| | 人間生態学 | 講義 | 小林 | | | | | 30 | 2 | |
| | カウンセリング論 | 講義 | 太湯 | | | | | 15 | 1 | |
| | 運動生理学 | 講義 | 平田 | | | | | 30 | 2 | |
| | リハビリテーション概論 | 講義 | 香川 | | | | | 30 | 2 | |
| | 障害者リハビリテーション論 | 講義 | 筒井 | | | | | 30 | 2 | |
| | 救急医学 | 講義 | 未定 | | | | | 15 | 1 | |
| | 母性心理学 | 講義 | 吉永 | | | | | 15 | 1 | |
| | 人間発達学 | 講義 | 高橋 | | | | | 30 | 2 | |
| | 健康教育論 | 講義 | 二宮・横手 | | | | | 30 | 2 | |
| | 栄養指導論 | 講義 | 川上 | | | | | 30 | 2 | |
| 対人関係論実習 | 実習(学内) | 太湯 | | | | | 45 | 1 | | |
| 基礎看護学 | 看護学基礎論 | 講義 | 村上 | | | | | 30 | 2 | |
| | 看護学方法論 | 演習 | 荻 | | | | | 30 | 1 | |
| | 看護学方法論 | 実習(学内) | 荻 | | | | | 45 | 1 | |
| | 看護学方法論 | 演習 | 肥後 | | | | | 45 | 2 | |
| | 看護学方法論 | 演習 | 荻 | | | | | 30 | 1 | |
| | 看護学方法論 | 演習 | 肥後 | | | | | 30 | 1 | |
| | 看護学方法論 | 実習(学内) | 肥後 | | | | | 45 | 1 | |
| 看護学成人 | 成人看護学 | 講義 | 掛橋・横手 | | | | | 30 | 2 | |
| | 成人看護学 | 演習 | 掛橋 | | | | | 45 | 2 | |
| | 成人看護学 | 演習 | 横手 | | | | | 45 | 2 | |
| 看護学精神 | 精神看護学 | 講義 | 吉川 | | | | | 30 | 2 | |
| | 精神看護学 | 演習 | 吉川 | | | | | 45 | 2 | |
| 看護学老年 | 老年看護学 | 講義 | 太湯 | | | | | 30 | 2 | |
| | 老年看護学 | 演習 | 太湯 | | | | | 45 | 2 | |
| 看護学小児 | 小児看護学 | 講義 | 高橋 | | | | | 30 | 2 | |
| | 小児看護学 | 演習 | 高橋 | | | | | 45 | 2 | |
| 看護学母性 | 母性看護学 | 講義 | 岡崎 | | | | | 30 | 2 | |
| | 母性看護学 | 演習 | 岡崎 | | | | | 45 | 2 | |
| 学助産 | 助産論 | 講義 | 吉野内 | | | | | 30 | 2 | |
| | 助産論 | 講義 | 吉永 | | | | | 45 | 3 | |

| カテゴリー | 授業科目の名称 | 授業形態 | 担当教員 | 開講年次及び必修選択の別 | | | | 開講時間数 | 開講単位数 | 卒業要件単位数 |
|----------------------------------|---------|------|------|--------------|---|---|-----|-------|-------|------------------------|
| | | | | 1 | 2 | 3 | 4 | | | |
| 地域看護学 | 地域看護学 | 講義 | 二宮 | | | | | 15 | 1 | 97 単 位 以 上 |
| | 地域看護学 | 講義 | 二宮 | | | | | 30 | 2 | |
| | 地域看護学 | 演習 | 二宮 | | | | | 30 | 1 | |
| | 地域看護学 | 講義 | 未定 | | | | | 30 | 2 | |
| | 在宅看護論 | 講義 | 未定 | | | | | 30 | 2 | |
| | 家族看護学 | 講義 | 岡崎 | | | | | 15 | 1 | |
| | | 看護管理 | 講義 | 川崎 | | | | | 30 | |
| 看護教育 | | 講義 | 村上 | | | | | 30 | 2 | |
| 看護研究 | | 講義 | 全教員 | | | | | 30 | 2 | |
| 卒業研究 | | 演習 | 全教員 | | | | | 120 | 4 | |
| 臨地実習 | 基礎看護学実習 | 実習 | 荻 | | | | | 45 | 1 | |
| | 基礎看護学実習 | 実習 | 肥後 | | | | | 90 | 2 | |
| | 基礎看護学実習 | 実習 | 村上 | | | | | 90 | 2 | |
| | 成人看護学実習 | 実習 | 掛橋 | | | | | 135 | 3 | |
| | 成人看護学実習 | 実習 | 横手 | | | | | 135 | 3 | |
| | 精神看護学実習 | 実習 | 吉川 | | | | | 90 | 2 | |
| | 老年看護学実習 | 実習 | 未定 | | | | | 45 | 1 | |
| | 老年看護学実習 | 実習 | 太湯 | | | | | 90 | 2 | |
| | 母性看護学実習 | 実習 | 岡崎 | | | | | 90 | 2 | |
| | 小児看護学実習 | 実習 | 高橋 | | | | | 135 | 3 | |
| | 地域看護学実習 | 実習 | 二宮 | | | | | 135 | 3 | |
| 助産診断・技術学実習 | 実習 | 吉永 | | | | | 225 | 5 | | |
| 「 」は必修科目、「 」は選択科目、「 」は非常勤講師 | | | | | | | | | | |
| 学部教育科目の卒業要件単位数 97 | | | | | | | | | | |
| 卒業要件単位数 125 (全学教育科目の卒業要件28単位を含む) | | | | | | | | | | |

栄養学科（平成18年度入学生）

| カテゴリー | 授業科目の名称 | 授業形態 | 担当教員 | 開講年次及び必修選択の別 | | | | 開講時間数 | 開講単位数 | 卒業要件単位数 |
|------------------|--------------|------|-------|--------------|---|---|----|-------|-------|---------|
| | | | | 1 | 2 | 3 | 4 | | | |
| 社会・健康と環境 | 医学概論* | 講義 | 高井 | | | | | 30 | 2 | 101単位 |
| | 公衆衛生学* | 講義 | 延原 | | | | | 30 | 2 | |
| | 健康管理論* | 講義 | 高井 | | | | | 30 | 2 | |
| | 社会福祉概論* | 講義 | 中嶋 | | | | | 30 | 2 | |
| | 保健福祉システム概論* | 講義 | 武田 | | | | | 30 | 2 | |
| | 看護学概論* | 講義 | 村上(生) | | | | | 30 | 2 | |
| | 食生活論* | 講義 | 山下 | | | | | 15 | 1 | |
| | 健康情報演習 | 演習 | 寺本 | | | | | 30 | 1 | |
| 人体の構造と機能・疾病の成り立ち | 解剖生理学 | 講義 | 高井 | | | | | 30 | 2 | |
| | 栄養学のための解剖生理学 | 講義 | 岡田 | | | | | 30 | 2 | |
| | 病理学* | 講義 | 森 | | | | | 30 | 2 | |
| | 内科学 | 講義 | 岡田 | | | | | 30 | 2 | |
| | 外科学 | 講義 | 梶谷 | | | | | 15 | 1 | |
| | 微生物学 | 講義 | 山本 | | | | | 30 | 2 | |
| | 生化学* | 講義 | 赤木 | | | | | 30 | 2 | |
| | 代謝生化学 | 講義 | 池田 | | | | | 30 | 2 | |
| | 分子生物学 | 講義 | 赤木 | | | | | 30 | 2 | |
| | 解剖生理学実験Ⅰ | 実験 | 高橋(吉) | | | | | 45 | 1 | |
| | 解剖生理学実験Ⅱ | 実験 | 岡田 | | | | | 45 | 1 | |
| | 微生物学実験 | 実験 | 山本 | | | | | 45 | 1 | |
| 生化学実験Ⅰ | 実験 | 池田 | | | | | 45 | 1 | | |
| 生化学実験Ⅱ | 実験 | 赤木 | | | | | 45 | 1 | | |
| 食べ物と健康 | 食品学Ⅰ | 講義 | 辻(英) | | | | | 30 | 2 | |
| | 食品学Ⅱ | 講義 | 辻(英) | | | | | 30 | 2 | |
| | 食品材料学 | 講義 | 山下 | | | | | 30 | 2 | |
| | 食品加工学 | 講義 | 中嶋 | | | | | 30 | 2 | |
| | 食品分析学 | 講義 | 中嶋 | | | | | 15 | 1 | |
| | 食品衛生学 | 講義 | 山本 | | | | | 15 | 1 | |
| | 調理学 | 講義 | 淵上 | | | | | 30 | 2 | |
| | 食品学実験Ⅰ | 実験 | 山下 | | | | | 45 | 1 | |
| | 食品学実験Ⅱ | 実験 | 辻(英) | | | | | 45 | 1 | |
| | 食品衛生学実験 | 実験 | 山本 | | | | | 45 | 1 | |
| | 調理学実験 | 実験 | 淵上 | | | | | 45 | 1 | |
| | 調理学実習Ⅰ | 実習 | 淵上 | | | | | 45 | 1 | |
| 調理学実習Ⅱ | 実習 | 淵上 | | | | | 45 | 1 | | |
| 基礎栄養学 | 栄養学総論 | 講義 | 木本 | | | | | 30 | 2 | |
| | 栄養学基礎実験 | 実験 | 中嶋 | | | | | 45 | 1 | |
| | 栄養学実験 | 実験 | 木本 | | | | | 45 | 1 | |
| 応用栄養学 | 栄養学各論Ⅰ* | 講義 | 木本 | | | | | 30 | 2 | |
| | 栄養学各論Ⅱ | 講義 | 木本 | | | | | 30 | 2 | |
| | 応用栄養生理学 | 講義 | 高橋(吉) | | | | | 30 | 2 | |
| | 運動指導論 | 講義 | 辻(博) | | | | | 15 | 1 | |
| | 運動指導実習 | 実習 | 辻(博) | | | | | 45 | 1 | |
| | 栄養学実習 | 実習 | 木本 | | | | | 45 | 1 | |
| 栄養教育論 | 栄養教育論Ⅰ* | 講義 | 川上 | | | | | 30 | 2 | |
| | 栄養教育論Ⅱ | 講義 | 川上 | | | | | 30 | 2 | |
| | 栄養教育プログラム論 | 講義 | 川上 | | | | | 15 | 1 | |
| | カウンセリング演習* | 演習 | 樂木 | | | | | 30 | 1 | |
| | 栄養教育実習Ⅰ | 実習 | 川上 | | | | | 45 | 1 | |
| 臨床栄養学 | 病態栄養学 | 講義 | 高橋(吉) | | | | | 30 | 2 | |
| | 臨床栄養学Ⅰ | 講義 | 沖田 | | | | | 30 | 2 | |
| | 臨床栄養学Ⅱ | 講義 | 岡田 | | | | | 30 | 2 | |
| | 栄養アセスメント | 講義 | 沖田 | | | | | 30 | 2 | |
| | 臨床栄養学実験 | 実験 | 高橋(吉) | | | | | 45 | 1 | |
| 臨床栄養学実習Ⅰ | 実習 | 沖田 | | | | | 45 | 1 | | |

| カテゴリー | 授業科目の名称 | 授業形態 | 担当教員 | 開講年次及び 必修選択の別 | | | | 開講 時間数 | 開講 単位数 | 卒業要件 単位数 |
|--------------------------------------|----------|------|--------|------------------|---|---|---|-----------|-----------|-------------|
| | | | | 1 | 2 | 3 | 4 | | | |
| 養学 公衆栄 | 公衆栄養学Ⅰ | 講義 | 永井 | | | | | 30 | 2 | |
| | 公衆栄養学Ⅱ | 講義 | 永井 | | | | | 30 | 2 | |
| | 公衆栄養学実習Ⅰ | 実習 | 永井 | | | | | 45 | 1 | |
| 給食 管理 経営 | 給食経営管理論Ⅰ | 講義 | 寺本 | | | | | 30 | 2 | |
| | 給食経営管理論Ⅱ | 講義 | 寺本 | | | | | 15 | 1 | |
| | フードシステム学 | 講義 | 小松 | | | | | 30 | 2 | |
| | 給食管理実習Ⅰ | 実習 | 寺本 | | | | | 45 | 1 | |
| 総合 演習 | 総合演習Ⅰ | 演習 | 沖田 | | | | | 30 | 1 | |
| | 総合演習Ⅱ | 演習 | 沖田 | | | | | 30 | 1 | |
| | 総合演習Ⅲ | 演習 | 栄養学科教員 | | | | | 30 | 1 | |
| 臨地 実習 | 臨床栄養学実習Ⅱ | 実習 | 沖田 | | | | | 90 | 2 | |
| | 栄養教育実習Ⅱ | 実習 | 川上 | | | | | 45 | 1 | |
| | 公衆栄養学実習Ⅱ | 実習 | 永井 | | | | | 45 | 1 | |
| | 給食管理実習Ⅱ | 実習 | 寺本 | | | | | 45 | 1 | |
| | 卒業研究 | 演習 | 栄養学科教員 | | | | | 300 | 10 | |
| 「」は必修科目、「」は選択科目、「」は非常勤講師、「*」は学科間連携科目 | | | | | | | | | | |
| 学部教育科目の卒業要件単位数 101 | | | | | | | | | | |
| 卒業要件単位数 133 (全学教育科目の卒業要件 32 単位を含む) | | | | | | | | | | |

保健福祉学科（平成 18 年度入学生）

| カテゴリー | 授業科目の名称 | 授業形態 | 担当教員 | 開講年次および必修選択の別 | | | | 開講時間数 | 開講単位数 | 卒業要件単位数 |
|----------------|---------------|-------|------|---------------|---|---|-----|-------|-------|---------|
| | | | | 1 | 2 | 3 | 4 | | | |
| 保健福祉基幹領域 | 保健福祉学Ⅰ | 講義 | 田内ほか | | | | | 30 | 2 | 92 単位 |
| | 保健福祉学Ⅱ | 講義 | 香川ほか | | | | | 30 | 2 | |
| | 解剖学 | 講義 | 田口 | | | | | 45 | 3 | |
| | 生理学 | 講義 | 高井 | | | | | 30 | 2 | |
| | 医学知識 | 講義 | 藤井 | | | | | 30 | 2 | |
| | 運動生理学 | 講義 | 平田 | | | | | 30 | 2 | |
| | 人間発達学 | 講義 | 山磨 | | | | | 30 | 2 | |
| | リハビリテーション概論 | 講義 | 香川 | | | | | 30 | 2 | |
| | 栄養学総論 | 講義 | 木本 | | | | | 30 | 2 | |
| | 介護概論 | 講義 | 濱口 | | | | | 30 | 2 | |
| | 人間生態学 | 講義 | 小林 | | | | | 30 | 2 | |
| | 生活文化論 | 講義 | 福 | | | | | 30 | 2 | |
| | 生涯スポーツ論 | 講義 | 辻 | | | | | 30 | 2 | |
| | 社会福祉概論Ⅰ | 講義 | 中嶋 | | | | | 30 | 2 | |
| | 社会福祉概論Ⅱ | 講義 | 吉本 | | | | | 30 | 2 | |
| | 社会福祉発達史 | 講義 | 村上 | | | | | 30 | 2 | |
| | 社会保障論 | 講義 | 村上 | | | | | 60 | 4 | |
| | 障害者福祉論 | 講義 | 吉本 | | | | | 60 | 4 | |
| | 児童福祉論 | 講義 | 福 | | | | | 60 | 4 | |
| | 老人福祉論 | 講義 | 筒井 | | | | | 60 | 4 | |
| 公的扶助論 | 講義 | 村上 | | | | | 30 | 2 | | |
| 家族福祉論 | 講義 | 福 | | | | | 30 | 2 | | |
| 地域福祉論 | 講義 | 井村 | | | | | 30 | 2 | | |
| 国際福祉論 | 講義 | 渡辺・近藤 | | | | | 30 | 2 | | |
| 保健福祉システム領域 | 人口論 | 講義 | 佐々井 | | | | | 30 | 2 | 10 単位 |
| | 社会福祉法制度論 | 講義 | 渡辺 | | | | | 30 | 2 | |
| | 社会福祉政策論 | 講義 | 渡辺 | | | | | 30 | 2 | |
| | 社会福祉経済論 | 講義 | 谷川 | | | | | 30 | 2 | |
| | 保健福祉行財政論 | 講義 | 井村 | | | | | 30 | 2 | |
| | 社会福祉施設経営論 | 講義 | 吉本 | | | | | 30 | 2 | |
| | 保健福祉情報論 | 講義 | 筒井 | | | | | 30 | 2 | |
| | 社会調査論 | 講義 | 近藤 | | | | | 30 | 2 | |
| | 保健福祉計画論 | 講義 | 渡辺 | | | | | 30 | 2 | |
| 保健福祉臨床領域 | 心理臨床学Ⅰ | 講義 | 樂木 | | | | | 30 | 2 | 12 単位 |
| | 心理臨床学Ⅱ | 講義 | 樂木 | | | | | 30 | 2 | |
| | 精神保健福祉論 | 講義 | 坂野 | | | | | 30 | 2 | |
| | 障害科学論 | 講義 | 中嶋 | | | | | 30 | 2 | |
| | 障害者リハビリテーション論 | 講義 | 筒井 | | | | | 30 | 2 | |
| | ケアマネージメント論 | 講義 | 香川 | | | | | 30 | 2 | |
| | 高齢者保健福祉論 | 講義 | 香川 | | | | | 30 | 2 | |
| | 医療ソーシャルワーク論 | 講義 | 坂野 | | | | | 30 | 2 | |
| | 精神医学ソーシャルワーク論 | 講義 | 坂野 | | | | | 30 | 2 | |
| | カウンセリング演習 | 演習 | 樂木 | | | | | 30 | 1 | |
| | 社会福祉援助技術論Ⅰ-A | 講義 | 村社 | | | | | 30 | 2 | |
| | 社会福祉援助技術論Ⅰ-B | 講義 | 村社 | | | | | 30 | 2 | |
| | 社会福祉援助技術論Ⅱ-A | 講義 | 近藤 | | | | | 30 | 2 | |
| | 社会福祉援助技術論Ⅱ-B | 講義 | 近藤 | | | | | 30 | 2 | |
| | 社会福祉援助技術演習Ⅰ | 演習 | 村社 | | | | | 60 | 2 | |
| 社会福祉援助技術演習Ⅱ | 演習 | 近藤 | | | | | 60 | 2 | | |
| 社会福祉援助技術現場実習 | 実習 | 吉本ほか | | | | | 180 | 4 | | |
| 社会福祉援助技術現場実習指導 | 実習 | 中嶋ほか | | | | | 90 | 2 | | |

| カテゴリー | 授業科目の名称 | 授業形態 | 担当教員 | 開講年次および 必修選択の別 | | | | 開講 時間数 | 開講 単位数 | 卒業要件 単位数 | |
|---------------------------------------|-------------|------|-------|-------------------|---|---|-----|-----------|-----------|-------------|--|
| | | | | 1 | 2 | 3 | 4 | | | | |
| 障害・ 行動領域 | 小児保健学 | 講義 | 山磨 | | | | | 30 | 2 | 10 単位 | |
| | 発達心理学 | 講義 | 樂木 | | | | | 30 | 2 | | |
| | 障害行動生理学I | 講義 | 田内 | | | | | 30 | 2 | | |
| | 障害行動生理学II | 講義 | 田内ほか | | | | | 30 | 2 | | |
| | 障害行動測定・評価演習 | 演習 | 田内ほか | | | | | 30 | 1 | | |
| | 聴覚言語障害論 | 講義 | 中村(光) | | | | | 30 | 2 | | |
| | 人間工学I | 講義 | 中村(孝) | | | | | 30 | 2 | | |
| | 人間工学II | 講義 | 中村(孝) | | | | | 30 | 2 | | |
| | 発達神経学 | 講義 | 山磨 | | | | | 30 | 2 | | |
| | 認知障害論 | 講義 | 中村(光) | | | | | 30 | 2 | | |
| | 行動科学論 | 講義 | 中村(孝) | | | | | 30 | 2 | | |
| | 福祉工学 | 講義 | 田内 | | | | | 30 | 2 | | |
| | ゼミナール | 演習 | 全教員 | | | | | 60 | 2 | | |
| 卒業研究 | 演習 | 全教員 | | | | | 180 | 6 | | | |
| 「 」は必修科目、「 」は選択科目、「 」は非常勤講師、「 」は非常勤講師 | | | | | | | | | | | |
| 学部教育科目の卒業要件単位数 9 2 | | | | | | | | | | | |
| 卒業要件単位数 1 2 6 (全学教育科目の卒業要件 3 4 単位を含む) | | | | | | | | | | | |

情報通信工学科（平成 18 年度入学生）

| カテゴリー | 授業科目の名称 | 授業形態 | 担当教員 | 開講年次および必修選択の別 | | | | 開講時間数 | 開講単位数 | 卒業要件単位数 |
|--------|--------------|------|----------|---------------|---|---|----|-------|-------|---------|
| | | | | 1 | 2 | 3 | 4 | | | |
| 専門基礎 | 確率統計 | 講義 | 納所 | | | | | 30 | 2 | 78 単位以上 |
| | 微分方程式 | 講義 | 曾布川 | | | | | 30 | 2 | |
| | ベクトル解析と幾何学 | 講義 | 曾布川 | | | | | 30 | 2 | |
| | フーリエ解析 | 講義 | 川畑 | | | | | 30 | 2 | |
| | 数値解析 | 講義 | 市川 | | | | | 30 | 2 | |
| | 複素関数論 | 講義 | 荒木 | | | | | 30 | 2 | |
| | 集合と位相 | 講義 | 小松 | | | | | 30 | 2 | |
| | 関数解析 | 講義 | 高橋(泰) | | | | | 30 | 2 | |
| | 情報処理 | 講義 | 金川 | | | | | 30 | 2 | |
| | 離散数学 | 講義 | 高橋(浩)・金川 | | | | | 30 | 2 | |
| | 情報理論 | 講義 | 稲井 | | | | | 30 | 2 | |
| | 電気回路 | 講義 | 若林 | | | | | 30 | 2 | |
| | 電気回路 | 講義 | 榊原 | | | | | 30 | 2 | |
| | 電子回路 | 講義 | 大久保 | | | | | 30 | 2 | |
| 情報処理工学 | データ構造とアルゴリズム | 講義 | 高橋(浩) | | | | | 30 | 2 | 12 単位 |
| | アルゴリズム論 | 講義 | 高橋(浩)・金川 | | | | | 30 | 2 | |
| | 数理計画学 | 講義 | 金川・高橋(浩) | | | | | 30 | 2 | |
| | 情報倫理 | 講義 | 桂 | | | | | 30 | 2 | |
| | コンパイラ | 講義 | 國島 | | | | | 30 | 2 | |
| | データ工学 | 講義 | 横田・國島 | | | | | 30 | 2 | |
| | 計算機言語 | 講義 | 國島・横田 | | | | | 30 | 2 | |
| | 計算機言語 | 講義 | 國島・横田 | | | | | 30 | 2 | |
| 情報通信工学 | 情報ネットワーク | 講義 | 若林 | | | | | 30 | 2 | 12 単位 |
| | 通信方式 | 講義 | 山北 | | | | | 30 | 2 | |
| | 通信方式 | 講義 | 未定 | | | | | 30 | 2 | |
| | 通信伝送工学 | 講義 | 山北 | | | | | 30 | 2 | |
| | トラヒック理論 | 講義 | 稲井 | | | | | 30 | 2 | |
| | デジタル信号処理 | 講義 | 榊原 | | | | | 30 | 2 | |
| | 符号理論 | 講義 | 榊原 | | | | | 30 | 2 | |
| | 画像工学 | 講義 | 山根 | | | | | 30 | 2 | |
| 情報電子工学 | 光・電磁波工学 | 講義 | 大久保 | | | | | 30 | 2 | 12 単位 |
| | 波動情報システム | 講義 | 山根 | | | | | 30 | 2 | |
| | 半導体物性 | 講義 | 大曾根 | | | | | 30 | 2 | |
| | 半導体デバイス | 講義 | 大曾根 | | | | | 30 | 2 | |
| | デジタル回路 | 講義 | 森下 | | | | | 30 | 2 | |
| | 計算機アーキテクチャA | 講義 | 森下 | | | | | 30 | 2 | |
| | 集積回路工学 | 講義 | 大曾根 | | | | | 30 | 2 | |
| | 光エレクトロニクス | 講義 | 坂本 | | | | | 30 | 2 | |
| | 制御工学 A | 講義 | 兼田 | | | | | 30 | 2 | |
| | 制御工学 A | 講義 | 忻 | | | | | 30 | 2 | |
| デジタル制御 | 講義 | 兼田 | | | | | 30 | 2 | | |
| システム同定 | 講義 | 兼田・忻 | | | | | 30 | 2 | | |
| ロボット工学 | 講義 | 忻 | | | | | 30 | 2 | | |

| カテゴリー | 授業科目の名称 | 授業形態 | 担当 | 開講年次および 必修選択の別 | | | | 開講 時間数 | 開講 単位数 | 卒業要件 単位数 | |
|--|----------|------|-----|-------------------|---|---|-----|-----------|-----------|-------------|--|
| | | | | 1 | 2 | 3 | 4 | | | | |
| 実験・演習等 | 特別講義 | 講義 | 伊藤 | | | | | 15 | 1 | | |
| | 特別講義 | 講義 | 岡部 | | | | | 15 | 1 | | |
| | 技術英語 | 演習 | 全教員 | | | | | 30 | 1 | | |
| | インターンシップ | 演習 | 稲井 | | | | | 60 | 2 | | |
| | 情報通信工学演習 | 演習 | 國島 | | | | | 90 | 3 | | |
| | 情報通信工学演習 | 演習 | 坂本 | | | | | 90 | 3 | | |
| | 情報通信工学実験 | 実験 | 榊原 | | | | | 90 | 2 | | |
| | 情報通信工学実験 | 実験 | 福嶋 | | | | | 90 | 2 | | |
| | 情報通信工学実験 | 実験 | 大久保 | | | | | 90 | 2 | | |
| | 情報通信工学実験 | 実験 | 忻 | | | | | 90 | 2 | | |
| 卒業研究 | 実験 | 全教員 | | | | | 360 | 8 | | | |
| (注) 「 」は必修科目、「 」は選択科目、「 」は非常勤講師 | | | | | | | | | | | |
| 学部教育科目の卒業要件単位数 78単位 卒業要件単位数 128単位 (全学教育科目から 43単位、学部教育科目から 78単位、両科目区分から 7単位) | | | | | | | | | | | |

情報システム工学科（平成18年度入学生）

| カテゴリー | 授業科目の名称 | 授業形態 | 担当教員 | 開講年次及び必修選択の別 | | | | 開講時間数 | 開講単位数 | 卒業要件単位数 |
|----------------|--------------|-------|-------|--------------|---|---|----|-------|-------|---------------|
| | | | | 1 | 2 | 3 | 4 | | | |
| 応用数学 | 微分方程式 | 講義 | 末岡 | | | | | 30 | 2 | 10 単位 |
| | フーリエ解析 | 講義 | 川畑 | | | | | 30 | 2 | |
| | 確率統計 | 講義 | 納所 | | | | | 30 | 2 | |
| | ベクトル解析 | 講義 | 曾布川 | | | | | 30 | 2 | |
| | 集合と位相 | 講義 | 小松 | | | | | 30 | 2 | |
| | 関数解析 | 講義 | 高橋 | | | | | 30 | 2 | |
| | 機械数学演習 | 演習 | 早川・末岡 | | | | | 30 | 1 | |
| 機械数学演習 | 演習 | 尾崎・市川 | | | | | 30 | 1 | | |
| 基礎工学 | システム工学 | 講義 | 亀山 | | | | | 30 | 2 | * 12 単位 |
| | 経営情報工学 | 講義 | 倉重 | | | | | 30 | 2 | |
| | 情報数学 | 講義 | 早瀬 | | | | | 30 | 2 | |
| | 数理計画法 | 講義 | 亀山 | | | | | 30 | 2 | |
| | 連続体力学 | 講義 | 市川 | | | | | 30 | 2 | |
| | 熱力学 | 講義 | 福谷 | | | | | 30 | 2 | |
| | 力学I | 講義 | 末岡 | | | | | 30 | 2 | |
| | 力学II | 講義 | 市川 | | | | | 30 | 2 | |
| | 固体物性 | 講義 | 福谷 | | | | | 30 | 2 | |
| | 工業材料 | 講義 | 末岡 | | | | | 30 | 2 | |
| | 数値計算法 | 講義 | 市川 | | | | | 30 | 2 | |
| | 電気回路 | 講義 | 川畑 | | | | | 30 | 2 | |
| 電子回路 | 講義 | 大久保 | | | | | 30 | 2 | | |
| 機器設計とインテリジェント化 | 計算機工学 | 講義 | 早瀬 | | | | | 30 | 2 | 41 単位 |
| | プログラミング言語 | 講義 | 松田 | | | | | 30 | 2 | |
| | アルゴリズムとデータ構造 | 講義 | 松田 | | | | | 30 | 2 | |
| | データベース | 講義 | 加藤 | | | | | 30 | 2 | |
| | ソフトウェア設計 | 講義 | 松田 | | | | | 30 | 2 | |
| | 電子情報回路 | 講義 | 佐藤 | | | | | 30 | 2 | |
| | 論理回路 | 講義 | 早瀬 | | | | | 30 | 2 | |
| | 論理設計 | 講義 | 佐藤 | | | | | 30 | 2 | |
| | 計算機アーキテクチャB | 講義 | 佐藤 | | | | | 30 | 2 | |
| | 計算機システム工学 | 講義 | 加藤 | | | | | 30 | 2 | |
| | 情報ネットワーク | 講義 | 若林 | | | | | 30 | 2 | |
| | 計測・信号処理 | 講義 | 渡邊 | | | | | 30 | 2 | |
| | 制御工学 B | 講義 | 川畑 | | | | | 30 | 2 | |
| | 制御工学 B | 講義 | 川畑 | | | | | 30 | 2 | |
| | パターン情報処理 | 講義 | 神代 | | | | | 30 | 2 | |
| | 知識工学 | 講義 | 神代 | | | | | 30 | 2 | |
| | 生体情報工学 | 講義 | 渡邊 | | | | | 30 | 2 | |
| | ヒューマンインタフェース | 講義 | 渡邊 | | | | | 30 | 2 | |
| | 材料力学 | 講義 | 早川 | | | | | 30 | 2 | |
| | 材料力学 | 講義 | 尾崎 | | | | | 30 | 2 | |
| | 機構学 | 講義 | 尾崎 | | | | | 30 | 2 | |
| | 機械力学 | 講義 | 吉田 | | | | | 30 | 2 | |
| | 流体工学 | 講義 | 野津 | | | | | 30 | 2 | |
| | 伝熱工学 | 講義 | 野津 | | | | | 30 | 2 | |
| | メカトロニクス | 講義 | 坪井 | | | | | 30 | 2 | |
| | 加工と生産 | 講義 | 加藤 | | | | | 30 | 2 | |
| 機械設計法 | 講義 | 山登 | | | | | 30 | 2 | | |
| 機械設計法 | 講義 | 山登 | | | | | 30 | 2 | | |
| ソフトウェア演習 | 演習 | 末岡 | | | | | 60 | 2 | | |
| ソフトウェア演習 | 演習 | 松田 | | | | | 60 | 2 | | |
| CAD演習 | 演習 | 神代ほか | | | | | 60 | 2 | | |
| 機械物理学実験 | 実験 | 市川ほか | | | | | 45 | 1 | | |

| カテゴリー | 授業科目の名称 | 授業形態 | 担当教員 | 開講年次及び 必修選択の別 | | | | 開講 時間数 | 開講 単位数 | 卒業要件 単位数 | |
|---|--------------|------|------|------------------|---|---|---|-----------|-----------|-------------|--|
| | | | | 1 | 2 | 3 | 4 | | | | |
| 総合・ 創造 | 機械デザイン演習 | 演習 | 早川 | | | | | 60 | 2 | 2 単位 | |
| | 回路デザイン演習 | 演習 | 佐藤 | | | | | 60 | 2 | | |
| | システム創造プロジェクト | 実験 | 神代ほか | | | | | 180 | 4 | | |
| | 技術英語演習 | 演習 | 未岡 | | | | | 30 | 1 | | |
| | 情報と社会 | 演習 | 加藤ほか | | | | | 30 | 1 | | |
| | 技術者と社会 | 演習 | 塩田 | | | | | 30 | 1 | | |
| | インターンシップ | 演習 | 福谷 | | | | | 60 | 2 | | |
| | 卒業研究 | 実験 | 全教員 | | | | | 360 | 8 | | |
| (注) 「 」は必修科目, 「 」は選択科目, 「 」は非常勤講師 | | | | | | | | | | | |
| (*) ・情報数学, 数理計画法から2単位 ・連続体力学, 熱力学, 力学 から2単位 ・固体物性, 工業材料から2単位 | | | | | | | | | | | |
| 学部教育科目の卒業要件単位数 82単位 卒業要件単位数 125単位 (全学教育科目43単位を含む) | | | | | | | | | | | |

スポーツシステム工学科（平成18年度入学生）

| カテゴリー | 授業科目の名称 | 授業形態 | 担当教員 | 開講年次及び 必修・選択の別 | | | | 開講 時間数 | 開講 単位数 | 卒業要件 単位数 |
|--------------|--------------|------|-------|-------------------|----|----|----|-----------|-----------|-------------|
| | | | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | | | |
| 応用数学とコンピュータ | サイエンスセミナー | 演習 | 野津 | | | | | 30 | 1 | 16 単位 |
| | サイエンスセミナー | 演習 | 山北 | | | | | 30 | 1 | |
| | 確率統計 | 講義 | 納所 | | | | | 30 | 2 | |
| | 応用数学 | 講義 | 未岡 | | | | | 30 | 2 | |
| | 応用数学 | 講義 | 川畑 | | | | | 30 | 2 | |
| | ベクトル解析と幾何学 | 講義 | 曾布川 | | | | | 30 | 2 | |
| | 離散数学 | 講義 | 高橋(浩) | | | | | 30 | 2 | |
| | コンピュータ工学入門 | 講義 | 早瀬 | | | | | 30 | 2 | |
| | プログラミング言語 | 講義 | 山北 | | | | | 30 | 2 | |
| | データ構造とアルゴリズム | 講義 | 高橋(浩) | | | | | 30 | 2 | |
| | デジタル回路 | 講義 | 森下 | | | | | 30 | 2 | |
| | 計算機アーキテクチャ | 講義 | 佐藤 | | | | | 30 | 2 | |
| | データマネジメント | 講義 | 加藤 | | | | | 30 | 2 | |
| | 人工知能 | 講義 | 横田 | | | | | 30 | 2 | |
| | スポーツと人間行動 | 解剖学 | 講義 | 柳原 | | | | | 30 | |
| 生理学 | | 講義 | 柳原 | | | | | 30 | 2 | |
| スポーツ人間学 | | 講義 | 越川 | | | | | 30 | 2 | |
| スポーツ心理学 | | 講義 | 後藤 | | | | | 30 | 2 | |
| 運動生理学 | | 講義 | 平田 | | | | | 30 | 2 | |
| 基礎運動学 | | 講義 | 辻・中村 | | | | | 30 | 2 | |
| 運動機能科学 | | 講義 | 辻 | | | | | 30 | 2 | |
| スポーツバイオメカニクス | | 講義 | 平田・後藤 | | | | | 30 | 2 | |
| 認知行動科学 | | 講義 | 迫 | | | | | 30 | 2 | |
| 生体行動科学 | | 講義 | 柳原 | | | | | 30 | 2 | |
| 社会行動科学 | | 講義 | 犬飼 | | | | | 30 | 2 | |
| スポーツシステム | | 講義 | 平田・後藤 | | | | | 30 | 2 | |
| スポーツシステム | | 講義 | 犬飼・越川 | | | | | 30 | 2 | |
| 人間と機器の協調 | 基礎電磁気学 | 講義 | 未定 | | | | | 30 | 2 | 78 単位 |
| | 電気回路 | 講義 | 川畑 | | | | | 30 | 2 | |
| | 電子回路 | 講義 | 大久保 | | | | | 30 | 2 | |
| | 計測工学 | 講義 | 未定 | | | | | 30 | 2 | |
| | 生体計測 | 講義 | 未定 | | | | | 30 | 2 | |
| | 力学 | 講義 | 中村 | | | | | 30 | 2 | |
| | 機構学 | 講義 | 野津 | | | | | 30 | 2 | |
| | 材料力学 | 講義 | 未定 | | | | | 30 | 2 | |
| | 機械要素 | 講義 | 未定 | | | | | 30 | 2 | |
| | システム数理 | 講義 | 亀山 | | | | | 30 | 2 | |
| | システム工学 | 講義 | 亀山 | | | | | 30 | 2 | |
| | 制御理論 | 講義 | 未定 | | | | | 30 | 2 | |
| | メカトロニクス | 講義 | 坪井 | | | | | 30 | 2 | |
| | 生体工学 | 講義 | 未定 | | | | | 30 | 2 | |
| | マンマシンインタフェース | 講義 | 迫・中村 | | | | | 30 | 2 | |
| スポーツ機器 | 講義 | 未定 | | | | | 30 | 2 | | |
| 人間工学 | 講義 | 未定 | | | | | 30 | 2 | | |

| カテゴリー | 授業科目の名称 | 授業形態 | 担当教員 | 開講年次及び 必修・選択の別 | | | | 開講 時間数 | 開講 単位数 | 卒業要件 単位数 |
|---|-----------|-----------|-------|-------------------|----|----|----|-----------|-----------|-------------|
| | | | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | | | |
| システムの 創造 | システム工学演習 | 演習 | 倉重 | | | | | 60 | 2 | 20 単位 |
| | システム工学演習 | 演習 | 倉重 | | | | | 60 | 2 | |
| | システム工学実験 | 実験 | 山北・倉重 | | | | | 45 | 1 | |
| | スポーツA | 講義・ 実技 | 後藤 | | | | | 30 | 1 | |
| | スポーツB | 講義・ 実技 | 犬飼ほか | | | | | 30 | 1 | |
| | スポーツC | 講義・ 実技 | 越川ほか | | | | | 30 | 1 | |
| | スポーツ科学演習 | 演習 | 平田ほか | | | | | 30 | 1 | |
| | 運動工学実験 | 実験 | 辻 ほか | | | | | 45 | 1 | |
| | インタフェース演習 | 演習 | 迫・中村 | | | | | 30 | 1 | |
| | システム設計実験 | 実験 | 野津 | | | | | 90 | 2 | |
| | 技術英語演習 | 演習 | 野津 | | | | | 30 | 1 | |
| | インターンシップ | 演習 | 平田 | | | | | 60 | 2 | |
| | 卒業研究 | 実験 | 全教員 | | | | | 360 | 8 | |
| (注) 「 」は必修科目, 「 」は選択科目, 「 」印は非常勤講師 学部教育科目の卒業要件単位数 78単位 卒業要件単位数 125単位 (全学教育の卒業要件47単位を含む) | | | | | | | | | | |

デザイン工学科（平成18年度入学生）

| カテゴリー | 授業科目名 | 授業形態 | 担当教員 | 開講年次および必修選択の別 | | | | 開講時間数 | 開講単位数 | 卒業要件単位数 |
|----------------|----------------|------|-------|---------------|---|---|----|-------|-------|----------|
| | | | | 1 | 2 | 3 | 4 | | | |
| 学部学生に共通の基礎教育科目 | 造形計画演習 | 演習 | 金丸 | | | | | 60 | 2 | 24 単位 |
| | 造形計画演習 | 演習 | 南川 | | | | | 60 | 2 | |
| | 色彩計画論 | 講義 | 荒生 | | | | | 30 | 2 | |
| | 色彩計画演習 | 演習 | 荒生 | | | | | 30 | 1 | |
| | デザイン史 | 講義 | 子野日 | | | | | 30 | 2 | |
| | デザイン史 | 講義 | 小野・北山 | | | | | 30 | 2 | |
| | 照明学 | 講義 | 児玉 | | | | | 30 | 2 | |
| | 空間と構成 | 講義 | 太田 | | | | | 30 | 2 | |
| | 視覚心理学 | 講義 | 多屋 | | | | | 30 | 2 | |
| | 社会調査論 | 講義 | 佐井 | | | | | 30 | 2 | |
| | 描写（デッサン） | 演習 | 久保田 | | | | | 60 | 2 | |
| | 描写（デザインドローイング） | 演習 | 未定 | | | | | 60 | 2 | |
| | 描写（デッサン） | 演習 | 久保田 | | | | | 60 | 2 | |
| | 描写（デザインドローイング） | 演習 | 村木 | | | | | 60 | 2 | |
| | 現代造形演習（彫刻） | 演習 | 寺見 | | | | | 60 | 2 | |
| | タイポグラフィ | 演習 | 小野 | | | | | 30 | 1 | |
| | フォトデザインa | 演習 | 中村 | | | | | 30 | 1 | |
| | CG・CAD演習 | 演習 | 高原 | | | | | 30 | 1 | |
| | CG・CAD演習 | 演習 | 金丸 | | | | | 60 | 2 | |
| | インタラクティブデザイン | 講義 | 未定 | | | | | 30 | 2 | |
| | エルゴノミクス | 講義 | 森下 | | | | | 30 | 2 | |
| 特別講義（地域とデザイン） | 講義 | 未定 | | | | | 30 | 2 | | |
| 特別講義（イノベーション） | 講義 | 未定 | | | | | 30 | 2 | | |
| 専門英語I | 演習 | 子野日 | | | | | 30 | 1 | | |
| 専門英語II | 演習 | 長谷川 | | | | | 30 | 1 | | |
| 学科学生に共通の基礎教育科目 | 図学 | 演習 | 中西 | | | | | 30 | 1 | 54 単位 |
| | デザイン工学演習 | 演習 | 益岡・南川 | | | | | 60 | 2 | |
| | デザイン工学演習 | 演習 | 太田・村木 | | | | | 60 | 2 | |
| | 工作技能演習 | 演習 | 太田 | | | | | 30 | 1 | |
| | 材料学概論 | 講義 | 横山 | | | | | 30 | 2 | |
| | 環境原論 | 講義 | 熊澤 | | | | | 30 | 2 | |
| | デザイン分析 | 演習 | 奥野 | | | | | 60 | 2 | |
| | CAD製図 | 演習 | 熊澤・村木 | | | | | 30 | 1 | |
| | 環境の調査・計測 | 演習 | 中西 | | | | | 60 | 2 | |
| | 環境原論演習 | 演習 | 熊澤 | | | | | 60 | 2 | |
| | 地域・都市計画 | 講義 | 熊澤 | | | | | 30 | 2 | |
| | デザインプランニング | 講義 | 未定 | | | | | 30 | 2 | |
| | ユーザインタフェース | 講義 | 未定 | | | | | 30 | 2 | |
| | プロダクトデザイン論 | 講義 | 村木 | | | | | 30 | 2 | |
| 建築デザイン論 | 講義 | 山田 | | | | | 30 | 2 | | |
| 情報デザイン論 | 講義 | 益岡 | | | | | 30 | 2 | | |

| カテゴリー | 授業科目名 | 授業形態 | 担当教員 | 開講年次および必修選択の別 | | | | 開講時間数 | 単位数 | |
|--|-----------------|-------|-------|---------------|-------|----|-----|-------|-------|---------|
| | | | | 1 | 2 | 3 | 4 | | 開講単位数 | 卒業要件単位数 |
| | | | | プロダクトデザインコース | 製品機構学 | 講義 | 吉田 | | | |
| 機械工作論 | 講義 | 大橋 | | | | | | 30 | 2 | |
| 家具設計 | 演習 | 南川 | | | | | | 30 | 1 | |
| 家具設計 | 演習 | 千田 | | | | | | 30 | 1 | |
| プロダクトデザインゼミナール | 演習 | プロ全教員 | | | | | | 60 | 2 | |
| プロダクトデザイン実習 | 実習 | 奥野・村木 | | | | | | 120 | 3 | |
| プロダクトデザイン実習 | 実習 | 森下・南川 | | | | | | 120 | 3 | |
| プロダクトデザイン実習 | 実習 | 森下・村木 | | | | | | 120 | 3 | |
| プロダクトデザイン実習 | 実習 | 奥野・南川 | | | | | | 120 | 3 | |
| プロダクトデザイン実習 | 実習 | 奥野 | | | | | | 120 | 3 | |
| プロダクトデザイン学外実習 | 実習 | 奥野 | | | | | | 45 | 1 | |
| プロダクトデザイン企業実習 | 実習 | 奥野 | | | | | | 45 | 1 | |
| プロダクトデザイン卒業研究 | 演習 | プロ全教員 | | | | | | 240 | 8 | |
| 建築デザインコース | 建築史 | 講義 | 中西 | | | | | | 30 | 2 |
| | 建築計画論 | 講義 | 山田 | | | | | 30 | 2 | |
| | 施設計画論 | 講義 | 中西 | | | | | 30 | 2 | |
| | 建築設備概論 | 講義 | 飯島 | | | | | 30 | 2 | |
| | 建築構造概論 | 講義 | 尾熊 | | | | | 30 | 2 | |
| | 構造力学 | 講義 | 観音 | | | | | 30 | 2 | |
| | 構造力学 | 講義 | 観音 | | | | | 30 | 2 | |
| | 建築法規 | 講義 | 松田 | | | | | 30 | 2 | |
| | 施工・積算論 | 講義 | 秋山 | | | | | 30 | 2 | |
| | 構造力学演習 | 演習 | 観音 | | | | | 30 | 1 | |
| | 構造力学演習 | 演習 | 観音 | | | | | 30 | 1 | |
| | 構造・材料実験 | 実験 | 谷 | | | | | 45 | 1 | |
| | 建築デザインゼミナール | 演習 | 山田・太田 | | | | | 60 | 2 | |
| | 設計製図 | 実習 | 山田・武田 | | | | | 90 | 2 | |
| | 設計製図 | 実習 | 太田 | | | | | 90 | 2 | |
| | 設計製図 | 実習 | 山田 | | | | | 90 | 2 | |
| | 設計製図 | 実習 | 太田・武田 | | | | | 90 | 2 | |
| | 設計製図 | 実習 | 熊澤 | | | | | 90 | 2 | |
| 建築デザイン学外実習 | 実習 | 山田 | | | | | 45 | 1 | | |
| 建築デザイン企業実習 | 実習 | 熊澤 | | | | | 45 | 1 | | |
| 建築デザイン卒業研究 | 演習 | 建築全教員 | | | | | 240 | 8 | | |
| 情報デザインコース | 映像デザイン | 講義 | 未定 | | | | | 30 | 2 | |
| | サウンドデザイン | 講義 | 未定 | | | | | 30 | 2 | |
| | インフォメーショングラフィック | 演習 | 小野 | | | | | 30 | 1 | |
| | インタラクティブデザイン | 演習 | 未定 | | | | | 30 | 1 | |
| | 情報デザインゼミナール | 演習 | 情報全教員 | | | | | 60 | 2 | |
| | 情報デザイン実習 | 実習 | 情報全教員 | | | | | 120 | 3 | |
| | 情報デザイン実習 | 実習 | 情報全教員 | | | | | 120 | 3 | |
| | 情報デザイン実習 | 実習 | 益岡 | | | | | 120 | 3 | |
| | 情報デザイン実習 | 実習 | 未定 | | | | | 120 | 3 | |
| | 情報デザイン実習 | 実習 | 小野 | | | | | 120 | 3 | |
| | 情報デザイン学外実習 | 実習 | 情報全教員 | | | | | 45 | 1 | |
| | 情報デザイン企業実習 | 実習 | 小野・未定 | | | | | 45 | 1 | |
| 情報デザイン卒業研究 | 演習 | 情報全教員 | | | | | 240 | 8 | | |
| 注) は必修科目、 は全コース選択科目、 は当該コース必修科目、その他のコースは選択科目 はプロダクトデザインコース必修科目、その他のコースは選択科目 は建築デザインコース必修科目、その他のコースは選択科目 は情報デザインコース必修科目、その他のコースは選択科目 は非常勤講師 | | | | | | | | | | |
| 学部教育科目の卒業要件単位数 78単位、卒業要件単位数 124単位 (全学教育科目46単位を含む) | | | | | | | | | | |

造形デザイン学科（平成18年度入学生）

| カテゴリー | 授業科目の名称 | 授業形態 | 担当教員 | 開講年次および 必修選択の別 | | | | 開講 時間数 | 開講 単位数 | 卒業要件 単位数 |
|-------------------|------------------|------|--------|-------------------|---|---|----|-----------|-----------|--------------------------|
| | | | | 1 | 2 | 3 | 4 | | | |
| 学芸員資格取得 に関する科目 | 博物館概論 | 講義 | * 守安 | | | | | 30 | 2 | |
| | 博物館経営論 | 講義 | * 守安 | | | | | 15 | 1 | |
| | 博物館資料論 | 講義 | * 守安 | | | | | 30 | 2 | |
| | 博物館情報論 | 講義 | * 守安 | | | | | 15 | 1 | |
| | 博物館実習 | 実習 | * 守安 | | | | | 135 | 3 | |
| | 視聴覚教育メディア論 | 講義 | * 荻田 | | | | | 30 | 2 | |
| 学部学生に共通の基礎教育科目 | 造形計画演習I | 演習 | 金丸 | | | | | 60 | 2 | (グラ, IT) 24 単 位 |
| | 造形計画演習II | 演習 | 南川 | | | | | 60 | 2 | |
| | 色彩計画論 | 講義 | 荒生 | | | | | 30 | 2 | |
| | 色彩計画演習 | 演習 | 荒生 | | | | | 30 | 1 | |
| | デザイン史I | 講義 | 子野日 | | | | | 30 | 2 | |
| | デザイン史II | 講義 | 小野,北山 | | | | | 30 | 2 | |
| | 照明学 | 講義 | 児玉 | | | | | 30 | 2 | (セラ, テキ) 28 単 位 |
| | 空間と構成 | 講義 | 太田 | | | | | 30 | 2 | |
| | 視覚心理学 | 講義 | * 多屋 | | | | | 30 | 2 | |
| | 社会調査論 | 講義 | * 佐井 | | | | | 30 | 2 | |
| | 描写I(デッサン) | 演習 | 久保田 | | | | | 60 | 2 | |
| | 描写I(デザインドローイング) | 演習 | 未定 | | | | | 60 | 2 | |
| | 描写II(デッサン) | 演習 | 久保田 | | | | | 60 | 2 | |
| | 描写II(デザインドローイング) | 演習 | 村木 | | | | | 60 | 2 | |
| | 現代造形演習(彫刻) | 演習 | * 寺見 | | | | | 60 | 2 | |
| | タイポグラフィI | 演習 | * 縄田 | | | | | 30 | 1 | |
| | フォトデザインa | 演習 | * 中村 | | | | | 30 | 1 | |
| | CG・CAD演習I | 演習 | * 高原 | | | | | 30 | 1 | |
| | CG・CAD演習II | 演習 | 金丸 | | | | | 60 | 2 | |
| | インタラクティブデザイン | 講義 | 未定 | | | | | 30 | 2 | |
| エルゴノミクス | 講義 | 森下 | | | | | 30 | 2 | | |
| 特別講義(地域とデザイン) | 講義 | 未定 | | | | | 30 | 2 | | |
| 特別講義(イノベーション) | 講義 | 未定 | | | | | 30 | 2 | | |
| 専門英語I | 演習 | 子野日 | | | | | 30 | 1 | | |
| 専門英語II | 演習 | 長谷川 | | | | | 30 | 1 | | |
| 学科学生に共通の基礎教育科目 | 描写III | 演習 | 東島 | | | | | 60 | 2 | (グラ, IT) 54 単 位 |
| | 描写IV | 演習 | 関崎 | | | | | 60 | 2 | |
| | 造形構成論 | 講義 | 吉原 | | | | | 30 | 2 | |
| | 造形演習(平面) | 演習 | 東島,草間 | | | | | 60 | 2 | |
| | 造形演習(立体) | 演習 | 大河内,野宮 | | | | | 60 | 2 | |
| | 造形演習(版表現) | 演習 | 吉原,関崎 | | | | | 30 | 1 | |
| | 造形演習(写真表現) | 演習 | 北山 | | | | | 30 | 1 | |
| | 造形演習(空間) | 演習 | 島田 | | | | | 60 | 2 | |
| | 宣伝広告論 | 講義 | 鈴木 | | | | | 30 | 2 | |
| | メディアコミュニケーション | 演習 | 嘉数 | | | | | 30 | 1 | |
| | ウェブデザイン | 演習 | 八尾 | | | | | 30 | 1 | |
| | CG演習I | 演習 | 八尾,野宮 | | | | | 60 | 2 | |
| | CG演習II | 演習 | 八尾 | | | | | 60 | 2 | |
| | CG演習III | 演習 | 吉原 | | | | | 60 | 2 | |
| | タイポグラフィII | 演習 | 野宮 | | | | | 30 | 1 | (セラ, テキ) 50 単 位 |
| | イラストレーション | 演習 | 東島 | | | | | 60 | 2 | |
| | パッケージデザインI | 演習 | * 中村 | | | | | 30 | 1 | |
| パッケージデザインII | 演習 | * 中村 | | | | | 30 | 1 | | |
| 映像構成論 | 講義 | 北山 | | | | | 30 | 2 | | |
| フォトデザインb | 演習 | 北山 | | | | | 30 | 1 | | |
| メディアフォト(写真素材) | 演習 | 北山 | | | | | 30 | 1 | | |
| 繊維材料学 | 講義 | 難波 | | | | | 30 | 2 | | |
| マテリアル演習 | 演習 | 難波 | | | | | 30 | 1 | | |

| カテゴリー | 授業科目の名称 | 授業形態 | 担当教員 | 開講年次および 必修選択の別 | | | | 開講 時間数 | 開講 単位数 | 卒業要件 単位数 | |
|-----------------|-----------------|------------------|--------|-------------------|---|---|-----|-----------|-----------|----------------------|----------------------|
| | | | | 1 | 2 | 3 | 4 | | | | |
| コース学生のための専門教育科目 | グラフィック専門 | グラフィックメディア論 | 講義 | 荒生 | | | | | 30 | 2 | (グラ, IT) 54 単位 |
| | | グラフィックメディア演習 | 演習 | 関崎 | | | | | 60 | 2 | |
| | | 広告プランニング | 演習 | 鈴木,野宮 | | | | | 30 | 1 | |
| | | グラフィックデザイン特論 | 講義 | グラ全教員 | | | | | 30 | 2 | |
| | | グラフィックデザイン演習 | 演習 | グラ全教員 | | | | | 30 | 1 | |
| | | グラフィックデザイン総合演習 | 演習 | グラ全教員 | | | | | 30 | 1 | |
| | | グラフィックデザイン実習I | 実習 | 東島 | | | | | 120 | 3 | |
| | | グラフィックデザイン実習II | 実習 | 吉原 | | | | | 120 | 3 | |
| | | グラフィックデザイン実習III | 実習 | 野宮 | | | | | 120 | 3 | |
| | | グラフィックデザイン実習IV | 実習 | 鈴木 | | | | | 120 | 3 | |
| | グラフィックデザイン卒業研究 | 演習 | グラ全教員 | | | | | 240 | 8 | | |
| | ITC専門 | ITメディア論 | 講義 | 嘉数 | | | | | 30 | 2 | (セラ, テキ) 50 単位 |
| | | ITメディア演習 | 演習 | 酒井 | | | | | 30 | 1 | |
| | | CG論 | 講義 | 八尾 | | | | | 30 | 2 | |
| | | ITコンテンツデザイン特論 | 講義 | 酒井 | | | | | 30 | 2 | |
| | | ITコンテンツデザイン演習 | 演習 | ITC全教員 | | | | | 30 | 1 | |
| | | ITコンテンツデザイン総合演習 | 演習 | ITC全教員 | | | | | 30 | 1 | |
| | | ITコンテンツデザイン実習I | 実習 | 北山,酒井 | | | | | 120 | 3 | |
| | | ITコンテンツデザイン実習II | 実習 | 酒井 | | | | | 120 | 3 | |
| | | ITコンテンツデザイン実習III | 実習 | 嘉数 | | | | | 120 | 3 | |
| | | ITコンテンツデザイン実習IV | 実習 | 嘉数,八尾 | | | | | 120 | 3 | |
| | ITコンテンツデザイン卒業研究 | 演習 | ITC全教員 | | | | | 240 | 8 | | |
| | セラミック専門 | *窯芸化学 | 講義 | * 河口 | | | | | 30 | 2 | (セラ, テキ) 50 単位 |
| | | セラミックデザイン論 | 講義 | 大河内 | | | | | 30 | 2 | |
| | | セラミックデザイン演習 | 演習 | 金丸 | | | | | 60 | 2 | |
| | | セラミックデザインゼミナール | 演習 | セラ全教員 | | | | | 60 | 2 | |
| | | セラミックデザイン実習I | 実習 | 大河内 | | | | | 120 | 3 | |
| | | セラミックデザイン実習II | 実習 | 久保田,金丸 | | | | | 120 | 3 | |
| | | セラミックデザイン実習III | 実習 | 久保田 | | | | | 120 | 3 | |
| | | セラミックデザイン実習IV | 実習 | 金丸 | | | | | 120 | 3 | |
| | | セラミックデザイン実習V | 実習 | 大河内 | | | | | 120 | 3 | |
| | | *セラミックデザイン学外実習 | 実習 | 大河内 | | | | | 45 | 1 | |
| | セラミックデザイン卒業研究 | 演習 | セラ全教員 | | | | | 240 | 8 | | |
| テキスタイル専門 | 色染演習 | 演習 | 難波,島田 | | | | | 60 | 2 | (セラ, テキ) 50 単位 | |
| | 被服構成 | 演習 | 未定 | | | | | 30 | 1 | | |
| | テキスタイルデザイン論 | 講義 | 草間 | | | | | 30 | 2 | | |
| | テキスタイルデザインゼミナール | 演習 | テキ全教員 | | | | | 60 | 2 | | |
| | テキスタイルデザイン実習I | 実習 | 草間 | | | | | 120 | 3 | | |
| | テキスタイルデザイン実習II | 実習 | 難波 | | | | | 120 | 3 | | |
| | テキスタイルデザイン実習III | 実習 | 島田 | | | | | 120 | 3 | | |
| | テキスタイルデザイン実習IV | 実習 | テキ全教員 | | | | | 120 | 3 | | |
| | テキスタイルデザイン実習V | 実習 | テキ全教員 | | | | | 120 | 3 | | |
| | テキスタイルデザイン学外実習 | 実習 | 草間,島田 | | | | | 45 | 1 | | |
| テキスタイルデザイン卒業研究 | 演習 | テキ全教員 | | | | | 240 | 8 | | | |

注) 必修科目 / 全コース選択 / 当該コース必修科目、その他のコースは選択科目
グラフィックコース必修科目、その他のコースは選択科目 ITCコンテンツコース必修科目、その他のコースは選択科目
セラミックコース必修科目、その他のコースは選択科目 テキスタイルコース必修科目、その他のコースは選択科目
学部教育科目の卒業要件単位数は78単位、卒業要件単位数は124単位(全学教育科目46単位を含む)
*印の授業科目は隔年開講科目
必修・選択・コース必修選択科目の別に注意すること。

A3. 委員会等協議事項

A3.1 第3常任委員会

第1回（平成18年4月28日）

- （1）岡山県立大学履修規程の一部改正

第2回（平成18年6月8日）

- （1）保健福祉学科に新領域を開設することに伴う岡山県立大学履修規程の一部改正
- （2）休学等の場合の履修手続きに伴う岡山県立大学履修規程及び岡山県立大学大学院履修規程の一部改正

第3回（平成18年6月12日）

- （1）岡山県立大学履修規程の一部改正

第4回（平成18年8月7日）

- （1）岡山県立大学学則の一部改正
- （2）岡山県立大学履修規程の一部改正

第5回（平成18年10月12日）

- （1）岡山県立大学履修規程の一部改正

第6回（平成18年11月9日）

- （1）岡山県立大学履修規程の一部改正

第7回（平成18年12月7日）

- （1）平成19年度公立大学法人岡山県立大学の年度計画

第8回（平成19年1月11日）

- （1）岡山県立大学履修規程等の廃止及び制定

第9回（平成19年3月7日）

- （1）平成19年度公立大学法人岡山県立大学年次計画
- （2）紀要委員会規程
- （3）平成19年度臨時に設ける授業科目

A3.2 教務専門委員会

第1回（平成18年6月8日）

（1）協議事項

平成18年度の主要検討事項について

その他

（2）報告事項

平成18年度非常勤講師の確保体制について

第54回中国・四国地区大学教育研究会について

第3回（平成18年7月13日）

（1）協議事項

学科の再編に伴う課題について

平成19年度授業開講計画の策定について

語学研修による単位認定について

その他

第3回（平成18年9月14日）

（1）協議事項

平成19年度授業開講計画（案）について

学科の再編に伴う課題について

その他

第4回（平成18年10月12日）

（1）協議事項

平成19年度授業開講計画（案）について

6時限（17：40～19：10）の設定について

「大学コンソーシアム岡山」単位互換授業科目について

その他

第5回（平成18年11月9日）

（1）協議事項

平成19年度授業開講計画について

履修案内の見直し等について

平成19年度教務・学生生活関係の日程について

その他

（2）報告事項

平成18年度教務関係日程（4年次生に係る事項）について

「大学コンソーシアム岡山」単位互換科目について

第6回（平成18年12月14日）

（1）協議事項

平成19年度授業開講計画について

平成19年度教務・学生生活関係の日程について

「大学コンソーシアム岡山」単位互換科目について

デザイン工学科提案事項について

「履修案内（平成19年度入学生用）」の作成等について

その他

（2）報告事項

シラバス（平成19年度版）の作成について

第7回（平成19年1月11日）

（1）協議事項

「フレッシュマン特別講義」について

新入生オリエンテーションについて

その他

第8回（平成19年2月8日）

（1）協議事項

平成19年度全学教育科目開講計画（担当教員関係）及び履修案内について

学位等の英文表記について

その他

（2）報告事項

平成19年度教務・学生生活関係の日程について

第9回（平成19年3月7日）

（1）協議事項

平成19年度全学教育科目開講計画について

「履修案内（平成19年度入学生用）」について

学位等の英文表記について

A3.3 全学教育研究機構教授会

第1回(平成18年4月27日)

(1) 報告事項

平成17年度第6回および第7回教授会議事概要の確認結果

平成18年度構成員

教職担当教員の公募結果および機構運営WG代表の選出結果

(2) 協議事項

非常勤講師の確保体制

学生経費からの全学教育への経費分担

次回教授会開催日

その他

第2回(平成18年5月29日)

(1) 報告事項

平成18年度第1回教授会議事概要の確認結果

学生経費からの全学教育への経費分担

(2) 協議事項

中期目標・計画

次回教授会開催日

第3回(平成18年7月13日)

(1) 報告事項

平成18年度第2回教授会議事概要の確認結果

教員免許課程設置準備状況

(2) 協議事項

専任教員の人事

次回教授会開催日

第4回(平成18年8月24日)

(1) 報告事項

平成18年度第3回教授会議事概要の確認結果

教員免許課程設置準備状況

(2) 協議事項

専任教員の人事

次回教授会開催日

第5回(平成18年9月7日)

(1) 報告事項

平成18年度第4回教授会議事概要の確認結果

- (2) 協議事項
 - 専任教員の人事
 - 次回教授会開催日

第 6 回 (平成 18 年 10 月 12 日)

- (1) 報告事項
 - 平成 18 年度第 5 回教授会議事概要の確認結果
- (2) 協議事項
 - 専任教員 (教職担当) 教員の人事
 - 非常勤講師の確保

第 7 回 (平成 18 年 11 月 9 日)

- (1) 報告事項
 - 平成 18 年度第 6 回教授会議事概要の確認結果
 - その他
- (2) 協議事項
 - 専任教員 (教職担当) の人事
 - 非常勤講師の確保
 - その他

第 8 回 (平成 18 年 12 月 28 日)

- (1) 報告事項
 - 平成 18 年度第 7 回教授会議事概要の確認結果
 - その他
- (2) 協議事項
 - 専任教員 (生態学分野) の人事
 - 非常勤講師の採用
 - 平成 19 年度の年度計画
 - 次回教授会開催日
 - その他

第 9 回 (平成 19 年 1 月 19 日)

- (1) 報告事項
 - 平成 18 年度第 8 回教授会議事概要の確認結果
 - その他
- (2) 協議事項
 - 専任教員 (生態学分野) の採用
 - 非常勤講師の採用
 - 非常勤講師確保体制
 - その他

第10回（平成19年1月30日）

（1）協議事項

非常勤講師の採用

全学教育研究機構を兼務する教員

（平成18年4月1日現在）

| 氏名 | 職名 | 平成18年度担当授業科目（全学教育） | 所属学部 |
|------------|-----|------------------------|--------|
| 辻 英明 | 教授 | 化学 | 保健福祉学部 |
| 池田巳喜子 | 教授 | 生物学，みぢかなバイオテクノロジー | |
| 山磨康子 | 教授 | 中級英語 | |
| 沼本健二 | 助教授 | 基礎英語 | |
| 高橋泰嗣 | 教授 | 解析学，解析学演習，統計の世界 | 情報工学部 |
| 桂 宥子 | 教授 | 基礎英語，中級英語，比較文化 | |
| 小松弘明 | 助教授 | 解析学，解析学演習，数学の世界 | |
| 坂本豊和 | 助教授 | 物理学 | |
| 福嶋丈浩 | 助教授 | 物理学，情報技術の進展 | デザイン学部 |
| 子野日俊夫 | 教授 | 現代の思想，造形文化論，基礎ドイツ語， | |
| 児玉由美子 | 助教授 | 景観原論 | |
| 長谷川弘基 | 助教授 | 基礎英語，ヨーロッパ文学，言語文化とデザイン | |
| アンソニー・ブルネリ | 助教授 | 英会話 | |
| 瀧本雅志 | 助教授 | 人間学入門，美術の歴史，基礎フランス語 | 短期大学部 |
| 伊藤國彦 | 教授 | 生物と環境 | |
| 谷口敏代 | 教授 | 健康と心理 | |
| 後藤清志 | 助教授 | スポーツ，スポーツの科学 | |
| 柴田奈美 | 助教授 | 日本文学，日本語表現法 | |

全学教育研究機構 役職員

（平成18年4月1日現在）

| 役職 | 氏名 | 職名 | 所属学部 | |
|----------|--------|------------|-------|--------|
| 機構長 | 野津 滋 | 教授 | 情報工学部 | |
| 副機構長 | 伊藤國彦 | 教授 | 短期大学部 | |
| 語学センター | センター長 | 桂宥子 | 教授 | 情報工学部 |
| | 副センター長 | 沼本健二 | 助教授 | 保健福祉学部 |
| | | 末岡浩二 | 助教授 | 情報工学部 |
| | | アンソニー・ブルネリ | 助教授 | デザイン学部 |
| | 岡本和子 | 教授 | 短期大学部 | |
| 情報教育センター | センター長 | 大曾根隆志 | 教授 | 情報工学部 |
| | 副センター長 | 山本耕一郎 | 教授 | 保健福祉学部 |
| | | 金丸敏彦 | 教授 | デザイン学部 |
| | | 迫 明仁 | 教授 | 短期大学部 |

A4. 学生生活アンケートの集計結果

(マークシート設問文)

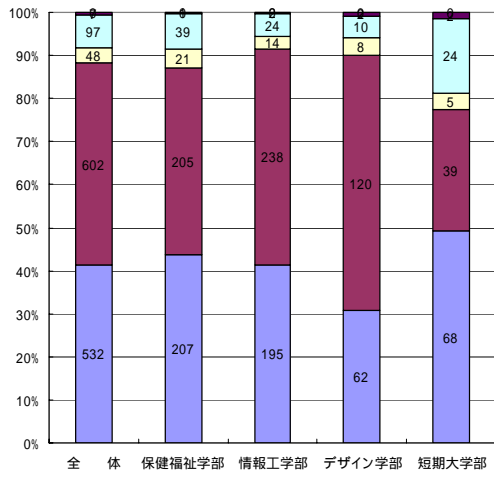
記入に関する注意事項

入学年、学科、性別は必ずマークしてください。

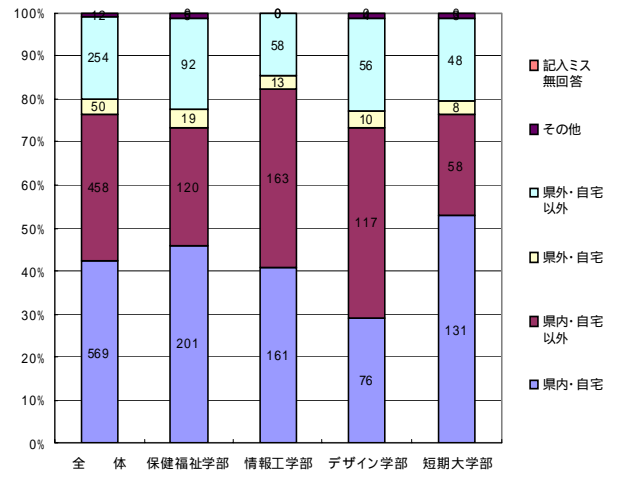
各設問の回答は、選択肢から最も近いものを「一つ」だけ選び、マークシート回答用紙の該当する番号をマークしてください。

| | | | |
|------------------------------|---------------------------------|--|-------------------|
| 問1 あなたの住まいについて教えてください | 1) 県内・自宅 4) 県外・アパートなど | 2) 県内・アパートなど 5) その他 | 3) 県外・自宅 |
| 問2 あなたの通学時間について教えてください | 1) 15分未満 4) 1時間～2時間未満 | 2) 15分～30分未満 5) 2時間以上 | 3) 30分～60分未満 |
| 問3 主たる通学手段を教えてください | 1) 徒歩・自転車 4) JR・井原鉄道 | 2) 原付・自動二輪車 5) その他(徒歩・自転車・原付・バス・鉄道など複合手段) | 3) 自家用車 |
| 問4 生活費を主に何によって支えていますか | 1) 仕送り(保護者等の収入) 4) アルバイトと奨学金 | 2) 仕送りとアルバイト 5) アルバイト | 3) 仕送りと奨学金等 |
| 問5 入学後のアルバイトについて教えてください | 1) アルバイトの経験が無い 4) 情報誌等で探した | 2) 本部棟掲示板で探した 5) その他 | 3) 友人等の紹介で始めた |
| 問6 現在、どのような悩みがありますか | 1) ない 4) 健康や対人関係 | 2) 現在の学業 5) その他 | 3) 進路や就職 |
| 問7 悩みには、どのように対処していますか | 1) 家族に相談 4) 相談室・教職員に相談 | 2) 友人・先輩に相談 5) その他 | 3) 自分で解決 |
| 問8 オフィスワーカーやアドバイザー教員を知っていますか | 1) 両方とも知らない 4) 両方とも知っている | 2) オフィスワーカーのみ知っている 5) どのような制度かわからない | 3) アドバイザ教員のみ知っている |
| 問9 教員に勉強・学生生活の相談をしておいた満足度 | 1) 相談したことがない 4) 満足度50～80%未満 | 2) 満足度0～20%未満 5) 満足度80%以上 | 3) 満足度20～50%未満 |
| 問10 学生相談室・保健室の場所を知っていますか | 1) 両方とも知らない 4) 両方とも知っている | 2) 相談室のみ知っている 5) その他 | 3) 保健室のみ知っている |
| 問11 学生相談室を利用した満足度 | 1) 利用したことがない 4) 満足度50～80%未満 | 2) 満足度0～20%未満 5) 満足度80%以上 | 3) 満足度20～50%未満 |
| 問12 本学海外語学研修について教えてください | 1) 必要ない 4) 中国語圏が良い | 2) 英語圏が良い 5) その他 | 3) 韓国語圏が良い |
| 問13 本学での教育について満足していますか | 1) わからない 4) 満足度50～80%未満 | 2) 満足度0～20%未満 5) 満足度80%以上 | 3) 満足度20～50%未満 |
| 問14 平日の授業がない空き時間帯はどこにいますか | 1) 図書館 4) 学外 | 2) 学生会館・部室棟など 5) その他 | 3) 教室・演習室 |
| 問15 課外に図書館を利用した満足度 | 1) 利用したことがない 4) 満足度50～80%未満 | 2) 満足度0～20%未満 5) 満足度80%以上 | 3) 満足度20～50%未満 |
| 問16 課外に語学センターを利用した満足度 | 1) 利用したことがない 4) 満足度50～80%未満 | 2) 満足度0～20%未満 5) 満足度80%以上 | 3) 満足度20～50%未満 |
| 問17 課外に情報教育センターを利用した満足度 | 1) 利用したことがない 4) 満足度50～80%未満 | 2) 満足度0～20%未満 5) 満足度80%以上 | 3) 満足度20～50%未満 |
| 問18 食堂(1F)・喫茶(2F)を利用した満足度 | 1) 利用したことがない 4) 満足度50～80%未満 | 2) 満足度0～20%未満 5) 満足度80%以上 | 3) 満足度20～50%未満 |
| 問19 売店を利用した満足度 | 1) 利用したことがない 4) 満足度50～80%未満 | 2) 満足度0～20%未満 5) 満足度80%以上 | 3) 満足度20～50%未満 |
| 問20 課外に運動施設を利用した満足度 | 1) 利用したことがない 4) 満足度50～80%未満 | 2) 満足度0～20%未満 5) 満足度80%以上 | 3) 満足度20～50%未満 |
| 問21 サークルへの加入について教えてください | 1) 入っていない 4) 未加入団体(体育系) | 2) 学友会体育会 5) 未加入団体(文化系) | 3) 学友会文化会 |
| 問22 サークル活動で思うことを教えてください | 1) 学業との両立は困難 4) 拘束されたくない | 2) アルバイトとの両立は困難 5) 興味あるサークルがない | 3) 経済的負担大きい |
| 問23 卒業後の進路の第1希望は何ですか | 1) 進学(大学院・編入学) 4) その他 | 2) 公務員(公的施設等) 5) 未定 | 3) 民間企業(福祉施設など) |
| 問24 希望する就職地域はどこですか | 1) 岡山県内 4) その他 | 2) 中国・四国地方 5) 未定 | 3) 関西圏 |
| 問25 希望する就職地域は出身地ですか | 1) 出身地 4) その他 | 2) 出身地以外 5) 未定 | 3) 未定 |
| 問26 就職情報をどのようにして得ていますか | 1) 担当教員(HP含む) 4) 学部内掲示板 | 2) 就職情報誌(リクナビ含む) 5) その他 | 3) 就職資料室(学内LAN) |
| 問27 本学の就職支援体制に対する満足度 | 1) わからない 4) 満足度50～80%未満 | 2) 満足度0～20%未満 5) 満足度80%以上 | 3) 満足度20～50%未満 |
| 問28 教務関係の情報提供に対する満足度 | 1) わからない 4) 満足度50～80%未満 | 2) 満足度0～20%未満 5) 満足度80%以上 | 3) 満足度20～50%未満 |
| 問29 危険・不便を感じる場所がありますか | 1) どちらとも無い 4) どちらとも有る | 2) 不便な場所有る 5) わからない | 3) 危険な場所有る |
| 問30 本学での大学生生活に満足していますか | 1) わからない 4) 満足度50～80%未満 | 2) 満足度0～20%未満 5) 満足度80%以上 | 3) 満足度20～50%未満 |

問1 あなたの住まいについて教えてください

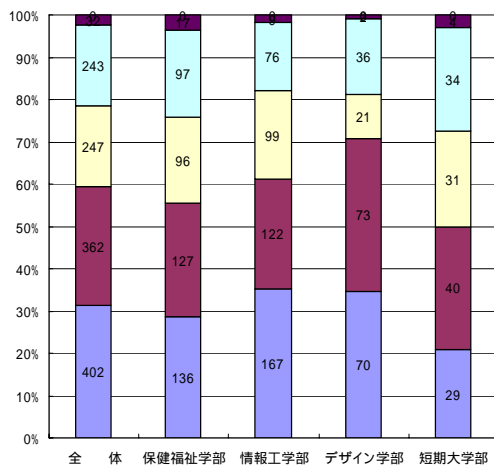


平成 18 年度

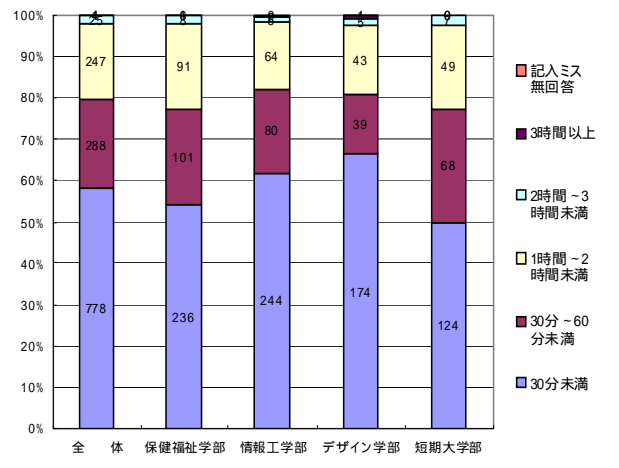


平成 16 年度

問2 あなたの通学時間について教えてください

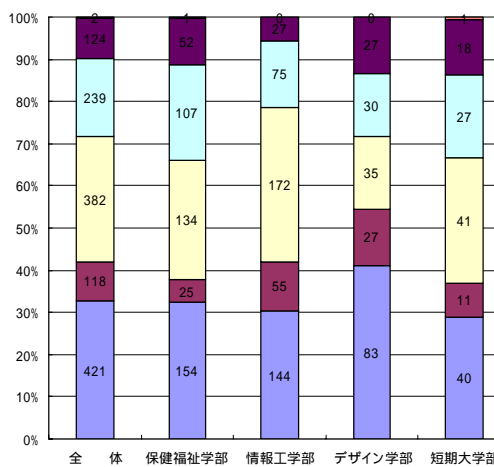


平成 18 年度

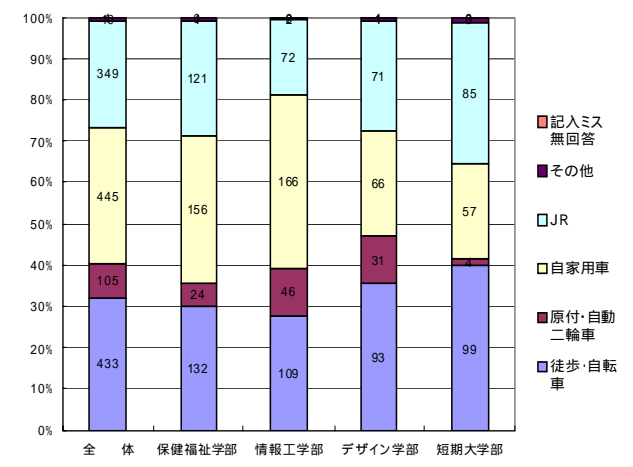


平成 16 年度

問3 主たる通学手段を教えてください

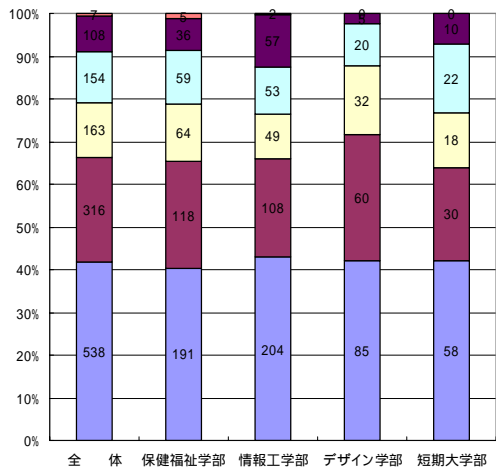


平成 18 年度

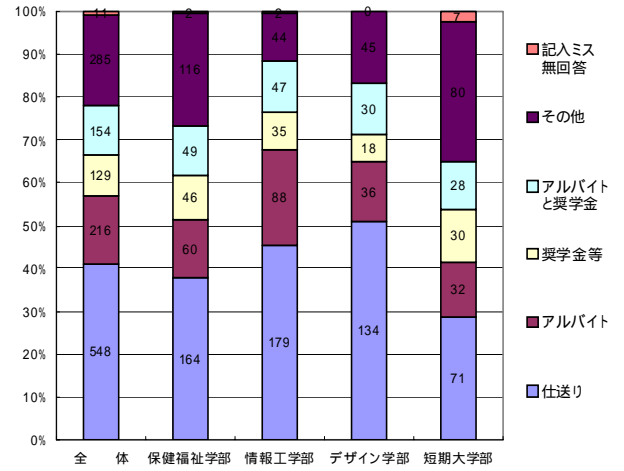


平成 16 年度

問4 生活費を主に何によって支えていますか

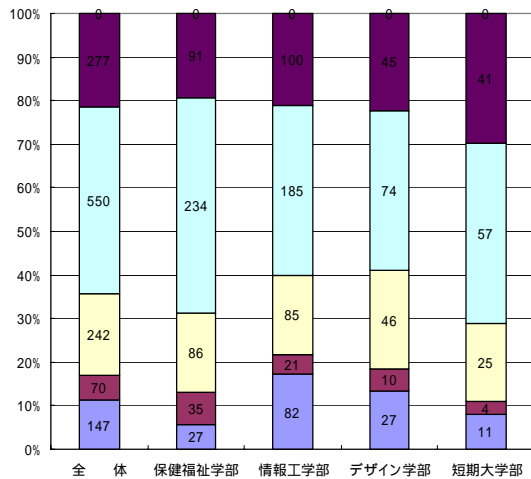


平成18年度

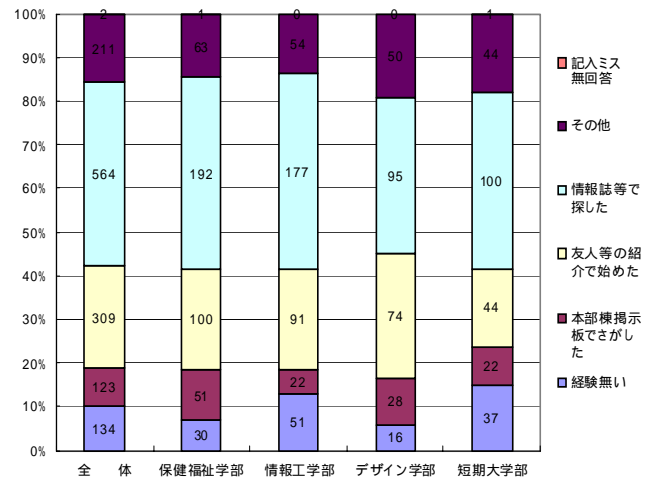


平成16年度

問5 入学後のアルバイトについて教えてください

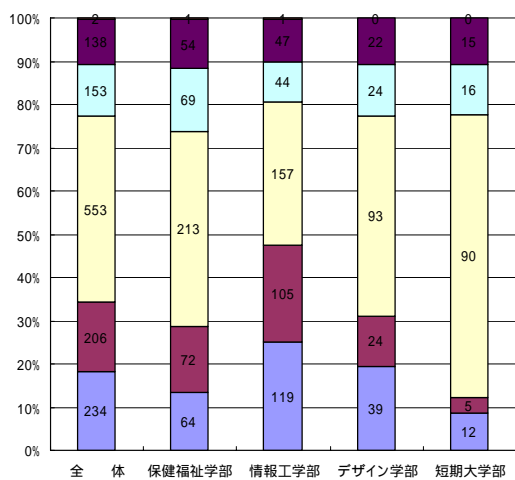


平成18年度

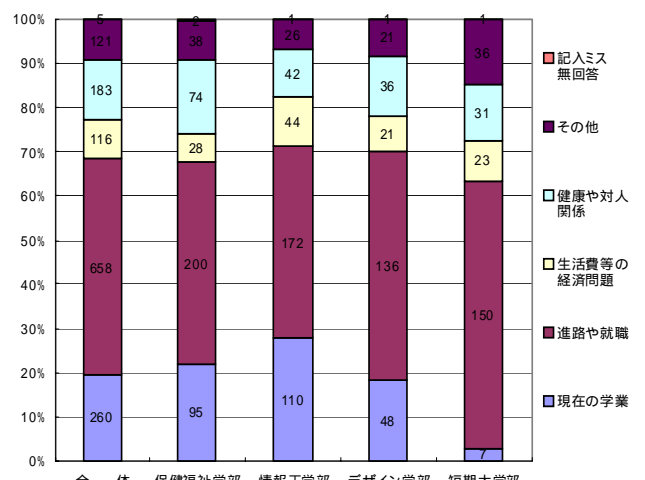


平成16年度

問6 現在どのような悩みがありますか

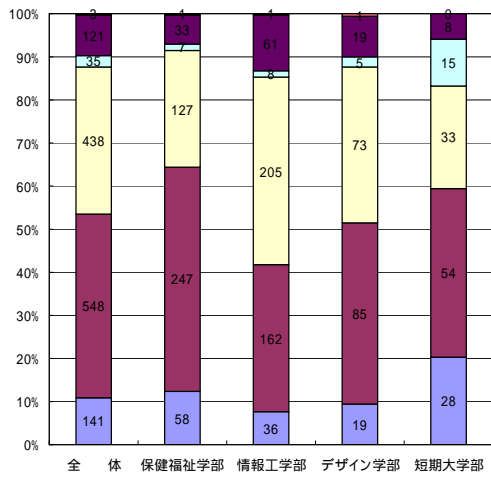


平成18年度

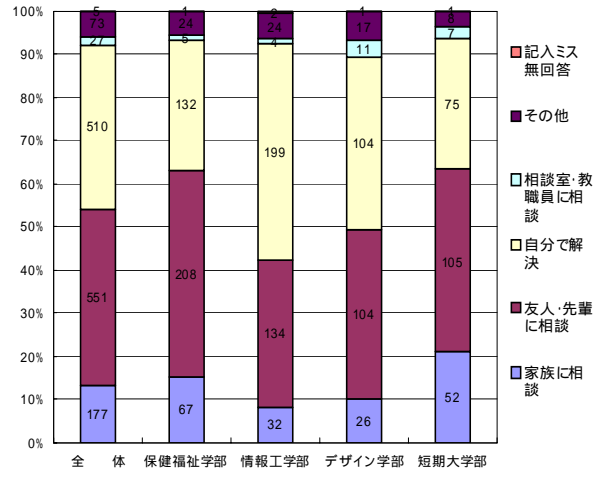


平成16年度

問7 悩みにはどのように対処していますか

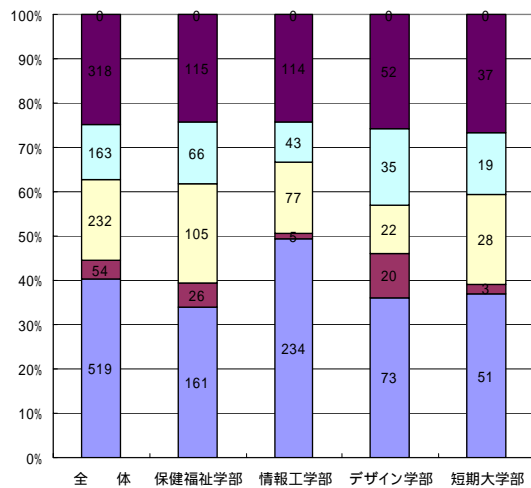


平成18年度

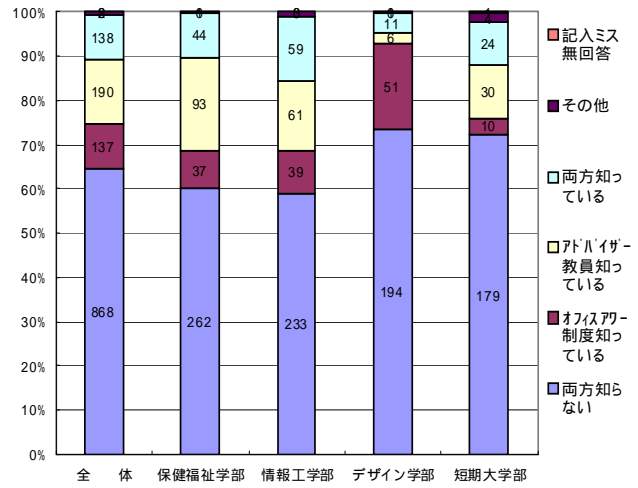


平成16年度

問8 オフィスアワー制度・アドバイザー教員を知っていますか

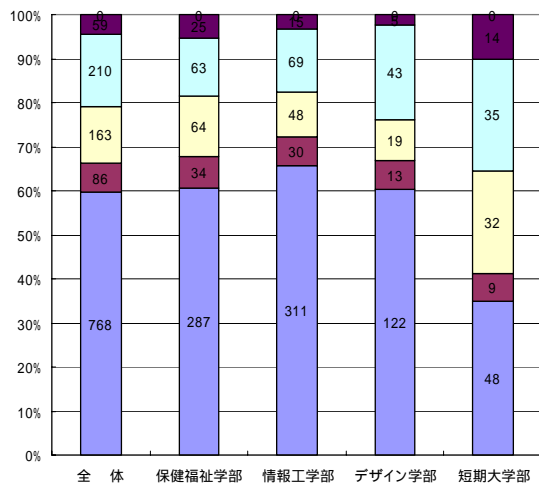


平成18年度

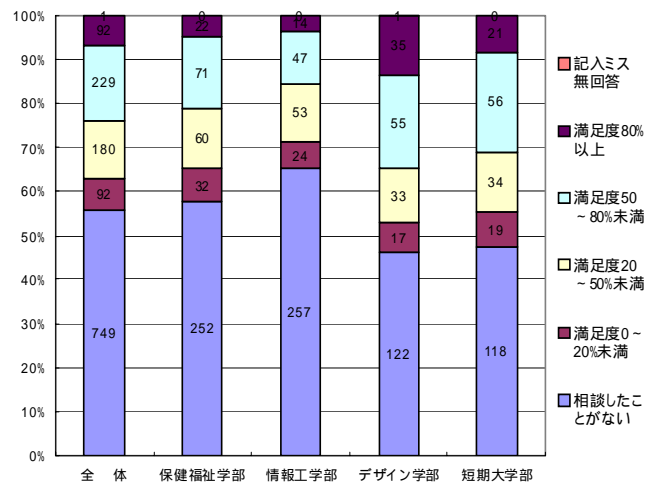


平成16年度

問9 教員に勉学・学生生活の相談をしての満足度

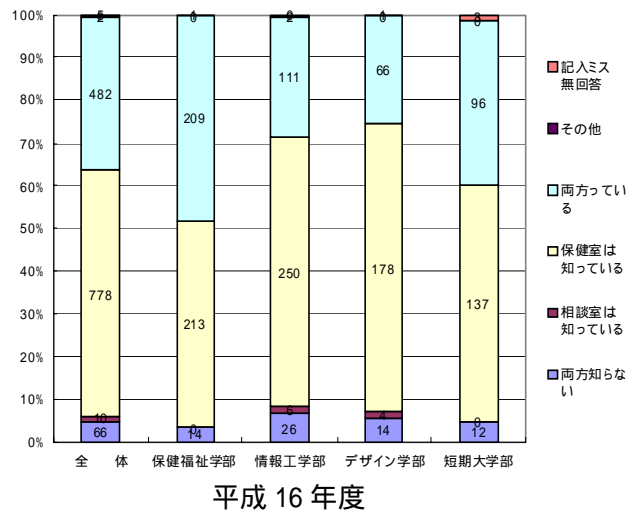
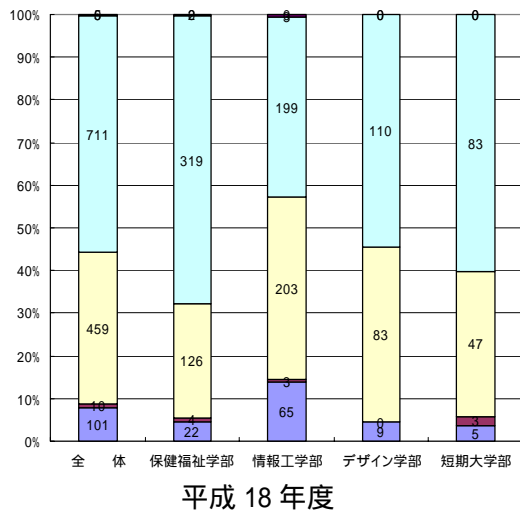


平成18年度

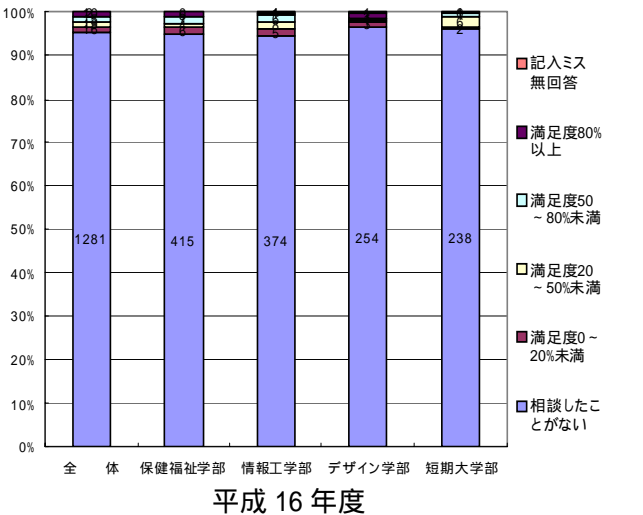
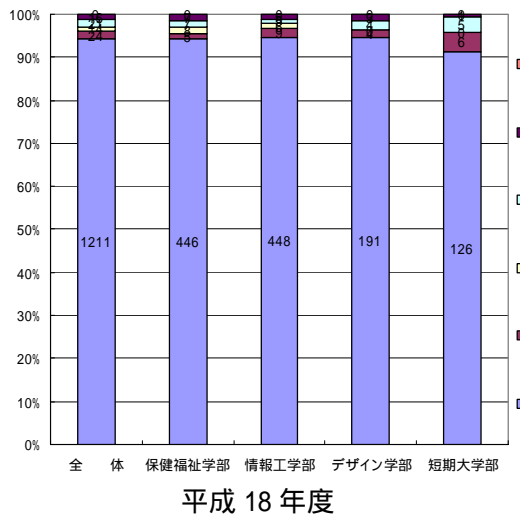


平成16年度

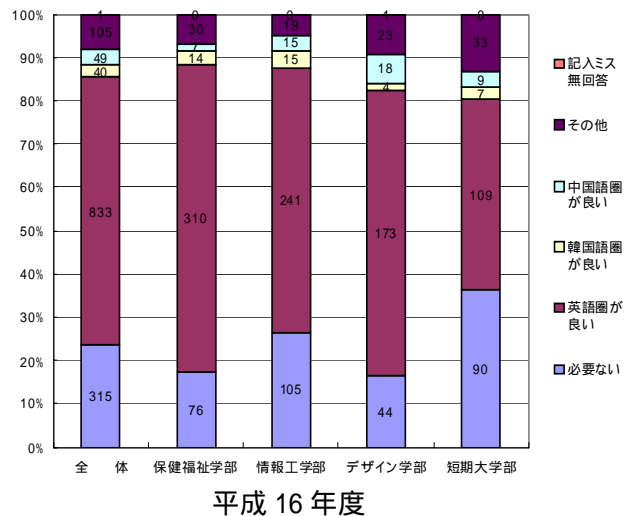
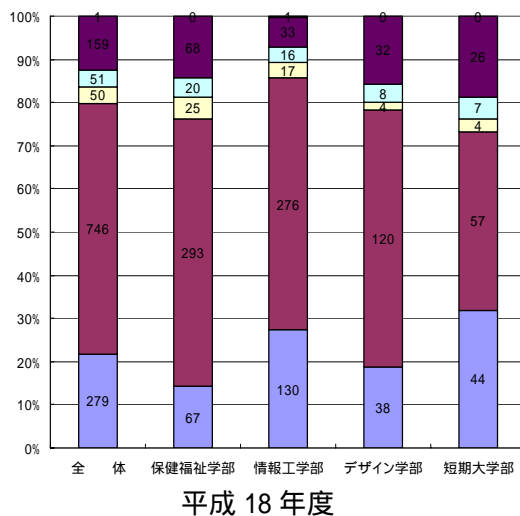
問 10 相談室・保健室の場所を知っていますか



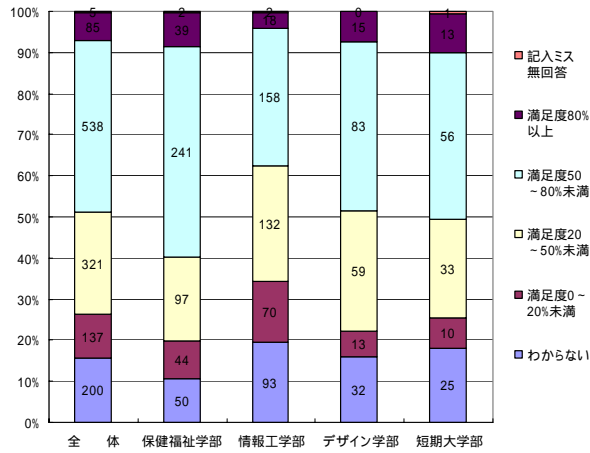
問 11 学生相談室を利用するの満足度



問 12 本学海外語学研修に対する考えを教えてください

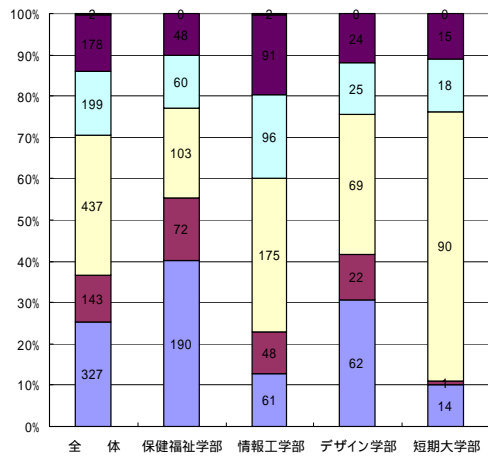


問 13 本学の教育に満足していますか

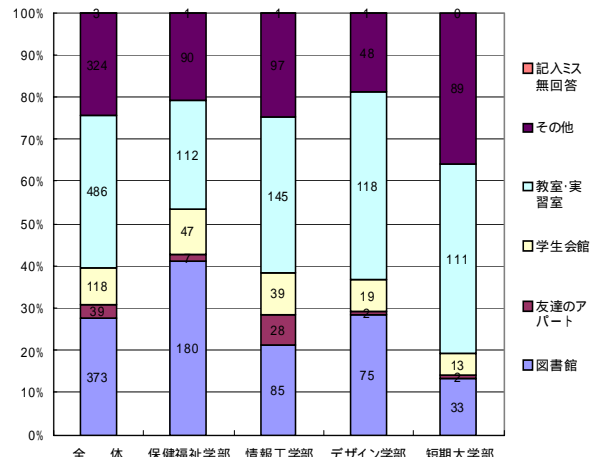


平成 18 年度

問 14 平日授業がない時間帯はどこにいますか

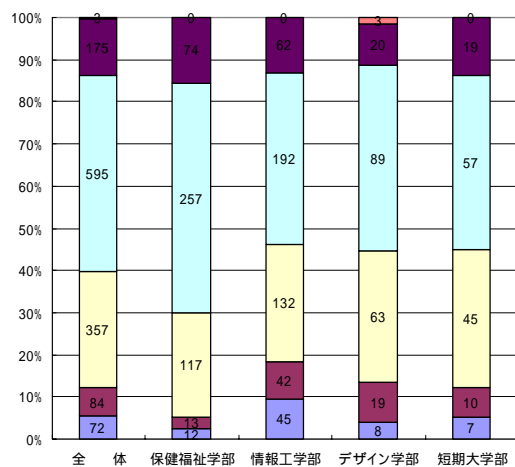


平成 18 年度

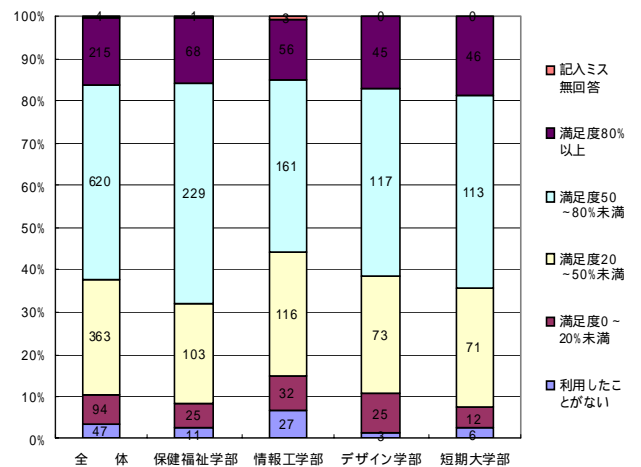


平成 16 年度

問 15 課外に図書館を利用するの満足度

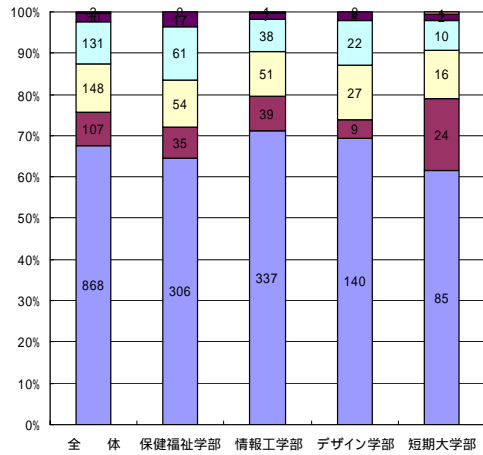


平成 18 年度

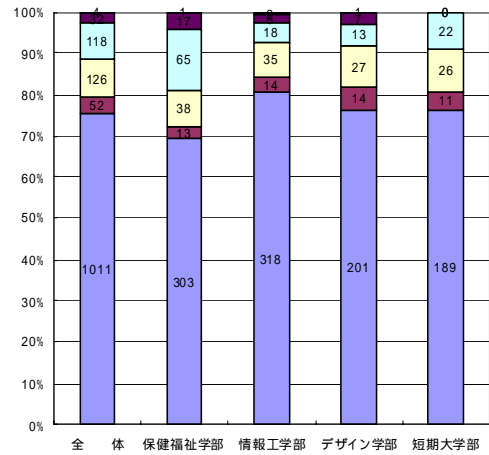


平成 16 年度

問 16 課外に語学センターを利用しての満足度

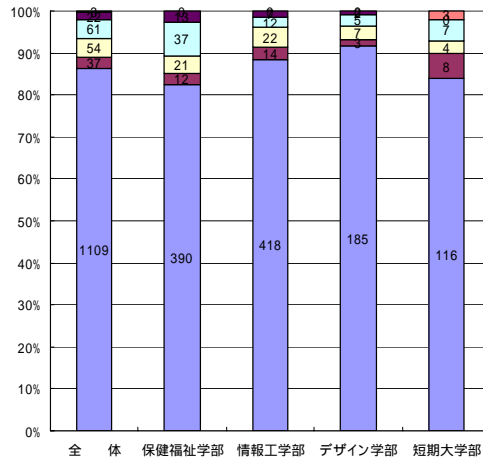


平成 18 年度

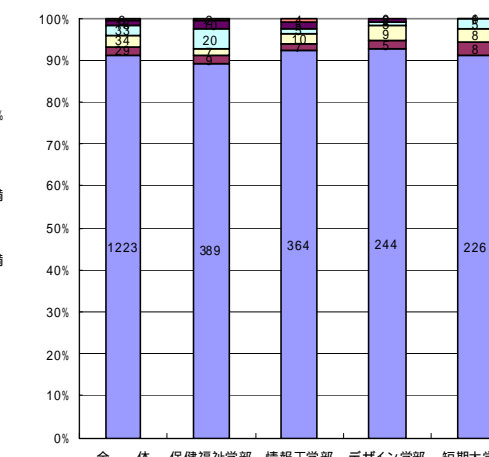


平成 16 年度

問 17 課外に情報教育センターを利用しての満足度

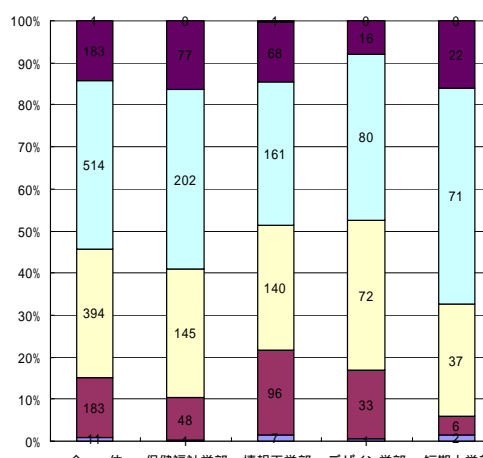


平成 18 年度

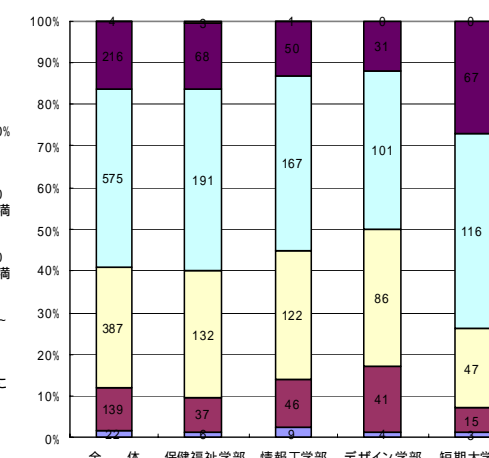


平成 16 年度

問 18 食堂(1F)・喫茶(2F)を利用しての満足度

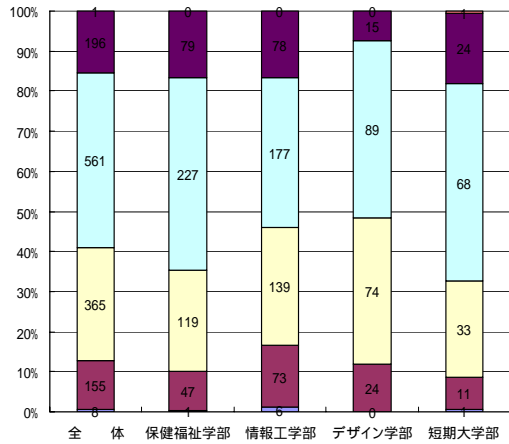


平成 18 年度

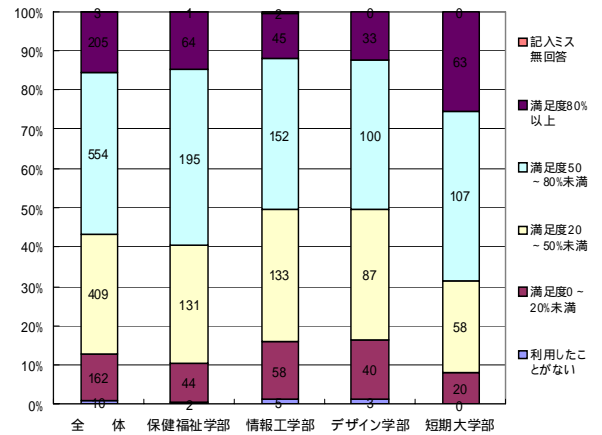


平成 16 年度

問 19 売店を利用しての満足度

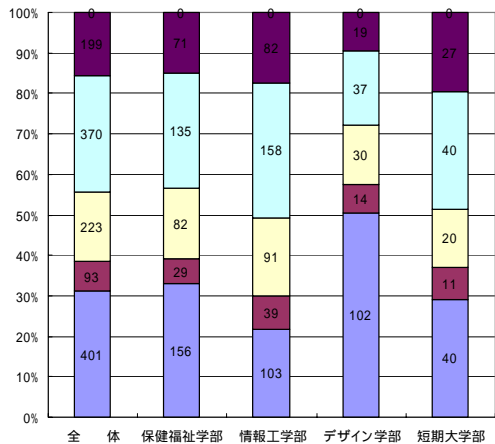


平成 18 年度

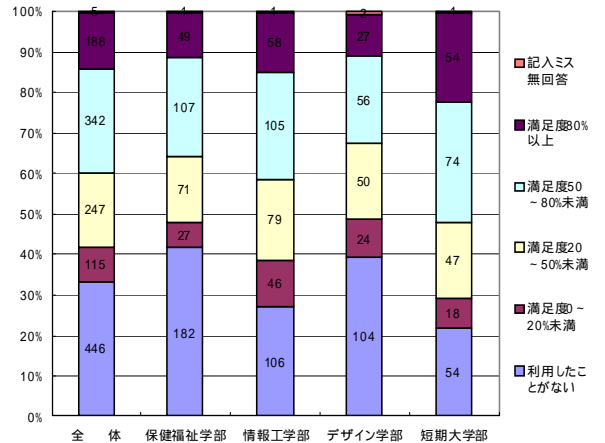


平成 16 年度

問 20 課外に運動施設を利用しての満足度

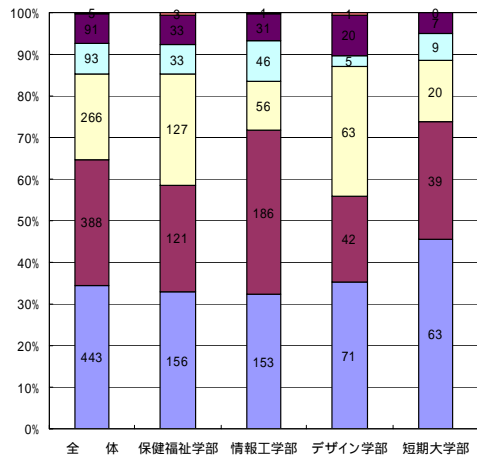


平成 18 年度

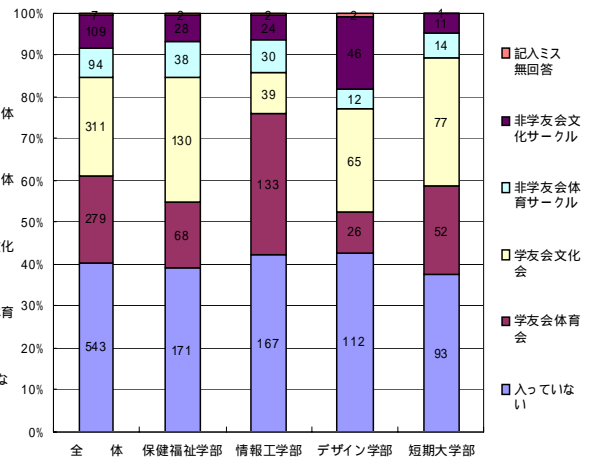


平成 16 年度

問 21 学生団体への加入について教えてください

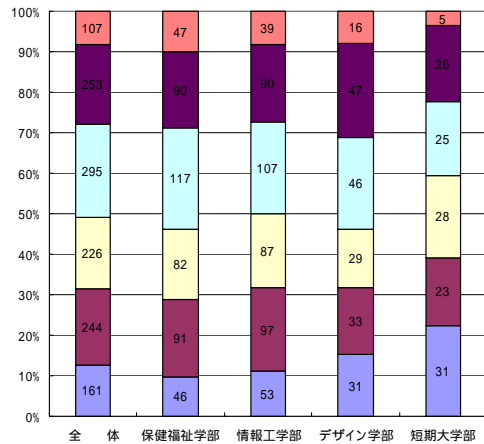


平成 18 年度

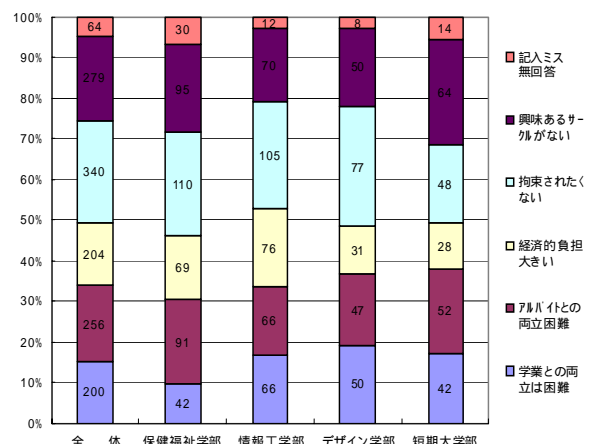


平成 16 年度

問 22 サークル活動で思うことを教えてください

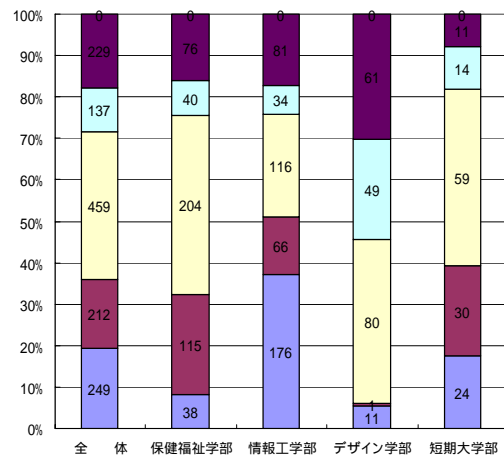


平成 18 年度

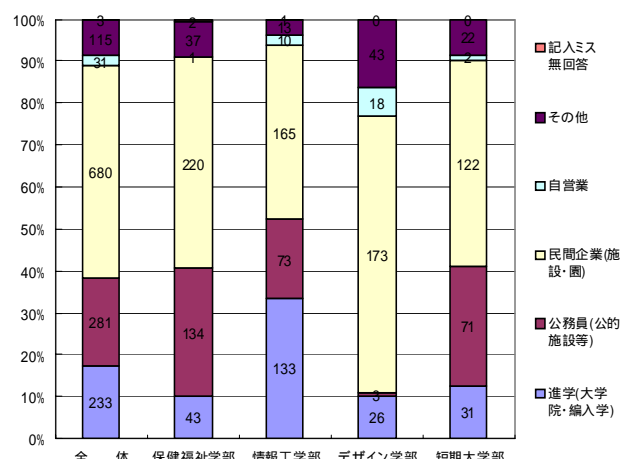


平成 16 年度

問 23 卒業後の進路の第一希望は何ですか

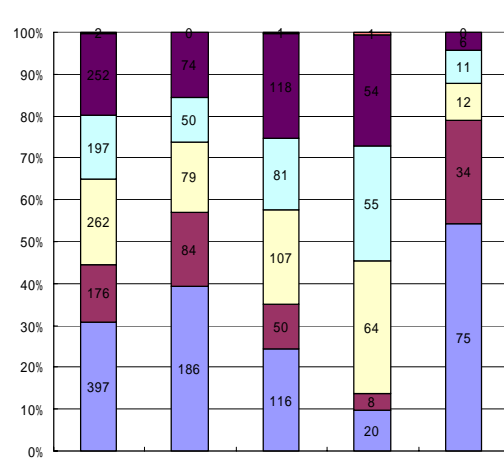


平成 18 年度

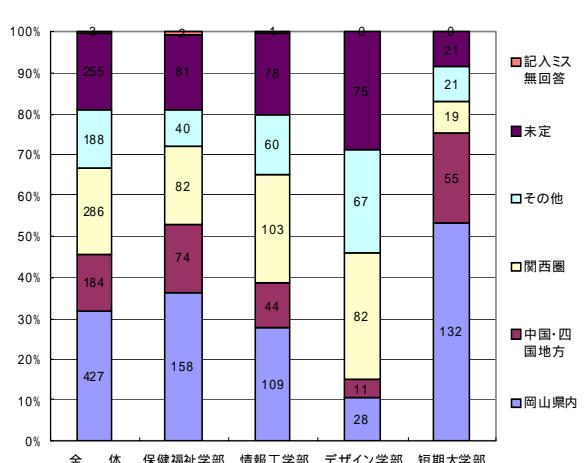


平成 16 年度

問 24 希望する就職地域はどこですか

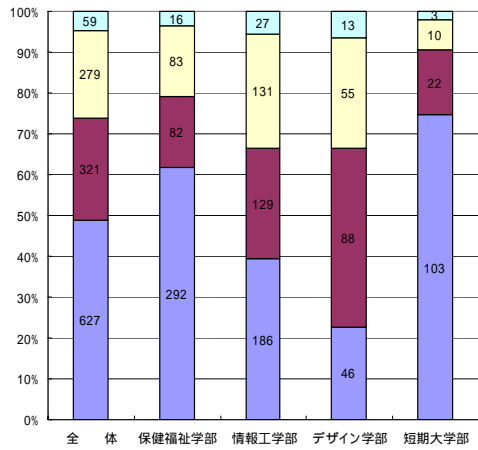


平成 18 年度

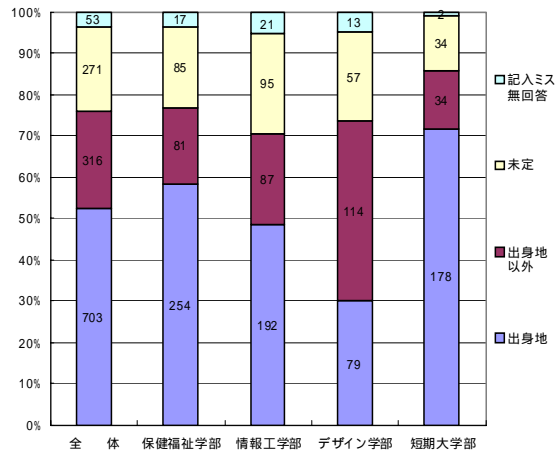


平成 16 年度

問 25 希望する就職地域は出身地ですか

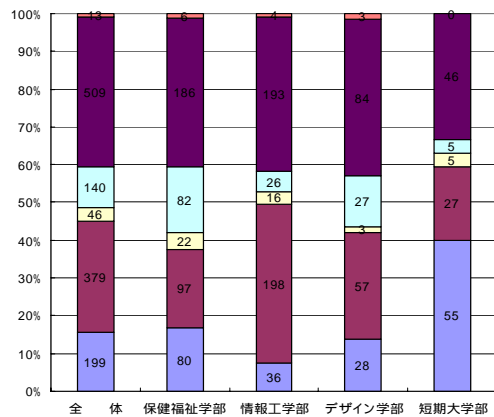


平成 18 年度

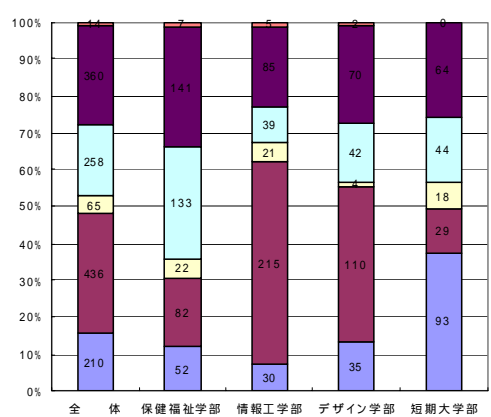


平成 16 年度

問 26 就職情報をどのようにして得ていますか

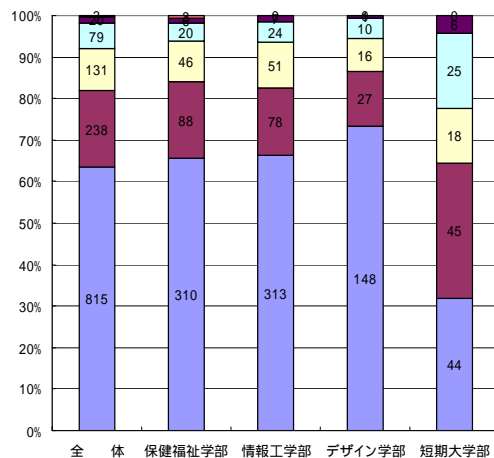


平成 18 年度

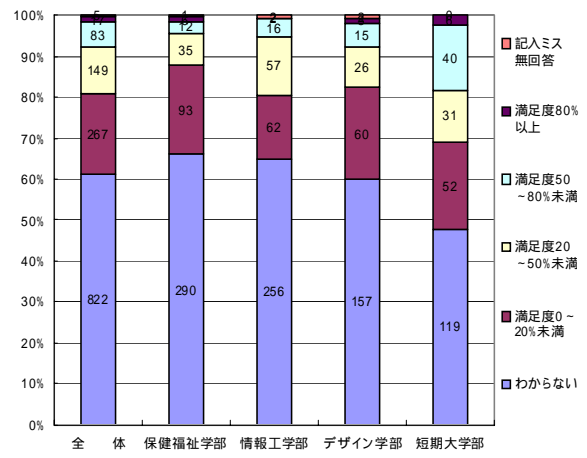


平成 16 年度

問 27 本学の就職支援体制に対する満足度

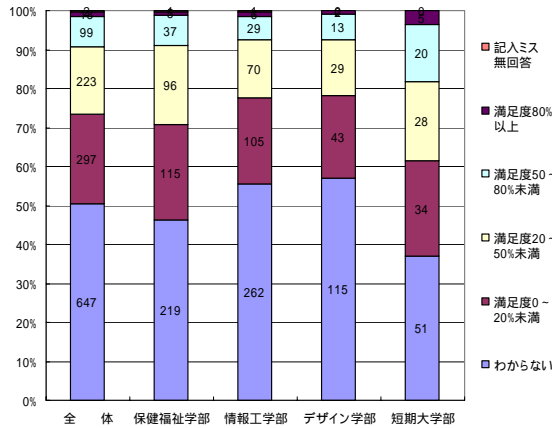


平成 18 年度

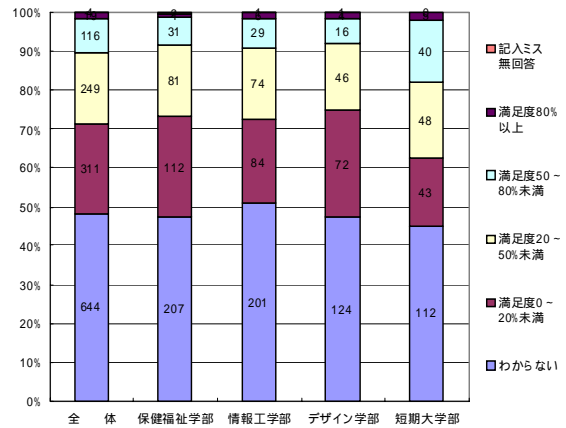


平成 16 年度

問 28 教務関係の情報提供に対する満足度

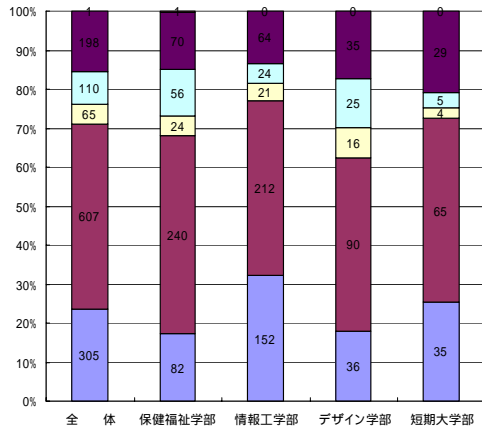


平成 18 年度

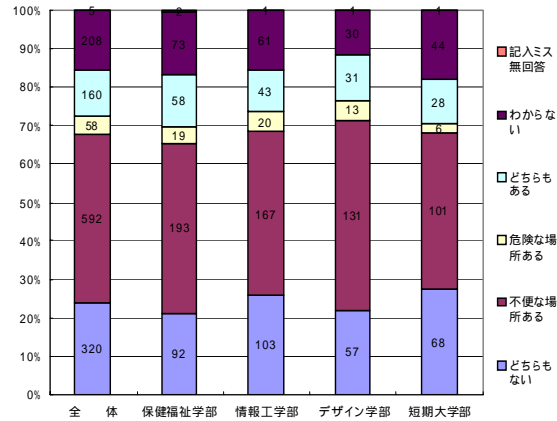


平成 16 年度

問 29 危険・不便を感じる場所がありますか

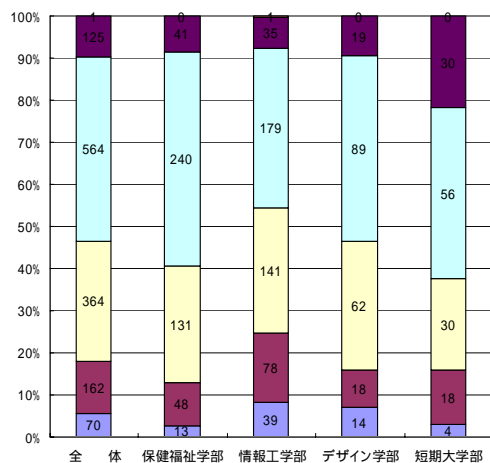


平成 18 年度

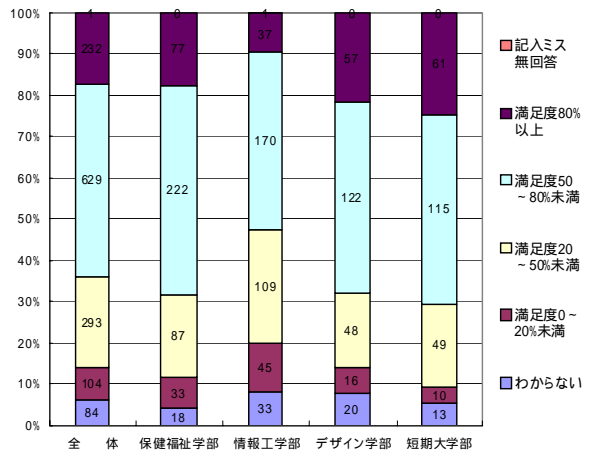


平成 16 年度

問 30 本学での大学生活に満足していますか



平成 18 年度



平成 16 年度

A5. 卒業時アンケートの集計結果（平成 17 年度）

問 1 入学年は（1.平成 16 年，2.平成 15 年，3.平成 14 年，4.平成 13 年，5.平成 12 年以前）

| 学 部 | 回答1 | 回答2 | 回答3 | 回答4 | 回答5 |
|--------|------|-----|------|------|-----|
| 保健福祉学部 | 5.1 | 0.8 | 88.1 | 4.2 | 1.7 |
| 情報工学部 | 1.0 | 1.0 | 82.8 | 15.2 | 0.0 |
| デザイン学部 | 0.0 | 0.0 | 98.5 | 0.0 | 1.5 |
| 短期大学部 | 94.7 | 4.5 | 0.0 | 0.8 | 0.0 |

問 2 入学試験は（1.前/中/後期日程入試，2.一般入試（短大），3.推薦入試，4.編入学，5.私費外国人留学生/帰国子女特別選抜/社会人特別選抜）

| 学 部 | 回答1 | 回答2 | 回答3 | 回答4 | 回答5 |
|--------|------|------|------|-----|-----|
| 保健福祉学部 | 67.8 | 1.7 | 24.6 | 5.9 | 0.0 |
| 情報工学部 | 73.7 | 2.0 | 22.2 | 2.0 | 0.0 |
| デザイン学部 | 78.8 | 3.0 | 18.2 | 0.0 | 0.0 |
| 短期大学部 | 0.8 | 66.2 | 28.6 | 2.3 | 2.3 |

問 3 入学前に、あなたが本学の教育に最も期待していた（求めていた）ものは何でしたか。（1.豊かな教養，2.学問の体験，3.専門知識・技術，4.資格・学歴，5.その他）

| 学 部 | 回答1 | 回答2 | 回答3 | 回答4 | 回答5 |
|--------|------|-----|------|------|-----|
| 保健福祉学部 | 11.0 | 7.6 | 61.0 | 19.5 | 0.8 |
| 情報工学部 | 14.1 | 5.1 | 66.7 | 8.1 | 6.1 |
| デザイン学部 | 4.5 | 6.1 | 84.8 | 0.0 | 4.5 |
| 短期大学部 | 9.8 | 6.8 | 54.1 | 24.1 | 5.3 |

問 4 入学して、あなたが本学に求めていたものは得られましたか。

（1.全然得られなかった，2.あまり得られなかった，3.どちらとも言えない，4.ある程度得られた，5.十分に得られた）

| 学 部 | 回答1 | 回答2 | 回答3 | 回答4 | 回答5 |
|--------|-----|------|------|------|------|
| 保健福祉学部 | 0.8 | 2.5 | 6.8 | 64.4 | 25.4 |
| 情報工学部 | 1.0 | 11.1 | 16.2 | 62.6 | 9.1 |
| デザイン学部 | 0.0 | 3.0 | 9.1 | 60.6 | 27.3 |
| 短期大学部 | 0.8 | 0.0 | 7.5 | 39.8 | 51.9 |

問 5～問 6 「予習・復習」（レポート作成 等を含む）に、1日当たり平均何時間を当てましたか。

問 5 最終学年の1年間は

（1.ほとんどしなかった，2.0.5時間程度，3.1時間程度，4.2時間程度，5.3時間程度以上）

| 学 部 | 回答1 | 回答2 | 回答3 | 回答4 | 回答5 |
|--------|------|------|------|------|------|
| 保健福祉学部 | 10.2 | 8.5 | 24.6 | 31.4 | 25.4 |
| 情報工学部 | 14.1 | 12.1 | 32.3 | 16.2 | 25.3 |
| デザイン学部 | 24.2 | 12.1 | 15.2 | 9.1 | 39.4 |
| 短期大学部 | 36.8 | 25.6 | 19.5 | 13.5 | 4.5 |

問6 最終学年に達するまでは

(1. ほとんどしなかった, 2. 0.5時間程度, 3. 1時間程度, 4. 2時間程度, 5. 3時間程度以上)

| 学 部 | 回答1 | 回答2 | 回答3 | 回答4 | 回答5 |
|--------|------|------|------|------|------|
| 保健福祉学部 | 17.8 | 16.1 | 35.6 | 22.9 | 7.6 |
| 情報工学部 | 19.2 | 16.2 | 46.5 | 15.2 | 3.0 |
| デザイン学部 | 15.2 | 19.7 | 24.2 | 13.6 | 27.3 |
| 短期大学部 | 23.3 | 22.6 | 32.3 | 15.0 | 6.8 |

問7～問10 次の科目群は、あなたの成長にどの程度効果がありましたか。

問7 全学教育科目 / 教養科目

(1. 全くなかった, 2. なかった, 3. どちらともいえない, 4. あった, 5. 大いにあった)

| 学 部 | 回答1 | 回答2 | 回答3 | 回答4 | 回答5 |
|--------|-----|------|------|------|------|
| 保健福祉学部 | 3.4 | 8.5 | 29.7 | 51.7 | 6.8 |
| 情報工学部 | 2.0 | 9.1 | 29.3 | 53.5 | 6.1 |
| デザイン学部 | 1.5 | 19.7 | 42.4 | 33.3 | 3.0 |
| 短期大学部 | 0.8 | 2.3 | 16.5 | 58.6 | 21.8 |

問8 学部教育科目 / 専門科目の講義

(1. 全くなかった, 2. なかった, 3. どちらともいえない, 4. あった, 5. 大いにあった)

| 学 部 | 回答1 | 回答2 | 回答3 | 回答4 | 回答5 |
|--------|-----|-----|------|------|------|
| 保健福祉学部 | 0.8 | 0.0 | 4.2 | 53.4 | 41.5 |
| 情報工学部 | 0.0 | 4.0 | 18.2 | 64.6 | 13.1 |
| デザイン学部 | 0.0 | 1.5 | 7.6 | 45.5 | 45.5 |
| 短期大学部 | 0.8 | 0.0 | 6.0 | 53.4 | 39.8 |

問9 実験・実習・演習

(1. 全くなかった, 2. なかった, 3. どちらともいえない, 4. あった, 5. 大いにあった)

| 学 部 | 回答1 | 回答2 | 回答3 | 回答4 | 回答5 |
|--------|-----|-----|------|------|------|
| 保健福祉学部 | 0.0 | 0.8 | 4.2 | 37.3 | 57.6 |
| 情報工学部 | 1.0 | 3.0 | 15.2 | 44.4 | 36.4 |
| デザイン学部 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 27.3 | 72.7 |
| 短期大学部 | 0.8 | 0.0 | 3.8 | 26.5 | 68.9 |

問 10 卒業研究 / 特別研究 / ゼミ研究 (短大:履修しなかった人は回答不要)

(1. 全くなかった, 2. なかった, 3. どちらともいえない, 4. あった, 5. 大いにあった)

| 学 部 | 回答1 | 回答2 | 回答3 | 回答4 | 回答5 |
|--------|-----|-----|------|------|------|
| 保健福祉学部 | 0.8 | 0.0 | 6.8 | 35.6 | 56.8 |
| 情報工学部 | 0.0 | 3.0 | 12.1 | 38.4 | 46.5 |
| デザイン学部 | 0.0 | 0.0 | 3.0 | 30.3 | 66.7 |
| 短期大学部 | 0.8 | 2.4 | 7.3 | 37.1 | 52.4 |

問 11 全学教育科目 / 教養科目 (英語を除く) の取組みについて尋ねます。

(1. 興味なく勉強もしなかった, 2. 単位をとるために勉強した, 3. 一部は興味が持てた, 4. 多くは興味を持って勉強した, 5. 全てが興味深かった)

| 学 部 | 回答1 | 回答2 | 回答3 | 回答4 | 回答5 |
|--------|-----|------|------|------|-----|
| 保健福祉学部 | 0.0 | 22.0 | 53.4 | 22.0 | 2.5 |
| 情報工学部 | 1.0 | 42.4 | 47.5 | 9.1 | 0.0 |
| デザイン学部 | 1.5 | 31.8 | 57.6 | 9.1 | 0.0 |
| 短期大学部 | 3.0 | 15.2 | 43.2 | 30.3 | 8.3 |

問 12 在学中にあなたの英語力は伸びましたか。

(1. 英語力は低下した, 2. 変化はなかった, 3. 授業以外の勉強により伸びた, 4. 授業が役立ち伸びた, 5. 授業と自学自習の双方で伸びた)

| 学 部 | 回答1 | 回答2 | 回答3 | 回答4 | 回答5 |
|--------|------|------|-----|-----|-----|
| 保健福祉学部 | 50.8 | 30.5 | 9.3 | 5.1 | 4.2 |
| 情報工学部 | 34.3 | 47.5 | 9.1 | 8.1 | 1.0 |
| デザイン学部 | 48.5 | 43.9 | 6.1 | 1.5 | 0.0 |
| 短期大学部 | 29.3 | 54.1 | 6.8 | 8.3 | 1.5 |

問 13, 14 卒業研究 / 特別研究 / ゼミ研究について。

問 13 取組みは (1. 履修しなかった, 2. 単位をとるために取組んだ, 3. 有益と思って取組んだ, 4. 興味を持って積極的に取組んだ, 5. 真剣に取組んだ)

| 学 部 | 回答1 | 回答2 | 回答3 | 回答4 | 回答5 |
|--------|-----|------|------|------|------|
| 保健福祉学部 | 0.0 | 14.4 | 21.2 | 28.8 | 35.6 |
| 情報工学部 | 0.0 | 25.3 | 22.2 | 29.3 | 23.2 |
| デザイン学部 | 0.0 | 6.1 | 18.2 | 21.2 | 54.5 |
| 短期大学部 | 5.3 | 9.8 | 13.6 | 34.1 | 37.1 |

問 14 最大の成果は (1. 意義はなかった / 履修しなかった, 2. 自主的に課題に取り組めるようになった, 3. 発見や創造の楽しさを実感できた, 4. 講義では得られない知識・スキルが学べた, 5. 課題解決の方法を学べた)

| 学 部 | 回答1 | 回答2 | 回答3 | 回答4 | 回答5 |
|--------|-----|------|------|------|------|
| 保健福祉学部 | 1.7 | 6.8 | 31.4 | 48.3 | 11.9 |
| 情報工学部 | 3.0 | 13.1 | 29.3 | 43.4 | 11.1 |
| デザイン学部 | 0.0 | 6.1 | 53.0 | 37.9 | 3.0 |
| 短期大学部 | 7.6 | 8.3 | 34.1 | 41.7 | 8.3 |

問 15 あなたが本学の教育で最も身につけた能力は何ですか。

(1. 課題解決能力, 2. コミュニケーション能力, 3. 物事を広く考える力, 4. 自らの能力をみがき, 発展させる力, 5. その他)

| 学 部 | 回答1 | 回答2 | 回答3 | 回答4 | 回答5 |
|--------|------|------|------|------|------|
| 保健福祉学部 | 7.6 | 13.6 | 42.4 | 28.8 | 7.6 |
| 情報工学部 | 12.1 | 16.2 | 33.3 | 27.3 | 11.1 |
| デザイン学部 | 9.1 | 12.1 | 30.3 | 34.8 | 13.6 |
| 短期大学部 | 3.0 | 24.2 | 40.2 | 23.5 | 9.1 |

問 16 問 15 で選んだ能力を, 今の社会で発揮できると思いますか。

(1. 全く発揮できない, 2. あまり発揮できない, 3. 分からない, 4. 多分発揮できる, 5. 十分発揮できる)

| 学 部 | 回答1 | 回答2 | 回答3 | 回答4 | 回答5 |
|--------|-----|-----|------|------|------|
| 保健福祉学部 | 0.0 | 0.8 | 15.3 | 62.7 | 21.2 |
| 情報工学部 | 0.0 | 4.0 | 38.4 | 46.5 | 11.1 |
| デザイン学部 | 0.0 | 1.5 | 24.2 | 45.5 | 28.8 |
| 短期大学部 | 0.8 | 2.3 | 14.3 | 51.1 | 31.6 |

問 17 本学での4年間/2年間の教育を振り返って, 全般的に満足でしたか。

(1. 不満足, 2. どちらかといえば不満, 3. どちらでもない, 4. どちらかといえば満足, 5. 満足)

| 学 部 | 回答1 | 回答2 | 回答3 | 回答4 | 回答5 |
|--------|-----|-----|------|------|------|
| 保健福祉学部 | 0.8 | 0.0 | 5.9 | 43.2 | 50.0 |
| 情報工学部 | 4.0 | 9.1 | 18.2 | 50.5 | 18.2 |
| デザイン学部 | 0.0 | 3.0 | 10.6 | 34.8 | 51.5 |
| 短期大学部 | 0.8 | 0.8 | 4.5 | 24.2 | 69.7 |